

SUSTAINABILITY

サステナビリティ

私たちは創始者 中島董一郎の「食を通じて社会に貢献する」という精神を受け継ぎ、社会課題の解決に取り組んでいます。多様なステークホルダーとの対話や連携を通じて、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的成長の実現をめざします。



トップメッセージ



サステナビリティ
マネジメント



キューピーのサステナビリティ活動

サステナビリティに向けての重点課題の取り組みをご紹介します。



健康な食生活への取り組み



食育を中心とした社会への
取り組み



環境への取り組み

ガバナンス



人と働き方への
取り組み



安全・安心への
取り組み



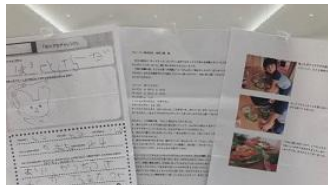


2021/06/18

(食育)

「三ツ星タマリエ」と社内資格
「たまごスター」取得で卵の魅
力発信！

こんにちは。 キューピータマゴ
株式会社 総務部村中...



2021/06/16

(食育)

【挙母工場】「キッズクック」に
嬉しいお手紙！

こんにちは。 キューピー株式会
社 研究開発本部の栗...



2021/06/11

(社会)

(食育)

「にじいろクレヨン」初訪問
こんにちは。 キューピー株式会
社 東北支店の原田千...



2021/06/09

(食育)

【マヨテラス】病院と笑顔でつ
ながるオンライン見学

こんにちは。 キューピー株式会
社 マヨテラス運営チ...

更新情報

[一覧を見る](#)

2021/06/01

＞「おしえて!キューピー 野菜のこと。」サイトを更新しました

2021/05/27

＞キューピーグループ人権方針を策定しました

2021/05/27

＞サステナビリティサイトを更新しました

2021/05/10

＞第35回「家族でわくわくクッキング」開催中止のお知らせ

2021/04/08

＞キューピーグループ コミュニケーションブックを更新しました

ニュースリリース

[一覧を見る](#)

2021/06/07 No.56

＞キューピー テイスティドレッシング全品に再生プラスチックを含む
容器を採用

2021/06/01 No.53

＞キューピーの食育活動「オープンキッチン」オンライン見学コース 申
し込みサイトを開設

2021/05/28 No.51

＞キューピーみらいたまご財団 第8回「地域の居場所づくりサミット」
を開催

2021/05/27 No.50

＞「サステナビリティサイト」を更新 サステナビリティ目標の見直し
と、キューピーグループ人権方針を策定

2021/05/18 No.48

＞キューピーの食育活動をハイブリッド化 ①「マヨネーズ教室」②「食
をテーマにした講演会」



開示方針

キューピーグループのサステナビリティ情報の開示方針や対象期間・対象組織などについてご紹介します。



各種報告書

各種報告書はこちらからダウンロードできます。



GRIスタンダード対照表

当サイトの情報と、GRIガイドラインとの対照表をご覧ください。



ESGデータ集

投資家の皆さまに向けてキューピーグループのESGデータを一覧にまとめました。



社外からの評価

キューピーグループの社外からいただいた評価についてご紹介します。



社会・環境活動の歴史

キューピーグループの社会・環境活動の歴史をご紹介します。



キューピーグループ オフィシャルブログ

従業員より、社会・環境への取り組みを発信しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取り組
み +

食育を中心とした社会へ
の取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

トップメッセージ



キューピーグループを取り巻く環境が大きく変化する中、2021年を初年度とする4年間の中期経営計画を策定しました。「持続的な成長を実現する体質への転換」をテーマとし、大きな変動にも揺るがない企業体質をめざします。

> 中期経営計画

近年、社会や地球環境の急激な変化に伴い、私たちの生活と食を取り巻く環境においては、さまざまな課題が顕在化しています。そのような状況の中、キューピーグループ全体で取り組むために、経営方針の一つとして「社会・地球環境への取り組みを強化」を位置付けました。

そして、国連の持続可能な開発目標(SDGs)を参考に「**食と健康への貢献**」「**資源の有効活用・循環**」「**気候変動への対応**」を重点課題に掲げ、2030年までに取り組む内容を指標化したサステナビリティ目標を設定しました。

「食と健康への貢献」については、生涯にわたって心身ともに健康であり続けるために、サラダとタマゴを中心にそれぞれの世代に適した健康的な食生活を応援していきます。

「資源の有効活用・循環」では、これまで進めてきた卵殻100%再資源化に加え、パッケージサラダの主要原料であるキャベツの芯や外葉など未利用部を発酵させて肥料や飼料にし、契約農家に提供するなど、資源の有効活用・循環に積極的に取り組んでいきます。

また「気候変動への対応」においては、製造工程の見直しや再生可能エネルギーへの転換などによりCO₂の排出抑制を進めていきます。

創始者の中島重一郎は「食を通じて社会に貢献する」ことを自らの志としていました。

私たちはその想いを受け継ぎ、「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」をもって世界の食と健康に貢献するとともに、未来を創る子どもたちにより良い社会と地球環境を残すことができるよう、取り組みを強化していきます。

> 重点課題と推進体制

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント

重点課題と推進体制 >

ステークホルダーとの対話 >

社外からの評価 >

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

サステナビリティマネジメント

キューピーグループは、社会の持続可能性向上への貢献と企業の持続的な成長のために、「サステナビリティの基本的な考え方」を定めています。その考えに基づき「サステナビリティに向けての重点課題」を特定しました。これらをサステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を中心に各テーマの分科会やプロジェクトと連携して取り組んでいます。

また、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様との対話を積極的に行っていきます。私たちは、さまざまなステークホルダーの皆様とともに社会課題の解決に協働して取り組み、「キューピーグループ 2030ビジョン」そしてキューピーグループの理念「めざす姿」の実現に向け推進していきます。



重点課題と推進体制

キューピーグループのサステナビリティにおける基本的な考え方や取り組む重点課題、サステナビリティ目標達成に向けた推進体制を示します。



ステークホルダーとの対話

ステークホルダーの皆様への姿勢と主な対話の手段についてご紹介します。



社外からの評価

キューピーグループの社外からの評価についてご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント

重点課題と推進体制 >

ステークホルダーとの対話 >

社外からの評価 >

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

重点課題と推進体制

私たちは、グループの理念と規範の実践を通じて、社会に貢献し続ける企業グループでありたいと考えます。その基本的な考え方と推進体制、グループが取り組む重点課題とそれにひも付くサステナビリティ目標を示します。

加えて、サステナビリティの実現に向けた社内浸透を推進しています。

サステナビリティの基本的な考え方

キューピーグループの考えるサステナビリティとは、グループの理念と規範の実践を通じて、持続可能な社会の実現に貢献するとともに、グループの持続的な成長の基盤とすることです。

サステナビリティ推進体制

サステナビリティ委員会は、担当取締役を委員長とし、サステナビリティ目標の達成に向けた方針・計画策定および取り組みを推進しており、年2回委員会を開催しています。

重点課題に対する目標・取り組みについて、分科会や連携するプロジェクトで検討し、グループ内への浸透と定着を図っています。

また、リスクマネジメント委員会とも連携して、環境変化に対応し、経営基盤の強化を進めていきます。



サステナビリティに向けての重点課題

キューピーグループでは、持続可能な社会の実現への貢献とグループの持続的な成長をめざして、サステナビリティに向けての重点課題として以下の項目を設定しました。

- ・ 食と健康への貢献
- ・ 資源の有効活用・循環
- ・ 気候変動への対応

社会の変化に対応し、より多くの従業員がサステナビリティへの意識・視点をもって、広く関わる必要と考え、2021-2024年度で新たに策定した中期経営計画の経営方針に基づき、重点課題の見直しを行いました。それぞれの重点課題の取り組みについて指標（サステナビリティ目標）を設け、実践につなげていきます。

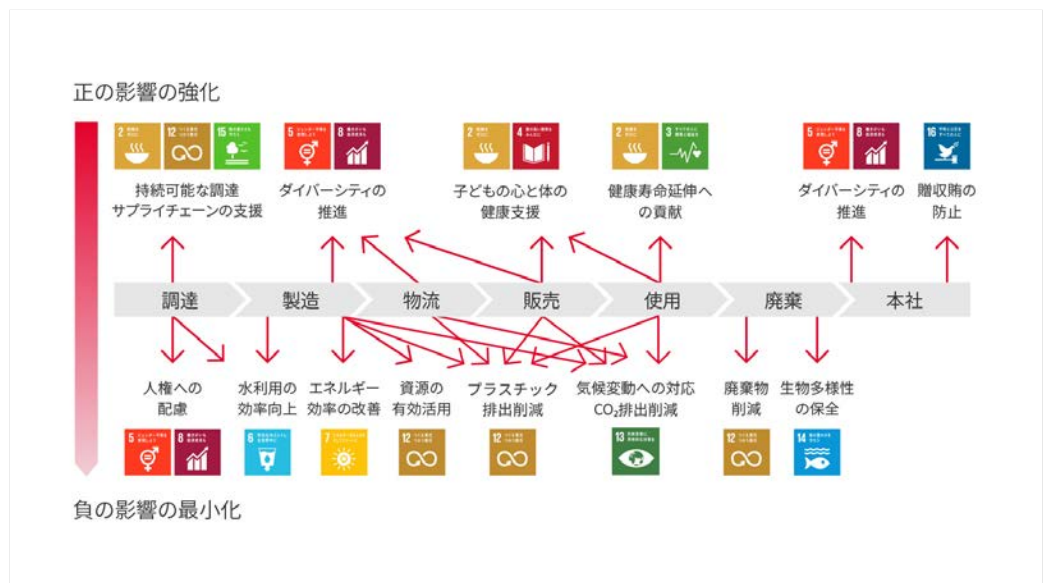
重点課題特定のプロセス

バリューチェーンにおけるリスクと機会の分析に加え、社会変化にともなうリスクと機会を分析し、「持続可能な開発目標(SDGs※1)」を参考にキューピーグループが事業を通じて取り組むべき社会課題を抽出しました。次に、社会課題ごとに、ステークホルダーからの期待の大きさとグループが与える社会への影響の大きさを評価することで、取り組みテーマを特定し、「サステナビリティに向けての重点課題」としました。

なお重要性の評価においては、サステナビリティの国際基準GRI、ISO26000、SASBおよび各種ESG評価などを参考に、「キューピーグループ 2030ビジョン」の考えを反映しています。

キューピーグループが取り組むべき社会課題の抽出

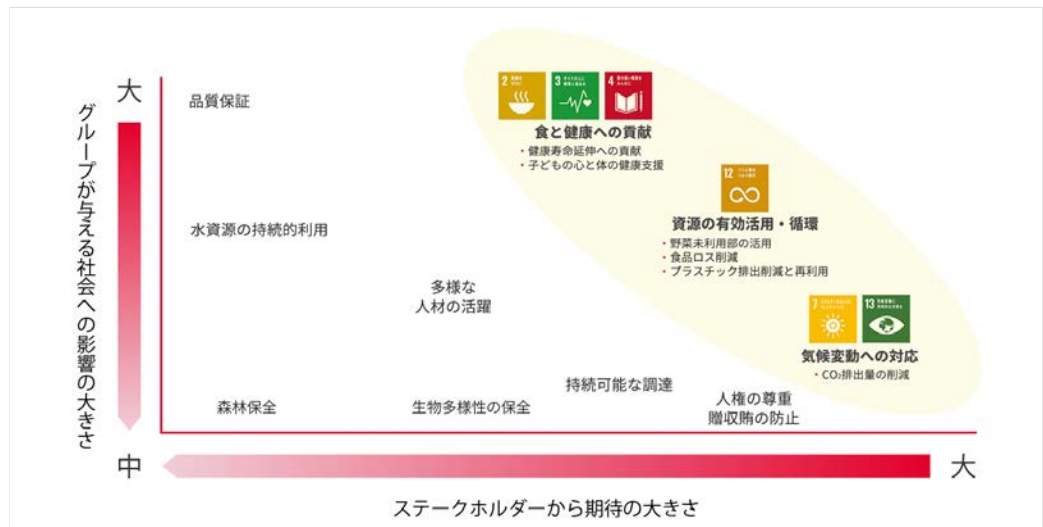
バリューチェーンにおけるリスクと機会



社会変化にともなうリスクと機会

分野	社会変化	リスクと機会
社会	・超高齢社会 ・新型コロナウイルス感染症の拡大 ・核家族や一人親世帯の増加 ・貧困・格差の拡大 ・多様な価値観の広がり	・健康志向の高まり ・外食機会の減少 ・食のコミュニケーション不足 ・食知識や体験への関心の低下 ・人権意識の高まり
地球環境	・気候変動、パリ協定 ・自然災害など不測の事態の増加 ・森林破壊・水資源の枯渇 ・農産物の質・収量低下	・脱炭素社会、エシカル消費 ・海洋プラスチック汚染 ・循環型社会の実現 ・食資源の不足、食品ロス削減 ・地球環境保護意識の高まり

サステナビリティに向けての重点課題の特定



※1 持続可能な開発目標 (SDGs)

SDGs (Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標) は、2015年に国連で採択された国際社会共通の目標です。持続可能な社会の実現に向けて2030年までに達成すべき17の目標で構成されています。

サステナビリティ目標 ～2030ビジョンの達成をめざして～

サステナビリティ目標は、それぞれ「サステナビリティに向けての重点課題」とひと付いており、キューピーグループとして取り組む内容を指標化したものです。

2019年に発表したサステナビリティ目標を、2021年度社会情勢を考慮して見直しを行いました。

「資源の有効活用・循環」においては、これまでの取り組みにプラスチック排出削減と再利用を目標に加えしました。

「気候変動への対応」では、気候危機緩和への貢献と適応策の実施により、製造工程の見直し、再生可能エネルギーの計画策定、モーダルシフト、農産物調達との連動を進めることにより目標を修正しました。

理念と規範の実践を通じてサステナビリティ目標達成に向けてバリューチェーン全体で連携し取り組んでいきます。

重点課題	取り組みテーマ	指標	2021 年度 実績	2024 年度 目標	2030 年度 目標	SDGs との関 連付け
食と健康 への貢献	健康寿命延伸への貢献  	一人ひとりの食のパートナーとして ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350gの達成に貢献 ・たんぱく質の摂取に貢献するために卵の消費量アップを推進				  
	子どもの心と体の健康支援 	私たちの活動で創る子どもの笑顔の数 (2019年度からの累計)	22.1万人	40万人以上	100万人以上	
資源の有効活用・循環	食品ロスの削減・有効活用 	食品残さ削減率 (2015年度比)	2022年度からの指標	50%以上	65%以上	
		野菜未利用部有効活用率 主要野菜：キャベツなど (当年)	62.1%	70%以上	90%以上	
		商品廃棄量削減率 (2015年度比)	61.3%	60%以上	70%以上	
	プラスチックの削減・再利用 	プラスチック排出量削減率 (2018年度比)	算定中	8%以上	30%以上	  
	水資源の持続的利用 	水使用量(原単位)削減率 (2020年度比)	2022年度からの指標	3%以上	10%以上	
気候変動への対応	CO ₂ 排出量の削減 	CO ₂ 排出量削減率 (2013年度比)	23.4%	30%以上	50%以上	 
持続可能な調達	持続可能な調達の推進 	お取引先との協働によって「持続可能な調達のための基本方針」を推進				 
人権の尊重	人権の尊重 	ビジネスに関わるすべての人の人権を尊重するために「キュービーグループ 人権方針」を推進				 

※2021年度の状況を鑑み、内容を一部見直ししています。また、「食品残さ削減率」の指標には「野菜未利用部有効活用率」も含まれています。

※サステナビリティ目標は国内の数値となっています。

従業員への浸透

社会の持続可能性と企業の持続的成長には、従業員一人ひとりが、その考えや方針を理解し共感することが重要と考えています。

社内広報

統合報告書やコミュニケーションブックなどを従業員教育へ活用しています。社内広報ではキューピーグループ社内報「iQP」、メールマガジン形式によるサステナビリティ通信「News」でのサステナビリティ情報を発信しています。



サステナビリティ通信「News」

キューピーグループ オフィシャルブログ

2007年3月にスタートした社会・環境への取り組みを社外発信する「キューピーグループ オフィシャルブログ」では、実際に取り組むグループ従業員が記事を執筆することで、従業員一人ひとりがサステナビリティへ共感することをめざしています。

[> キューピーグループ オフィシャルブログ](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント

重点課題と推進体制 >

ステークホルダーとの対話 >

社外からの評価 >

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

ステークホルダーとの対話

キューピーグループは、私たちの活動を支えていただいているお客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様との対話において、グループ理念・規範の考え方を実践していきます。

※2020.11.30時点の実績

	ステークホルダーへの姿勢	主な対話の手段(2020年度実績)
> お客様	行動規範のもと、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えしていきます。	・お客様相談室(お客様の声 26,814件/年) ・消費者志向自主宣言 ・コミュニティサイト「キューピーコミュニティおはなしダイニング」(会員数15,463人) ・コミュニティサイト「キューピー マヨネーズ ファンクラブ」(会員数98,711人)
> 従業員	倫理規範のもと、人権を尊重し差別やハラスメント行為を行わず、また行動規範のもと、従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重するダイバーシティを推進していきます。	・人事考課を含む育成面接 ・キャリア自己申告(1回/年) ・従業員意識調査(2年に1回) ・労使委員会 ・ダイバーシティ・アンケート ・ダイバーシティ・ディスカッション
> お取引先	倫理規範のもと、公正・自由な競争を行うとともに、透明で健全な関係を築き、相互の発展につなげます。	・営業活動を通じたお取引先とのコミュニケーション ・原材料調達先への定期・不定期訪問および現場交流会(30社/年) ※新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み訪問を控え、WEBでの打合せを実施 ・生産農家・団体との取り組み
> 株主・投資家	倫理規範のもと、透明で健全な関係を築いていくとともに、当社グループをより理解していただけるよう努めます。	・定時株主総会(1回/年)(事前にご意見をいただける工夫) ・アナリスト向け決算説明会(2回/年) ・株主優待見学会(0回/年) ※新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み開催見送り
> 地域社会	行動規範のもと、食育を中心とした社会貢献活動を積極的に行うことで、社会・地域とのより良い共生を図っていきます。	・オープンキッチン(工場見学)とマヨネーズの見学(21,016人/年) ※オンライン含む ・マヨネーズ教室(食育活動)(2,938人/年) ※オンライン含む ・食をテーマにした講演会(56回/年) ※オンライン含む ・介護に関するイベント(116回/年) ※ケアマネオンライン含む ・国内外各エリアにおける地域とのコミュニケーション

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント

重点課題と推進体制 >

ステークホルダーとの対話 >

社外からの評価 >

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

社外からの評価

ESG・SRIインデックスへの選定

MSCIジャパンESGセレクト・リーダーズ指数

MSCIはESGリサーチの最大手です。日本株の時価総額上位700銘柄の中から、各業種の中からESG格付けが相対的に高い銘柄を選別して構成する指数です。年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）の運用対象として採用され、キューピーは2017年の初回より継続して構成銘柄に選定されています。

2020 CONSTITUENT MSCIジャパン
ESGセレクト・リーダーズ指数

※ THE INCLUSION OF Kewpie Corporation. IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF Kewpie Corporation. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES.

キューピー株式会社のMSCIインデックスへの組み入れや、MSCIのロゴ、商標、サービスマークやインデックス名の使用は、MSCIまたはその関係会社によるキューピー株式会社の後援、宣伝、販売促進ではありません。MSCIインデックスはMSCIの独占的財産です。MSCIおよびMSCIインデックスの名称とロゴは、MSCIまたはその関係会社の商標またはサービスマークです。

S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数

年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）が選定したESG投資のための株式指数「S&P/JPX カーボン・エフィシエント指数」の構成銘柄に採用されています。環境評価のパイオニア的存在であるTrucostによる炭素排出量データをもとに、世界最大級の独立系指数会社であるS&Pダウ・ジョーンズ・インデックスが指数を構築しています。同業種内で炭素効率性が高い企業、温室効果ガス排出に関する情報開示を行なっている企業の投資比重を高めた指数です。



SOMPOサステナビリティ・インデックス

SOMPOアセットマネジメント株式会社が、調査会社によるESG評価を重視して独自に投資対象銘柄を選定するインデックスです。2012年8月から運用が開始された「SOMPOサステナブル運用」は、当インデックスに基づいて保有ウエイトが決定されています。キューピーは2019年度に初めて採用され、2年連続して採用されています。



認定

プラチナくるみん※認定

キューピーは「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定(くるみん認定)を通算7回受けています。2018年5月にプラチナくるみん※の認定を受けました。

※プラチナくるみんとは

2015年4月1日より、くるみん認定を既に受け、相当程度両立支援の制度の導入や利用が進み、高い水準の取り組みを行っている企業を評価しつつ、継続的な取り組みを促進するため、新たにプラチナくるみん認定がはじまりました。



「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得

キューピーは、「健康な食事・食環境」コンソーシアムが進める第1回「健康な食事・食環境」認証制度の給食部門に応募し、グループオフィス「仙川キューポート」内の社員食堂での取り組みが、最高ランクの「3つ星」認証を受けました。

> 「仙川キューポート」の社員食堂が第1回「健康な食事・食環境」認証制度で「3つ星」を取得しました



表彰

知的財産

> 令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰

AI原料検査装置

- > 第2回日本オープンイノベーション大賞 農林水産大臣賞
- > 「IT JapanAward 2019」準グランプリ
- > 「ディーラーニングビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞

野菜未利用部の有効活用

- > 平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 内閣総理大臣賞
- > 第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞

卵殻の有効活用

- ＞ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞
- ＞ 第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省 食料産業局長賞

ロジスティクス

- ＞ 平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰
- ＞ サプライチェーン イノベーション大賞
- ＞ 「スムーズBiz推進大賞」大賞

容器包装

- ＞ 世界包装機構「ワールドスターコンテスト2019」フード部門 ワールドスター賞
- ＞ 第43回木下賞「新規創出部門」

その他

- ＞ 「キュービー 3分クッキング」2019年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞
- ＞ 第3回「SUSTAINA ESG AWARDS 2020」総合部門ブロンズクラス 

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み -

健康への取組み >

ユニバーサルデザイン
への取組み >

食育を中心とした社会へ
の取組み +

環境への取組み +

ガバナンス +

人と働き方への取組み +

安全・安心への取組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

健康な食生活への取り組み

創始者 中島董一郎は、栄養価の高いマヨネーズを普及させて、日本人の体位向上に貢献したいという想いで「キューピーマヨネーズ」を1925年に発売しました。それ以降、国内外のあらゆるお客様の食と健康に配慮した商品開発を行っています。

また、サステナビリティ目標である健康寿命延伸への貢献に向け、さまざまな取り組みを通じて豊かで健康的な食生活をサポートしていきます。



重点課題：食と健康への貢献(健康寿命延伸への貢献)

サステナビリティ目標

サラダとタマゴのリーディングカンパニーとして

- ・1日当たりの野菜摂取量の目標値350g※の達成に貢献する
※「健康日本21」(厚生労働省)に定める成人1日当たりの野菜の平均摂取量の目標値
- ・たんぱく質の摂取に貢献するために、卵の消費量アップを推進する

KEY DATA

野菜・卵・健康に関する講演会の回数 (2020年度) 対象：一般消費者 56回	たまごスター (2021年3月末時点) 255人	介護に関するイベント (2020年度) 対象：一般消費者・専門職・取引先 116回
--	---	--



健康への取り組み

それぞれの世代の食と健康に貢献するための取り組みや、商品を通して特定の条件をもったお客様への配慮を行っています。

ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方にお使いいただけるよう、ユニバーサルデザインの取り組みを行っています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み -

健康への取組み >

ユニバーサルデザイン
への取組み >

食育を中心とした社会へ
の取組み +

環境への取組み +

ガバナンス +

人と働き方への取組み +

安全・安心への取組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

健康への取組み

キューピーグループでは、1925年のマヨネーズ製造・販売開始以来、野菜摂取の拡大を通して健康な食生活に貢献するため内食・中食・外食に幅広く事業を展開し、多様化する食シーンに合わせてさまざまな取り組みを行ってきました。また育児食（ベビーフード）・ヘルスケア食・介護食・医療食を販売するなど、赤ちゃんから高齢者までそれぞれの世代の食と健康に貢献するための事業活動を行っています。

健康寿命延伸への取組み

健康に配慮した商品

食物アレルギーへの取組み

医療への取組み

未病（がん予防）への取組み

海外における健康への取組み

健康寿命延伸への取組み

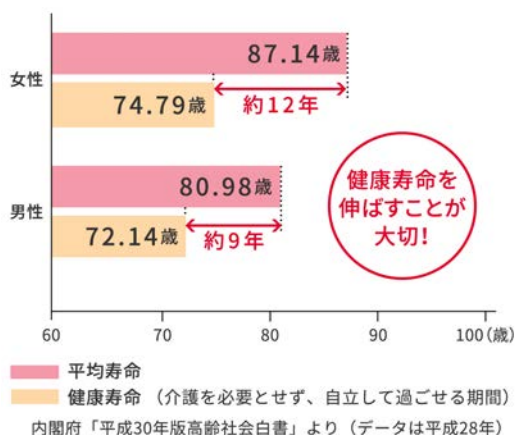
健康長寿のカギとなるフレイル予防に向けて、東京大学高齢社会総合研究機構により栄養・運動・社会参加の3つの柱が提唱されています。しかし、これは決して高齢者だけではなく全世代に共通する原点です。3つの柱は、1つだけではなく、3つすべての柱を自分の生活サイクルにうまく組み込むことが大切です。その中で、キューピーグループは特に「栄養」に関して、サラダとタマゴでおいしくバランスの良い食生活をサポートすることを中心に健康寿命の延伸へ貢献していきます。

キューピーグループはサラダとタマゴで
一人ひとりの健康を応援します



東京大学高齢社会総合研究機構
教授 飯島勝矢 提唱

平均寿命と健康寿命のギャップ



運動と食の両面から健康を応援！

健康的な生活を送るためには「栄養」「運動」「社会参加」の3つの要素が大切という考えを共有するセントラルスポーツ株式会社と協働しています。
手軽で効果的にたんぱく質を摂取したいというスポーツジム利用者やインストラクターからの要望を受けて、ホームページ等で食に関する知識クイズを企画したり、利用者へメニューや健康情報の提供を行っています。



[とっておきレシピはこちら](#)



「食」をテーマにした講演会

食についての正しい知識や、食の大切さと楽しさを伝えることは、私たちの重要な役割です。
健康で楽しい食生活に貢献したいと考え、「食」をテーマにした講演会に講師となる社員を派遣し、食生活と健康について正しい情報を提供しています。
プログラムは現在3種類あり、「野菜の魅力」をテーマにしたプログラムでは、野菜の栄養や理想的な摂取量などをDVDで観たり、毎日の生活で実践できる調理法を紹介したり、参加される皆さんに関心を持っていただけるような内容にしています。
参加した方からは、「1日350gの野菜摂取を意識して献立を考えます」「野菜の幅広い魅力、食卓での楽しみ方などを学ぶことができた」などの声も聞かれ、野菜の魅力が伝わっています。

[開催中の講演会プログラム](#)



介護に関するイベント

キューピーは1998年に日本で初めて市販用介護食を発売しました。2005年には日本は世界で最も早く超高齢社会に突入し、ますます介護食の必要性は高まっています。
高齢者の食について理解を深めてもらい、ユニバーサルデザインフードについても知ってもらうために、介護の現場に関わる方々や学生へ勉強会を行っています。また、一般の方を対象としたイベントも開催しています。

たまごスター

社内認定制度「たまごスター」を2019年度よりスタートしました。
「タマゴのリーディングカンパニー」をめざしてグループ全体で卵の魅力を語れる従業員を増やすことが目的です。
三ツ星タマリエ検定取得（日本卵業協会）に加え、卵の知識を正しく伝えるための勉強会に参加することで認定されます。
全国約260人の「たまごスター」が卵の魅力を伝える活動を行っています。



たまごスター認定書

東京大学高齢社会総合研究機構との取り組み

東京大学高齢社会総合研究機構と連携し、志を共にする企業と、高齢者の食向上に向けて業界連携の場である食のコンソーシアムに参画しています。コンソーシアムでは、生涯健康のための3つ柱を基軸に、産学連携の新たなビジネスモデルを発展させ、フレイル予防に役立つさまざまな産業の発掘と健全な育成の展開をめざしています。



東京大学高齢社会総合研究機構

[食と健康への貢献](#)

長野県松本市・松本大学と共同調査の成果を発表

健康寿命は食生活との関わりが強く、生活習慣病予防としては塩分を控え、野菜を積極的に摂取することが必要といわれています。

そこで、健康的な食生活提案に向けて、長寿県であり、野菜の摂取量も多い長野県松本市とともに松本市民の食と健康に関する調査を実施しました。

調査解析のほか、サラダ(野菜)と卵の摂取が健康意識や運動機能、健康状態にどのように関係するのか松本大学と共同で研究を行い、成果を第9回世界健康首都会議(2019年10月17日)、第8回日本食育学会学術大会(2020年5月23日)、第67回日本栄養改善学会学術総会(2020年9月2日)にて発表しました。

今後は結果を論文にまとめ、健康的な食生活の提案を行っていきます。

[> 松本大学と共同研究の成果を発表](#)



被験者へ研究内容を説明する様子

東京都渋谷区・東京都健康長寿医療センターと共同調査を実施

これまでも包括連携協定(シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定、S-SAP)を締結している東京都渋谷区と協力して渋谷生まれのサラダ「#シブサラ」を提案するなど、野菜摂取促進を目的に活動を行ってきました。

今回、渋谷区の協力のもと渋谷区民の野菜の摂取量や、卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施します。研究解析から得られた結果を活用することで、健康的な食生活提案につなげます。

[> 渋谷区と共同調査を実施](#)

健康に配慮した商品

キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという新しい食文化の普及に努め、サラダメニューの拡がりとともに成長してきました。これからも一人ひとりの食のパートナーとして、さまざまな世代の食と健康に貢献するため研究・商品開発を行っていきます。

	厚生労働省許可 特定保健用食品	機能性表示食品			低カロリー・ 減塩対応食品
家庭用 商品					
	> キューピー ディフェ	> キューピー アマニ油 マヨネーズ	> キューピー フイツテ	> 機能性表示食品 ドレッシング	> ディアレ
	家庭用商品サイトへ				
業務用 商品	業務用商品サイトへ				
病院・ 施設用 商品	病院・施設用商品サイトへ				
ファイン ケミカル	ファインケミカルサイトへ				

食物アレルギーへの取り組み

近年、日本をはじめとする先進国では、食物アレルギーは増加の一途をたどっており、食品メーカーとして対応すべき重要な課題と考えています。キューピーでは、より多くの方に食事を楽しんでいただけるよう、さまざまな取り組みを行っています。

原材料表示

キューピーでは、一目でわかりやすいように、商品に含まれるアレルゲン(特定原材料7品目と表示が推奨されている20品目について)をまとめて表示しています。また育児食(ベビーフード)については、重篤度が高い、あるいは症例数が多い食物アレルギー7品目「卵・乳成分・小麦・えび・かに・そば・落花生」の使用の有無について、商品の正面に一目でわかるように表示しています。



アレルゲンアイコン

食物アレルギー7品目不使用のベビーフード

小麦を使用していないしょうゆなど原材料から配慮し、食物アレルギー7品目を使用しない育児食(ベビーフード)の開発を行っています。

「卵不使用」のマヨネーズタイプ調味料

キューピーは2014年春、学校給食向けに卵アレルギーに配慮し、卵を使わないマヨネーズタイプ調味料（業務用）を発売しています。発売後の状況から家庭用のニーズが高まっていると判断し、2015年2月から「キューピー エッグケア（卵不使用）」を市販向けに発売しています。今後も社会に求められる商品づくりで食生活に貢献していきます。



卵アレルギー研究

卵アレルギーは「食べて予防」へ

食物アレルギーは、じんましんや呼吸困難などを引き起こす病気で、特に卵アレルギーは乳幼児に多いといわれています。これまでアレルギーを引き起こす食品の摂取は避けた方がよいとされていましたが、最近の研究で「離乳早期に少しずつ食べ始めるほうがアレルギー発症予防に有効※」であることがわかってきました。キューピーグループは、加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵を用いて、より安全な卵アレルギーの診断・治療および予防につなげる研究を専門医療機関と共同で行っています。卵アレルギーの無い世界をめざして、これからも診断から治療・予防法確立までの支援を継続していきます。



加熱などによりアレルゲン性を低下させた卵素材

※2016年、国立成育医療研究センターは、卵アレルギーの予防に関する研究成果を発表しました。アトピー性皮膚炎の乳児121人を対象に行った結果、皮膚の治療を十分に行った上で6カ月齢から微量の加熱した卵の粉末を食べた乳児の1歳時における卵アレルギー発症率は8%（食べなかった乳児は38%）となり、その有効性が示されました。この結果を受けて、2017年には日本小児アレルギー学会から「鶏卵アレルギー発症予防に関する提言」が出され、さらに2019年には厚生労働省の授乳・離乳の支援ガイドにおいて卵黄の摂取開始時期が早められました。

医療への取り組み

キュービーのファインケミカル事業は、卵由来のレシチンやリゾチーム、食酢の研究から生まれた酢酸菌酵素など、さまざまな素材を食品・化粧品・医薬品などの分野へ提供しています。中でも30年以上にわたり研究を重ねてきたヒアルロン酸は、事業の中核となる素材であり、国内販売量No.1(2017年富士経済調べ)となっています。

キュービーは国内で唯一、鶏のトサカからの抽出と微生物発酵の2つの方法でヒアルロン酸を製造するメーカーです。分子量のコントロール技術や修飾技術を強みとし、顧客ニーズに合わせた技術支援を行ってきました。

キュービーのヒアルロン酸は、医療用点眼薬や関節機能改善剤の原料など、さまざまな医薬品に使用されています。これらの取り組みで得た製造・品質管理の技術を生かし、ヒアルロン酸を活用した医療機器の企画、開発を行うビジネスを展開しています。

消化管(胃・食道・大腸など)の粘膜層にとどまる早期がんなどの病変を内視鏡を用いて切除する際に使用される医療機器「内視鏡用粘膜下注入材」は、ヒアルロン酸ナトリウムが使われています。ヒアルロン酸の粘性により粘膜下層にとどまることで粘膜層と筋層を分け、その状態を維持することで病変部位の切除または剥離操作性向上をサポートします。キュービーは高品質の医療機器を提供することで、内視鏡による早期がん治療を通じ、健康寿命の延伸に貢献します。

他にも大腸検査を受けられる方や医療機関の皆様へ、検査前日にご使用いただける商品もご用意しています。

[> 検査食](#)



キュービー初の医療機器、内視鏡用粘膜下注入材「ケイスマート」

未病(がん予防)への取り組み

キュービーは「食」でがんを予防する研究を2013年から開始しました。2018年には将来の発がんリスクを判定する研究を始めています。

この研究は①血液中のマイクロRNAの発現量と将来がんになるリスクの関係性②特定の食成分の摂取によるマイクロRNAの発現変動の2点を明らかにすることで、がんを予防しようとする研究です。将来的には、一般向けの「がん予防サービス」の展開をめざしています。

事業化するにあたり、血液中のマイクロRNAを早期かつ安価に測定する装置が必要となります。

そこで、東京家政大学と株式会社ヨコオが共同で開発した、超高感度の遺伝子測定技術^{※1}を利用し、がんやその他の疾病発症リスクの判定を目的とした、マイクロRNA測定装置開発の共同研究を進めています。

※参照:東京家政大学ニュースリリース(2020年6月30日発表)

[> マイクロRNAの測定装置に関する共同研究](#)

[> “将来の発がんリスク判定技術の実現”に向けて](#)

海外における健康への取り組み

それぞれの国のライフスタイルや食の歴史・文化を理解し、お客様に寄り添いながら、キュービーグループが持つ「おいしさ・やさしさ・ユニークさ」によって新しい食べ方や食シーンを提案し、世界中の人々の心と体の健康に貢献していきます。

各国の食文化に合わせた商品開発

キューピーグループは、日本のオリジナルマヨネーズの味を大切にしながら、海外拠点においても現地の食材や料理に合った調味料の開発に力を注いでいます。

中国ではフルーツサラダに好んで使われる甘いタイプのマヨネーズを開発し、広く使われるようになっていきます。また、中国北部で一般的に食べられている大拌菜(ダーバンツァイ)というサラダ向けにドレッシングを開発し、現在では北京で人気の商品になっています。

マレーシアとインドネシア、タイの3カ国でハラル認証を取得した商品を生産し、食の洋風化が進む現地および周辺諸国に向け販売を行っています。

このように現地のニーズに合わせた商品の開発を行い、世界中の人々においしさを提供しています。



左:甘いタイプのマヨネーズ
右:大拌菜ドレッシング



キューピー マヨネーズ ジャパニーズスタイル
(ハラル認証)

卵殻カルシウム配合の栄養強化食品

ベトナムでは、カルシウム不足による骨粗しょう症が増加し社会的課題となっています。キューピーがハノイ国立栄養研究所と共同でベトナム人女性を対象に行った基礎研究の結果を受け、キューピーベトナムでは、2017年12月から卵殻カルシウム(卵殻由来の炭酸カルシウム)を配合した栄養強化食品の販売を開始しました。米食が盛んなベトナムの食生活の中で、炊飯時に加えて炊くだけで手軽にカルシウムを摂取できる商品です。日本でも同様の商品「元気な骨」を販売しています。



左:分包タイプ(10ml×10包)
右:ボトルタイプ(1L)



ベトナムの米売場での試食販売の様子

関連する取り組みを知る



健康・栄養の研究

健康機能研究を紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジ メント	+
健康な食生活への取 組み	-
健康への取り組み	>
ユニバーサルデザイン への取り組み	>
食育を中心とした社会へ の取り組み	+
環境への取り組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

ユニバーサルデザインへの取り組み

できるだけ多くの方に使いやすいことをめざすユニバーサルデザインへの取り組みは、キューピーグループのめざす姿「私たちは『おいしさ、やさしさ、ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします。」を具現化することでもありと考えています。

キューピーグループではお客様相談室をはじめとしたさまざまな部署が集まる「お客様の声委員会」でユニバーサルデザインにかかわるテーマについて話し合いを行っており、その結果を各部署で具体的に検討しながら、商品の改善に努めています。



キューピーのユニバーサルデザイン原則

1. 誰でも公平に利用できる
2. 使う上で自由度が高い
3. 使い方が簡単ですぐに分かる
4. 必要な情報がすぐに理解できる
5. うっかりミスや危険につながらない
6. 無理な姿勢を取ることなく少ない力で楽に使用できる
7. アクセスしやすいスペースと大きさの確保
8. 人体に危害を加えない
9. 環境に配慮している
10. 利便性に優れている

ユニバーサルデザインを取り入れた例

使いやすさへの工夫

ダブルキャップ

細口と星型のダブルキャップ

キューピー マヨネーズのふたは、細口と星型のダブルキャップだということをご存じですか？上ぶたを開けると細口、キャップを回して外すと星型の口があらわれます。お料理の仕上げのデコレーションには細口で、タッブリとかけたいときは星型で。お料理の楽しさが広がるダブルキャップをぜひご活用ください。



また、キャップには、回したときに手が痛くない、壊れにくいなど、ユニバーサルデザインの発想が随所に隠されています。



軽く使いやすい容器

より軽く、より使いやすく、を追求したプラスチックボトル

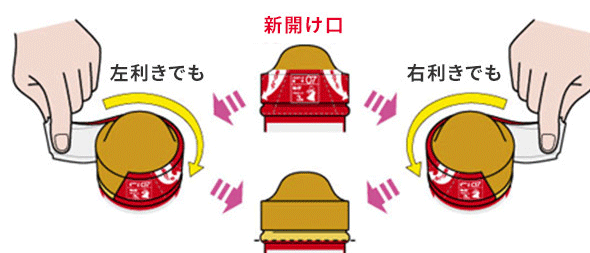
キューピー ドレッシングは「軽さ」「開けやすさ」「振りやすさ」「注ぎやすさ」「分別しやすさ」「環境配慮」を実現したオリジナルの新容器です。これまでガラス瓶だった容器を「プラスチックボトル」に変更し、「キャップ」にもさまざまな改良を加え、お客様により使いやすい容器を実現しました。



キャップシール

左右どちらでも空けられる易開封シュリンク

ドレッシングのキャップ部分のシュリンク(フィルム)に、右利き・左利きのどちらの方でも1回の動作で開封できる新たなユニバーサルデザインを採用しました。ベルマークもより外しやすくなりました。この「易開封シュリンク」は、「2009 日本パッケージングコンテスト」において食品包装部門賞を受賞しています。



多面体デザイン

瓶の上部を多面体にすることで、握りやすさと開けやすさを実現しました。



パキッテ

片手ですばやくかけられるポーション容器「パキッテ」

「パキッテ」は、片手で容易に開封でき、従来の袋やカップに比べ、手を汚すことなく中身を完全に押し出すことができる容器です。1983年にアメリカで発明され、1987年にはキューピーのグループ会社であるデイスペンバックジャパンが、世界に先駆けて技術開発および商品化に成功しました。さまざまな食シーンにあわせ、出し口を工夫するなどラインアップを拡充しています。現在では中食や外食産業をはじめ、家庭や学校給食などで幅広く使用されており、2017年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞※を受賞しました。



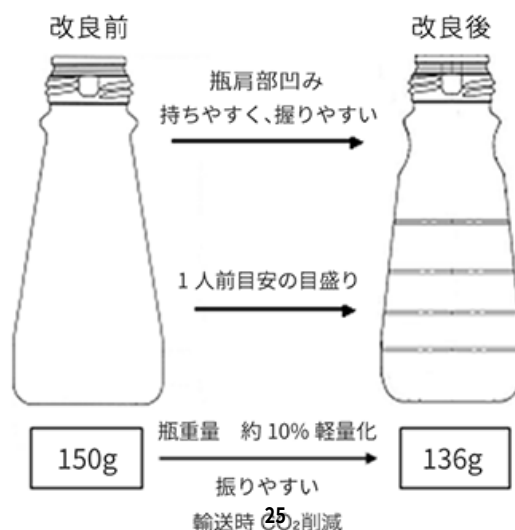
※グッドデザイン・ロングライフデザイン賞：長年にわたり作り手と使い手、社会との対話の中で醸成され、暮らしや社会の礎となり、未来においてもその役割を担い続けてほしいデザインを選び、顕彰する賞です。



パキッテ「トマト＆あらびきマスタード」
2種類の液を同時にさせる

瓶肩部のへこみ

持ちやすく、握りやすい「凹み」を採用し、振りやすくしました。また環境に配慮し、約10%軽量化をしました。



分かりやすい工夫

開栓日メモ

開栓した日を記入する「開栓日メモ」



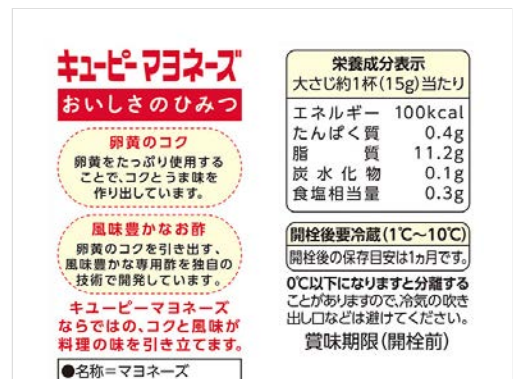
点字表示

「アヲハタ」「ジャム」「ドレ」という点字を入れ、より多くのお客様に判断しやすいようにしています。



大きな文字

文字を大きくし、一目で見やすく、分かりやすくしています。



ユニバーサルデザインフード

どなたにも食べやすくおいしい食事として楽しんでもらいたいという想いから、キューピーはさまざまな商品を開発してきました。いつでも「食」を楽しむことのできる豊かな食生活の実現を応援しています。

「やさしい献立」は、食べやすさから生まれたユニバーサルデザインフードです。食べる人のかむ力、飲み込む力に合わせて4段階に区別されています。



ユニバーサルデザインフード(UDF)とは

ユニバーサルデザインフード(UDF)は、日常の食事から介護食まで幅広くお使いいただける、食べやすさに配慮した食品です。2002年設立の日本介護食品協議会(加盟88社:2020年12月現在)は消費者がより分かりやすいように咀嚼嚥下(かむ力・飲みこむ力)に配慮し、「かたさ」や「粘度」に応じて4段階に区分されています。各区分に分類される商品にユニバーサルデザインフードロゴマークを使用しています。



ユニバーサルデザインフードについて

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安 (ごはんの調理例)	ごはん ～やわらかごはん 	やわらかごはん ～全がゆ 	全がゆ 	ペーストがゆ 
かたさの目安 (たまごの調理例)	厚焼き卵 	だし巻き卵 	スクランブルエッグ 	やわらかい茶碗蒸し (具なし) 

＜日本介護食品協議会ホームページ

ユニバーサルデザインに関する情報



やさしい献立商品紹介 サイト

『やさしい献立』は、食べやす
まから生まれた介護食(ユニ
バーサルデザインフード)で

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み -

食を通じた社会貢献活動 >

その他の社会貢献活動 >

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
 オフィシャルブログ >

食育を中心とした社会への取り組み

キューピーグループは、人々の生活になくはならない食に携わる企業として、健康で豊かな暮らしの実現に貢献していきたいと考えています。

「長く継続できること」「多くの方の役に立つこと」「地域に根ざすこと」を柱として、社会貢献活動に取り組んでいます。

特に、地方自治体や地域のNGO・NPOなどの団体との協働を通じて、社会・地域とのより良い共生を図るとともに、食を通じてより良い社会の実現をめざします。



重点課題：食と健康への貢献(子どもの心と体の健康支援)

サステナビリティ目標

私たちの活動で創る子どもの笑顔の数(2019年度からの累計)

2021年度20万人以上 2024年度40万人以上 2030年度100万人以上

2020年度実績：17.7万人

KEY DATA

工場見学・マヨテラス来場者数
 対象：全国8工場+マヨテラス(2019年度)

88,147人

マヨネーズ教室開催数
 参加人数14,125人(2019年度)

315回

キューピーみらいたまご財団
 支援団体数(2019年度)

70団体

キューピーの社会貢献活動



食を通じた社会貢献活動

食品メーカーとして、食育を中心とした食に関する社会貢献活動に力を入れています。



その他の社会貢献活動

地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた継続的な地域貢献活動の実施や、歌やダンスなどの文化を通じた活動を応援しています。

キューピーについてもっと知る



キューピーグループ
オフィシャルブログ
従業員より、社会・環境への
取り組みを発信しています。



食育活動

キューピーの食育活動について
ご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み -

食を通じた社会貢献活動 >

その他の社会貢献活動 >

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

食を通じた社会貢献活動

核家族化、共働き、ひとり親家庭の増加などにより子育ての環境は大きく変化しています。また近年、子どもの貧困といった問題も表出し、多面的な子育て支援の必要性が高まってきています。子どものうちに健全な食生活を確立することは、豊かな人間性を育むことにもつながり、生涯にわたる健康の基礎となります。一方、高齢化が進む中、健康寿命を延ばすことで、個人の生活の質をあげることや社会的損失を防ぐことも大きな社会的課題となっています。キューピーグループは、食育を中心とした社会貢献活動を継続していきます。



食育活動

キューピーグループは、「食の安全・安心」とともに「食の大切さと楽しさ」をお伝えする食育活動を実施しています。1961年に「オープンキッチン(工場見学)」を開始し、2002年からは小学校への出前授業「マヨネーズ教室」を全国で実施しています。そのほか、食に関する情報を提供しています。健康な心と身体づくりを応援するDVDを学校や消費生活センターなどに無償で配布する「メディアライブラリー活動」なども行っています。



食育活動 >

オープンキッチン

キューピーは「工場は家庭の台所の延長」と考えています。そのため、一般の方の工場見学を「オープンキッチン」と呼んでいます。商品がどのように生産されているのかをお客様の目で見ていただくことが、商品をご理解いただき、安心をお届けする最良の機会であると考えています。

オープンキッチン(工場見学)の歴史は古く、1961年に活動を開始。食品業界では生産現場を公開することが珍しかった当時、小学生の社会科見学を実施したことがきっかけです。2019年までは年間約7万人の見学者を受け入れていました。

現在は新型コロナウイルス感染症の感染予防のため、見学施設における見学を中止していますが、オンラインでの見学を実施しています。

> 詳しくはこちら

フードバンク活動の支援

日本では、まだ食べられるのに廃棄されている「食品ロス」が、年間約612万トン(平成29年度推計：農林水産省)あるといわれています。その一方、十分な食事が摂れない人たちも数多く存在しています。キューピーグループは、フードバンク活動[※]を行う「認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン」を2007年から支援し、マヨネーズやドレッシング、ジャムなどを寄贈しています。2020年度は、キューピーグループ国内事業所から各地域のフードバンク17団体に寄贈しました。

※ フードバンク活動：食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、児童養護施設などの福祉施設や生活困窮者へ無償で提供する活動

食を通じた「子どもの貧困対策」への支援

近年、ライフスタイルや食生活の多様化が急速に進む一方、若い世代を中心とした食に関する知識・興味の低下、食を通じたコミュニケーションの希薄化、子どもの貧困など、食を取り巻く社会課題はますます深刻化しています。キューピーは「食を通じて社会に貢献する」という創業当初からの精神のもと、2017年4月に「一般財団法人キューピーみらいたまご財団[※]」を設立しました。想いを共有する団体の活動を広範に支援することで一企業だけでは成し得ない社会貢献に繋げていきたいと考えています。独自の食育活動とあわせ、長期的な視野をもって健やかで持続的な社会の実現をめざします。

※ キューピーみらいたまご財団は2019年4月1日から公益財団法人に移行しました。



公益財団法人 キューピーみらいたまご財団

食育活動および子ども食堂など食を通じた子どもの居場所づくりに取り組む団体への、寄付を中心とした助成活動を行っています。また、子ども食堂などの活動定着を目的に、展開事例紹介や団体同士のネットワークづくりにつながるセミナーを開催しております。

2017年～2020年助成団体数：249団体

2017年～2020年セミナー開催数：7回



＞ 公益財団法人 キューピーみらいたまご財団 

ベルマーク運動

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」という願いからはじまった運動です。

キューピーグループはこの願いに共感し、ベルマーク運動が開始された1960年より、公益財団法人ベルマーク教育助成財団に協賛し、運動に参加した学校などへの教育支援活動に協力しています。

これからも、幅広い社会教育活動を支援しているこの運動を応援していきます。



ベルマークとキューピー商品

ベルマークはキューピーのマヨネーズとドレッシングについています。



ベルマークがついている商品

財団法人 ベルマーク教育助成財団



WFP「レッドカップキャンペーン」

キューピーベビーフード「ハッピーレシピ」シリーズは、国連の食糧支援機関であるWFP国連世界食糧計画の「レッドカップキャンペーン」に参加し、商品の売り上げの一部を寄付しています。

レッドカップキャンペーンは、地球上の飢えに苦しむ子どもたちに学校給食を届ける支援活動です。

給食を入れる容器として使っている赤いカップがシンボルです。



レッドカップキャンペーン



キューピーベビーフード「ハッピーレシピ」シリーズ
キューピー サステナビリティサイト2021

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み +

食育を中心とした社会へ
の取組み -

食を通じた社会貢献活
動 >

その他の社会貢献活動 >

環境への取組み +

ガバナンス +

人と働き方への取組み +

安全・安心への取組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

その他の社会貢献活動

キューピーグループは、地域密着型活動や芸術文化活動など、さまざまな支援活動を通じて社会に貢献し、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。



地域との連携 ● 地域貢献活動 ● 文化貢献 ● 教育支援活動 ● マッチングギフト制度 ●

地域との連携

キューピーグループは、さまざまな自治体と協働して地域社会の課題解決や地域の活性化に取り組んでいます。

山形県との取り組み

キューピーは、山形県と2019年2月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと山形県の双方が持つ資源を有効に活用して協働することにより、「やまがた創生」に資することを目的としています。

協定内容

1. 山形県産農産物の地産地消の推進と利用拡大に関する事項
2. 健康増進に関する事項
3. 食育の推進に関する事項
4. 子どもの貧困対策に関する事項
5. 災害対策に関する事項
6. その他、「やまがた創生」の推進に関する事項

取り組み内容

- ・ 県内小学校にてマヨネーズ教室の実施
- ・ 地域スーパー惣菜部と連動し、「減塩・ベジアップ」企画を実施
- ・ 県内子ども食堂にてドレッシングやスープの素を配布

渋谷区との取り組み

キューピーは、渋谷区と2016年12月、地域社会の課題解決を目的とした包括連携協定である「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定(SSAP)」を締結しました。本協定を通じて、新たな取り組みを渋谷区と協働して推進し、社会・地域とのより良い共生を図ります。

協定内容

1. 食育や子どもの貧困課題の解決に関する支援
2. 超高齢社会における健康増進領域の支援
3. 環境領域の課題（食品ロス含む）に関する研究と解決策の提供
4. 文化・芸術振興における支援、企画立案、情報発信施策の企画開発
5. ダイバーシティの実現に向けた研究や啓発活動への支援
6. 人材開発や研修プログラムにおける人的交流



取り組み内容

- ・ 渋谷区民の野菜の摂取量や、フレイル予防に効果的な卵などのたんぱく質の摂取量の調査を東京都健康長寿医療センターと共同で実施
　　> 健康的な食生活提案のために渋谷区と共同で調査開始
- ・ 渋谷区民を対象とした「オンライン離乳食教室」を開催

広島市との取り組み

キューピーは、広島市と2018年3月、地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。キューピーと広島市の双方が持つ資源を有効に活用した取り組みを推進していきます。

キューピーと広島市は、本協定を通じて「広島近郊6大葉物野菜」などの地産地消の推進や1日あたりの野菜摂取量増加につながる取り組みなどを、連携して行います。

例えば、広島市の市内産農産物の消費拡大に向けたPR活動と連携し、量販店にて旬の野菜のおいしい食べ方のメニュー提案や試食の販売促進を推進しています。

協定内容

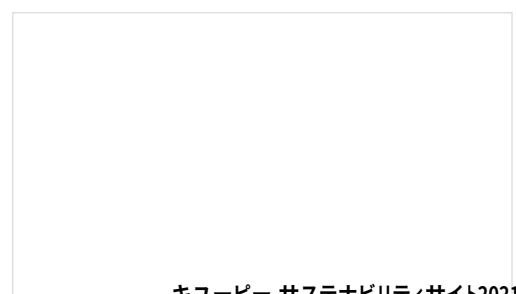
1. 地産地消の推進に関する事項
2. 野菜摂取向上に関する事項
3. 健康増進に関する事項
4. 食育の推進に関する事項
5. 災害対策に関する事項

広島県との取り組み

アヲハタ株式会社は、2013年より広島県と「包括的連携に関する協定」を締結しています。この協定を通じて、広島県産オリジナル商品（瀬戸内ブランド）の開発や観光振興、県民サービスの向上や地域経済活性化の推進、健康増進・食育に関すること、地域の安全・安心に関することなど、多岐にわたる取り組みを進めています。

協定内容

1. 瀬戸内ブランドの推進や県産品の販売促進に関すること
2. 県政情報の発信、観光振興に関すること
3. 教育・文化の振興に関すること
4. 健康増進・食育に関すること
5. 環境対策・リサイクルに関すること
6. 地域の安全・安心に関すること
7. 障がい者支援に関すること



8. 子育て支援に関すること
9. その他、県民サービスの向上、地域社会の活性化に関すること



瀬戸内ブランドの登録商品

取り組み内容

- ・地域のボランティアが主体となり、小学校の子どもたちが始業前に集まり、朝ごはんを食べる広島県「朝ごはん推進モデル事業」に対し、商品を提供
- ・広島ならではの給食メニューのレシピを公募し、その中から選ばれたメニューを給食で提供する「ひろしま給食100万食プロジェクト」の広島県の取り組みに対し、メニュー審査や商品を提供

福島県における取り組み

キューピーでは、「福島の食卓に笑顔を！」をテーマに掲げ、従来の「マヨネーズ教室」の枠を超え、福島県産野菜の地産地消サイクルの構築と、その先にある「新たな食シーンの創出」までを見据えた社会貢献プログラムを実施しています。

取り組み内容

- ・JA全農福島が企画する「きゅうり栽培大作戦」に参画し、オンラインマヨネーズ教室を実施

愛知県との取り組み

あいち みんなのサラダ プロジェクト

愛知県は農業産出額では全国有数ですが、県民の野菜摂取不足が課題となっています。

そこで愛知県民の野菜摂取向上をめざし、地元行政や有識者と連携して「あいち みんなのサラダ」プロジェクトを立ち上げ、2018年8月に実行委員会を設置しました。

プロジェクトメンバーと一緒に、県民が好む「うま味」「食べごたえ」「意外性」を備えた「あいちサラダめし」を考案し、県内の飲食店へ提案しています。

2020年11月末時点で賛同店は110店舗を超え、提供店も100店に達しました。

また、2018年、2019年の野菜の日にはプロジェクトの認知、「あいちサラダめし」のさらなる普及・定着に向けたイベントを実施しました。2020年はテレビやラジオを使って継続した啓発を図っています。

今後は、外食だけでなく中食、内食へ展開を進め、野菜をおいしく楽しむ食生活を応援します。

地域貢献活動

キューピーグループは、地域社会・国際社会の一員として、地域に根付いた持続可能な活動を推進しています。従業員が積極的に携わることで、継続して地域貢献活動を実施することをめざしています。

地域清掃活動

各事業所では、環境美化活動の一環として敷地周辺の自主的な清掃活動を実施しています。また、地域で行われている周辺の河川や商店街の定期的な清掃に参加しています。こうした取り組みは「キュービーグループ オフィシャルブログ」でも紹介しています。



アヲハタ アダプト活動

アヲハタは広島県と包括連携協定を締結しており、連携して取り組む項目の一つに「環境対策・リサイクルに関すること」があります。その一つとして県道のアダプト活動※への参画があり、2013年に広島県からアダプト活動認定団体として認定され、活動を続けています。

アヲハタ本社のあるJR忠海駅前の道路（県道東広島本郷忠海線）を年5～6回清掃活などを行っておりその道路には「アヲハタ株式会社」と記載のある看板が設置されています。

毎回ゴミの量はさほどありませんが、種類としては空き缶、ビニール袋、たばこの吸い殻などが見られます。また、ゴミを拾う以外にも歩道に生えている雑草なども取り除いています。

地域の方から挨拶やお礼を言われるなど、活動を通じて地域とのつながりを感じることができます。従業員はもちろん地域の方々も気持ちよく過ごせるよう今後もアダプト活動が続けていきます。

※ アダプトとは英語で「〇〇を養子にする」の意味から、一定区画の公共の場所を養子にみたと、市民がわが子のように愛情をもって面倒（清掃や草刈りなど）をみていく活動。



海外グループ会社での地域貢献活動

キューピータイランド (KEWPIE (THAILAND) CO., LTD.) では、「環境」「地域貢献」「子ども支援」の3つのテーマに沿った活動を、利益の2%を予算計上して実施しています。これは現地合弁先であるサハグループの企業方針にも沿ったものです。環境活動では、ソーラーシステムの運用、水のリサイクル、バイオマス燃料の使用推進により環境負荷低減を進めるとともに、水源保持の為に植林活動を継続的に行っています（2020年度300本※新型コロナウイルス感染症の影響のため）。地域貢献として、病院への医療機器提供やマスクや無塵衣等の新型コロナウイルス感染症対応支援や近隣への消毒用アルコール支援等を行っています。また、廃棄物残渣の堆肥活用と近隣住民への配布も継続して取り組んでいます。さらに就学支援として、従業員子女への就学支援、近隣小学校の図書室や遊具改装支援・飲み水等衛生設備の導入・メンテナンスを行っています。



病院への医療機器支援



近隣への消毒用アルコール提供の様子



図書室改装支援



改修した小学校遊具

文化貢献

歌やダンスなどの芸術文化活動を通じて、あらゆる世代の健康で笑顔あふれる生活を応援していきます。

おかあさんコーラス

キューピーは、「全日本おかあさんコーラス大会(全日本合唱連盟・朝日新聞社主催)」と「全沖縄おかあさんコーラス大会(全沖縄おかあさんコーラス連盟・琉球新報社主催)」に協賛しています。

これらの大会は日頃、家事や仕事などで忙しいおかあさんに、コーラスの楽しさを存分に味わっていただく場です。

ご家族の笑顔と健康を支えているおかあさんたちを、私たちは応援しています。



全日本おかあさんコーラス大会

毎年全国各地で支部大会が行われ、およそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しです。そのなかから選ばれた約60団体が、全国の主要都市で行われる全国大会に出場。日頃の練習の成果を発表しています。主婦コーラスの愛好家にとっては、欠かせない発表の場になっています。

全日本合唱連盟



全日本おかあさんコーラス大会のあゆみ

全日本おかあさんコーラス大会は、当時の石井敏全日本合唱連盟理事長の「おかあさん方に芸術を知っていただくことが、健康な家庭を作るために必要だ」という信念のもと、1978年に全日本合唱連盟と朝日新聞社の主催で「全日本ママさんコーラス大会」として始まりました。

第1回大会は全国で232団体・約1万人が参加し、全国大会は虎ノ門ホール（東京）で25団体が出場して盛大に開催されました。その後、参加団体は順調に増え、現在、毎年3月から7月に行なわれる各地の支部大会におよそ900団体、約2万人が参加する大規模な催しになっています。

開催実績				+
回数	開催地	会場	あゆみ	
第43回	宮崎県	メディキット県民文化センター	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止	
第42回	石川県	金沢歌劇座	—	
第41回	愛媛県	ひめぎんホール	—	
第40回	岡山県	岡山シンフォニーホール	—	
第39回	青森県	リンクステーションホール青森	—	
第38回	北海道	札幌コンサートホールKitara	—	
第37回	新潟県	りゅーとびあ新潟市民芸術文化会館	—	
第36回	大阪府	フェスティバルホール	—	
第35回	東京都	文京シビックホール 大ホール	35回記念大会として、全国大会を3日間開催。	
第34回	福岡県	アクロス福岡	—	
第33回	長野県	長野県県民文化会館 ホクト文化ホール	—	
第32回	愛媛県	ひめぎんホール	—	
第31回	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—	
第30回	鳥取県	鳥取県立県民文化会館 梨花ホール	—	
第29回	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—	
第28回	長崎県	長崎ブリックホール大ホール	—	
第27回	神奈川県	よこすか芸術劇場	キユービー サステナビリティサイト2021	38

第26回	滋賀県	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール	—
第25回	東京都	東京文化会館 大ホール	25回記念大会として、「ひびけおかあさん in Tokyo !」をサブタイトルに全国大会を3日間開催。
第24回	富山県	富山市芸術文化ホール オーバード・ホール	—
第23回	香川県	香川県県民ホール グランドホール	—
第22回	岩手県	岩手県民会館	—
第21回	岡山県	倉敷市民会館	連盟創立50周年記念事業として、全国大会1日目の夜に「コーラスジャンボリー」を倉敷チボリ公園で開催。
第20回	北海道	札幌コンサートホール Kitara	—
第19回	熊本県	熊本県立劇場コンサートホール	—
第18回	群馬県	群馬音楽センター	—
第17回	京都府	京都会館 第1ホール	—
第16回	石川県	金沢市観光会館	この年から全国大会を2日間開催。
第15回	東京都	東京芸術劇場 大ホール	—
第14回	愛媛県	愛媛県立県民文化会館 メインホール	—
第13回	福島県	郡山市民文化センター 大ホール	—
第12回	広島県	広島厚生年金会館ホール	—
第11回	北海道	北海道厚生年金会館ホール	—
第10回	福岡県	福岡サンパレス 大ホール	少年少女合唱祭(第1回)を併催。もう一つのおかあさんコーラス大会と銘打った「おかあさんカンタート」を始める。
第9回	神奈川県	神奈川県県民ホール	少年少女合唱団大集合を前日に併催。この年から開催地は全国持ち回りとなる。
第8回	大阪府	フェスティバルホール	—

第7回	東京都	ゆうばうと簡易保険ホール	—
第6回	愛知県	名古屋市民会館 大ホール	初めて東京・関西以外で全国大会を開催。
第5回	兵庫県	神戸文化ホール 大ホール	—
第4回	東京都	普門館	—
第3回	京都府	京都会館 第1ホール	名称を「全日本おかあさんコーラス大会」と変更。
第2回	東京都	東京文化会館 大ホール	—
第1回	東京都	虎ノ門ホール	「全日本ママさんコーラス」を開催し、継続行事として意義のある第一歩をしるした。

全沖縄おかあさんコーラス大会

全沖縄おかあさんコーラス大会は「楽しく歌う」を原点到に1979年にスタートしました。最初は舞台上立って歌い終わると、そこから客席に行き、次の団体の歌を聴くというような発表会規模の小さな催しでした。回を重ねるごとに各市町村へと広がり、歌を愛する人が集まるすばらしい文化活動へと成長しました。今ではコーラスのレベルも上がり、沖縄の歌も多く歌われ、その普及にも貢献しています。



全沖縄おかあさんコーラス大会のあゆみ

「ママさんバレーがあるのに、ママさんコーラスもあってしかるべき」との発想から、全沖縄おかあさんコーラス連盟初代理事長の故仲里朝太郎氏、前相談役の鳩間用吉氏、前理事長の新島ユキさん、兵庫県在住の柴田民子さんを中心に1979年2月14日、5団体による「親睦演奏会」が那覇中央公民館で開かれ、これが今日の「全沖縄おかあさんコーラス大会」の基礎となりました。翌1980年3月1日、当時全日本合唱連盟理事長の石井敏氏を招いて「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を琉球新報ホールで開催し、継続行事として意義ある第一歩をしました。その後、参加団体の範囲が「那覇」から「全県」へ広がり、今では加盟団体への還元事業として合唱講習会や指導者講習会を定期的に関き、組織の結束力の強化、演奏技術の向上にも努めています。

開催実績



回数	会場	あゆみ
第41回	琉球新報ホール	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため開催中止
第40回	琉球新報ホール	—
第39回	豊見城市立中央公民館	—
第38回	豊見城市立中央公民館	—
第37回	浦添市てだこホール	—
第36回	浦添市てだこホール	—
第35回	宮古島市マティダ市民劇場	名称を「全沖縄おかあさんコーラス大会」と変更。
第34回	那覇市民会館 大ホール	—
第33回	浦添市てだこホール	—
第32回	浦添市てだこホール	—
第31回	那覇市民会館 大ホール	—

第30回	浦添市てだこホール	—
第29回	那覇市民会館 大ホール	—
第28回	那覇市民会館 大ホール	—
第27回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第26回	那覇市民会館 大ホール	—
第25回	沖縄市民会館 大ホール	—
第24回	名護市民会館 大ホール	—
第23回	那覇市民会館 大ホール	—
第22回	那覇市民会館 大ホール	初めて沖縄本島以外で開催。
第21回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第20回	那覇市民会館 大ホール	—
第19回	那覇市民会館 大ホール	—
第18回	那覇市民会館 大ホール	—
第17回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第16回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第15回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	連盟歌、連盟旗を作成。
第14回	沖縄コンベンションセンター 劇場棟	—
第13回	那覇市民会館 大ホール	—
第12回	沖縄市民会館 大ホール	—
第11回	那覇市民会館 大ホール	—
第10回	那覇市民会館 大ホール	10回参加した団体へ表彰を始める。
第9回	那覇市民会館 大ホール	—
第8回	那覇市民会館 大ホール	—
第7回	那覇市民会館 大ホール	—
第6回	那覇市民会館 大ホール	名称を「全沖縄おかあさんコーラス発表会」と変更。

第5回	労働福祉会館 大ホール	—
第4回	労働福祉会館 大ホール	—
第3回	労働福祉会館 大ホール	名称を「那覇おかあさんコーラス発表会」と変更。
第2回	琉球新報ホール	—
第1回	琉球新報ホール	「第1回那覇ママさんコーラスまつり」を開催し、継続行事として意義のある一歩をしるした。

全日本小中学生ダンスコンクール

キューピーは、「全日本小中学生ダンスコンクール(朝日新聞社主催)」に協賛しています。

ダンスは、小中学校の学校教育やクラブ活動に採り入れられるようになりました。基礎体力の向上はもちろん、リズム感や自己表現、創造力、さらにはコミュニケーション力を養うことで教育の面でもとても期待されています。キューピーは、元気の源となる食を通じて、ダンスを頑張る子どもたちの健やかな成長を応援しています。



全日本小中学生ダンスコンクールとは？

「小中学生が学校の授業やクラブ活動などで仲間と練習したリズムダンスのパフォーマンスを演じるハレの舞台をつくりたい」。そして、「ダンスを通じて健やかな体と豊かな表現力、仲間とともにがんばる心を育みたい」という願いのもとで2013年夏に創設された大会です。

[公式ホームページ](#)



教育支援活動

アヲハタでは、教育支援活動の一環として、高等学校、大学などで講義や講演、ジャム製造実習などを実施しているほか、インターンシップ(職場体験学習)の学生・生徒を受け入れ、働くことの大切さ・厳しさなどへの理解を深めていただいています。また、アヲハタからの寄付金をもとに本社のある広島県竹原市では「アヲハタ奨学金基金」が2001年に設立されています。給付型の奨学金制度で、2002年より毎年新たに2名の大学生に奨学金を給付しています。

キューピーとキューピーたまごでは、2017年から一般の消費者様向けにスーパーやスポーツジムなどで卵の栄養・健康機能の認知啓発活動「たまご勉強会」を行っています。また、卵に対する認識や食べ方、トレンドを分析した調査報告「たまご白書」を発行し、卵に関する正しい知識の啓発・卵料理の楽しみ方の提案につなげています。

マッチングギフト制度(Q P e a c e)

キューピーグループは、従業員が社会課題の解決に取り組む団体に寄付を行うことを支援する活動として、マッチングギフト制度「Q P e a c e (キューピース)」を2008年度より導入しています。寄付先の団体は、従業員の推薦を受け、有志による選定委員会で決定しています。2020年度は、グループ26社より609名の従業員が参加し、「子ども」「環境」「食」を活動のテーマとする12の社会・環境団体へ寄付を行いました。従業員が社会課題への関心を高めるきっかけとしています。



Q P e a c e の流れ

1. 従業員が支援したい団体を推薦。従業員からなるプロジェクトメンバーと事務局で、推薦された団体を審査し、決定
2. 寄付を希望する従業員は毎月100円を1口として給与天引きし、Q P e a c e に積立
3. 会社は従業員の積立金と同額を支援
4. 各社会・環境活動団体へ寄付

 2021年 Q P e a c e 支援団体(180KB)



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

環境への取り組み

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。事業活動が与える影響を十分に配慮し、将来にわたってこれまでと同様の環境を残し、次世代に引き継いでいく使命があると考えています。

キューピーグループでは、サステナビリティに向けての重点課題として環境面で「資源の有効活用・循環」と「気候変動への対応」を特定し、グループ全体で取り組んでいます。

それらを含む、重要な環境課題として「資源の有効活用」「気候変動への対応」「生物多様性の保全」「水資源の持続的利用」「商品・サービスにおける環境配慮」の5つを軸に環境活動の全体を報告します。



重点課題：資源の有効活用・循環

サステナビリティ目標

グループで利用する主要な野菜(キャベツなど)の未利用部の有効活用

野菜未利用部の有効活用度：2021年30%以上 2024年50%以上 2030年90%以上

食品ロス(商品廃棄量)の削減(2015年対比)

廃棄量削減率：2021年25%以上 2024年35%以上 2030年50%以上

プラスチック排出削減と再利用(2018年度比)

排出量削減率：2024年8%以上 2030年30%以上

2020年度実績

野菜未利用部の有効活用度：40.0%

食品ロス(商品廃棄量)削減率：11.6%

重点課題：気候変動への対応(CO₂排出削減)

サステナビリティ目標

グループの年間のCO₂排出量削減(2013年対比)

排出量削減率：2021年7.5%以上 2024年20%以上 2030年35%以上

2020年度実績

CO₂排出量削減率：10.5%

KEY DATA

卵殻発生量
年間約2万8千トン

100%再資源化

野菜廃棄物ゼロ化
(2020年度実績)
サラダクラブ直営7工場中

4工場実現

モーダルシフト化率
(2020年度実績)

33%



➤ 環境マネジメント

グローバルなキューピーグループの方針として環境基本方針を定めています。



➤ 資源の有効活用

食資源の有効活用と廃棄物やプラスチックの削減に取り組んでいます。



➤ 気候変動への対応

CO₂排出量の削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスで省エネルギー、エネルギー転換に取り組んでいます。



➤ 生物多様性の保全

「キューピーの森」での活動を中心に、自然環境の保全に取り組んでいます。



➤ 水資源の持続的利用

人々の生活やさまざまな産業を支える大切な水資源について、効率的活用に取り組みます。



➤ 商品・サービスにおける環境配慮

容器の改良・賞味期間の延長を通じた食品ロスの低減を中心に、循環型社会の形成をめざしています。

キューピーについてもっと知る



キューピーグループ
オフィシャルブログ
従業員より、社会・環境への
取り組みを発信しています。



食育活動

キューピーの食育活動について
をご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

環境マネジメント

環境マネジメントの考え方

キューピーグループは、国内外での環境保全の意識の高まりを受けて、1998年12月に「環境基本方針」を制定し、事業における環境への配慮に取り組んできました。その後、「環境理念」「行動指針」からなる「環境基本方針」は2度の改定を経て、キューピーグループの方針としてきました。

環境基本方針

～環境理念～

調達から販売の全ての活動と商品で、環境への配慮に努めます。

行動指針

1. 省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、再資源化の推進と技術開発に努めます。
2. 環境への影響に配慮した商品開発と、容器包装の適正化を推進します。
3. 自主的な基準を定めて環境保全に取り組み、法規制の遵守はもとより社会的要請に応える環境管理体制の整備と充実を図ります。

重要な環境課題

資源の有効活用	食資源を中心に生産に関わる資源の有効活用に取り組み、循環経済（サーキュラーエコノミー）の実現をめざします
気候変動への対応	脱炭素社会の実現に向けてCO ₂ の排出量削減に取り組みます
生物多様性の保全	自然資本を事業活動を支える重要な資本の1つと捉え、生物の多様性を考慮した持続可能な資源利用を行います
水資源の持続的利用	水資源が全ての生物の生存に不可欠な要素であることを認識し、事業活動における水利用の持続可能性を高めます
商品やサービスにおける環境配慮	品質第一主義を守りながら、調達から消費に至るまで環境負荷低減に向けた商品設計に取り組みます

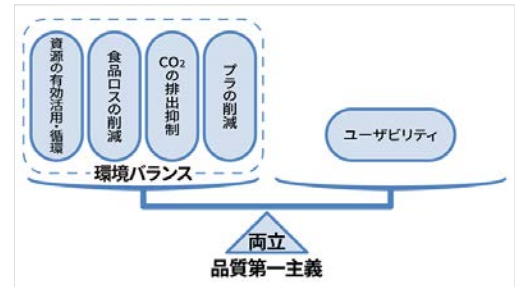
2015年に国連サミットで持続可能な世界を実現するための国際目標として、SDGs (Sustainable Development Goals) が合意されました。また、気候変動に関するパリ協定が採択され、企業が事業活動を通じて環境負荷低減に取り組むことへの期待が高まっています。キューピーグループでは、SDGsとパリ協定がめざす中長期での目標をふまえ、「サステナビリティに向けての重点課題」を特定しました。

それぞれの重点課題の取り組みについて指標（サステナビリティ目標）を設け、実践につなげています。

> 重点課題と推進体制

環境バランスとユーザビリティの両立

環境課題の解決は、さまざまな要因に配慮する必要があります。全体的な最大効果を考えなくてはなりません。私たちキューピーグループは、環境バランスを見極め、また最も大切な「品質第一主義」を土台にし、ユーザビリティと環境との両立を図りながら、課題解決を進めます。



環境マネジメント推進体制

キューピーグループでは、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会を開催しています。「サステナビリティに向けての重点課題」の解決に向け、環境面では「資源の有効活用と循環経済の実現」「気候変動への対応(CO₂排出削減)」の2つの重点課題に取り組んでいます。各課題の解決に向け分科会・連携プロジェクトで検討し、グループ全体への浸透と定着を図っています。

環境マネジメントシステム

キューピーグループでは、環境保全活動のPDCAサイクルを回すための基本ツールとして、各事業所でISO14001あるいはこれに準じた独自のシステムを導入しています。

ISO14001 認証取得状況

国内グループ生産72事業所中19事業所がISO14001認証を取得しています(2020年11月末現在)。

環境法規の遵守

キューピーグループの各事業所は、環境に関わる法令・条例などの規制の遵守はもちろん、独自の基準に基づき管理・対応を適正に行っています。

※ 2020年度は、関連法規等の違反や事故の発生はありませんでした。

環境監査

キューピーグループは、関連法規等の遵守、管理推進体制の整備、施設管理状況等についての基準を定め、定期的な内部監査を実施することで、それらを徹底するとともに環境保全活動を推進しています。このほかISO14001認証取得事業所では、規格に基づいた外部機関による審査を受け、要求事項に適合した仕組みや運用を確認しています。

事業活動における環境影響

商品の生産工程では、原料・資材・水などの資源、電気・ガス・重油などのエネルギーが消費され、産業廃棄物や排水、CO₂などが排出されます。また、商品輸送時のエネルギー使用に伴う環境負荷や、お客様がご使用された商品の容器包装は廃棄物になります。そうした事業活動に伴う環境への負荷を正しく認識し、商品開発、原資材調達、生産、販売、物流のすべての活動で、持続可能な地球環境に配慮し、省エネルギー・省資源、廃棄物削減、容器包装の改善、輸送の効率化、汚染防止などの環境保全活動を推進しています。



キューピーグループ生産部門での物質とエネルギーの流れ

キューピーグループ生産部門における物質とエネルギーの流れ(2020年度)

インプット

エネルギーの使用	購買電力	2,192 千GJ (220,382千KWh)
	燃料 ^{※1}	1,236 千GJ
	エネルギー合計	3,427 千GJ
水の使用	水(地下水、水道水)	8,172 千m ³

アウトプット

大気への排出	CO ₂	174.5 千トン
	NO _x	31.3トン
	SO _x	8.46トン
水域への排出 ^{※2}	排出量	6,358 千m ³
廃棄物の排出	排出量(再資源化率)	45.1 千トン(97%)

※1 発電燃料含む

※2 河川、公共下水道含む

対象: キューピーグループ生産工場

➤ ESGデータ集

地域への環境配慮

キューピーグループの事業所では、近隣にお住いの皆さまや、地域の環境に配慮して操業を行っています。

水質汚濁の防止

排水処理設備で浄化処理後の排水は自主管理基準を定めて水質等を管理し、地域ごとの基準を遵守しています。また、液体原料・燃料のタンクなどには漏洩防止設備を設置するとともに、万が一の公共水域への排出、地下浸透などを想定した訓練を行っています。

大気汚染の防止

ボイラーやコジェネレーション等は、適切な運転管理に努めるとともに、定期点検・メンテナンス、ばい煙測定を実施しています。また、ボイラー等の燃料についても、ばいじんや硫黄酸化物の発生が少ないガスへの転換を進めています。

騒音防止と臭気対策

排水処理や調理の際に発生する臭気対策として、工程改善や脱臭装置の整備を行っています。また、騒音防止のため、防音壁の設置や設備導入時の騒音評価、従業員や納入業者への指導等を実施しています。

環境コミュニケーション

キューピーグループの事業活動は、原材料をはじめとした豊かな自然の恵みのもとに成り立っています。持続可能な社会を引き継ぐために、事業活動が与える自然への影響に十分に配慮し、環境負荷低減活動や環境保全活動の充実を図り、環境活動を通じてステークホルダーの皆様とコミュニケーションを深めることを目的に、情報発信に努めます。

環境教育

キューピーグループでは、従業員の環境保全に対する意識を高め、取り組みを推進するために環境教育を行っています。

関係部署と連携を取り、環境実務に即した内容で要望のある講座を実施しています。

排水処理管理、廃棄物管理等の教育は定期的を実施しています。

各事業所でも、環境問題に関する一般教育や緊急事態を想定した訓練などを行っています。

工場・見学施設における環境活動

パネルの常設展示

マヨテラス(東京都調布市)では、キューピーグループが取り組んでいる環境活動パネルを常設展示しています。来場いただいたお客様は、待ち時間を使ってご覧いただけます。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

資源の有効活用

資源の有効活用の考え方

限りある食資源を無駄なく有効活用することは、食品メーカーの重要な責任です。サプライチェーン全体で工夫を重ねて、食品の持続的な生産と多くの方の暮らしやすさを両立させていく必要があります。

キューピーグループは、重要な環境課題のひとつ「資源の有効活用」として、野菜未利用部の有効活用と商品廃棄の削減を優先して注力しています。

新たに「循環経済の実現」をサステナビリティに向けての重点課題に加え、プラスチック排出削減と再利用の取り組みを進めています。

食品ロス削減への対応

限りある食資源を利用する食品メーカーの重要な責任として、キューピーグループでは食品ロスを削減して、資源の有効活用に努めてきました。

近年、気候変動により原料となる農産物等への収量や品質へ影響が生じるなど、食品ロス削減の重要性は一層高まっています。また、お客様をはじめとするステークホルダーからの食品ロス削減への関心も高まっており、その期待に応え続けたいと考えています。

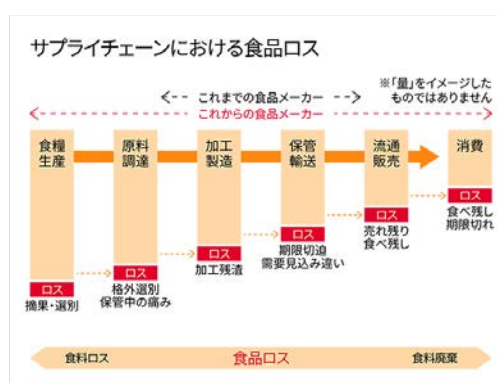
当社グループでは、サプライチェーンの各段階における食品ロス(図参照)への理解を進めています。当社グループ内での連携とステークホルダーとの協働により、資源の有効活用の取り組みをサプライチェーンの各段階で展開し、食品ロス削減を実現していきます。

商品廃棄の削減

サステナビリティ目標「食品ロス(商品廃棄)の削減」では、SDGsが掲げるターゲットへの貢献をめざしています。

商品廃棄の主な原因は、需要予測による生産と販売実績とのギャップや流通段階での売れ残りによる返品が生じることなどによります。各社各部門が連携するのはもちろんの事、フードバンクへの寄贈も積極的に行うことで課題解決に向け取り組んでいます。

また、キューピーが主催する地域向けイベントを開催した際に、地域の社会福祉協議会やNPOと連携し、家庭で眠っている食品を集める活動「フードドライブ」を実施しました。従業員だけでなく、消費者にも家庭内の食品ロスを意識してもらうよい機会となりました。



サプライチェーンの各段階で発生する食品ロス

食品ロス削減を目標に生産・販売・物流が連携したワーキンググループ

2015年より関係部署が集まり、月に1度のワーキンググループを開催しています。

ここでは「商品在庫」に着目し、製造から流通に至る過程でのさまざまな課題や解決策を話し合います。

この活動により、社内の食品ロス削減に対する意識も変化したことで、計画的な生産が実現し、商品在庫の適正化によって、廃棄削減につながっています。

また、SDGsの浸透もあり、販売部門と物流部門からの働きかけにより一部のドラッグストアや外食企業に賛同いただき、返品による廃棄の削減が大幅に進み、社内外を巻き込んだ取り組みへ発展しています。

廃棄物排出量の削減

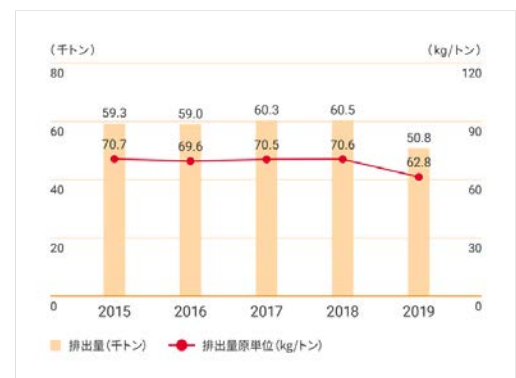
廃棄物排出量の削減目標

- ・ 総量および生産数量当たりの原単位 前年比減

キューピーグループは、製造工程における歩留まりの改善や、容器包装の改善などによる廃棄物の発生抑制を第一として取り組んでいます。

工場の主な廃棄物は、製造工程から排出される食品残さや包装資材のロスとしての廃プラスチック類、排水処理設備における排水処理後の汚泥などがあります。2020年度は、キューピーグループ工場での廃棄物排出量は、総量45.1千トンで前年度より11%減少、生産数量1トン当たりの廃棄物排出量(原単位)は58.4kgで前年度より7%減少となりました。

廃棄物排出量※



対象：キューピーグループ生産工場

※ 卵殻粉などグループ内で再資源化している副産物を除く

※ 使用量・原単位の大幅な減少の主な原因は、サラダ・惣菜事業における一部事業売却による影響

再資源化の推進

キューピーグループは、卵殻の肥料化や野菜の未利用部の飼料化などの食品残さの社内再生や、廃棄物等として外部に再資源化を委託することにより、工場が発生する廃棄物等の再資源化率100% (単純焼却・埋立て処分ゼロ)に取り組んでいます。

2020年度の再資源化率は97%となっています。また、再資源化率100%達成工場は、グループ生産72事業所中27事業所となっています。

卵の100%有効活用

キュービーグループでは、マヨネーズ以外にもさまざまなタマゴ加工品を生産しており、日本で生産される卵の約10%を使用しています。

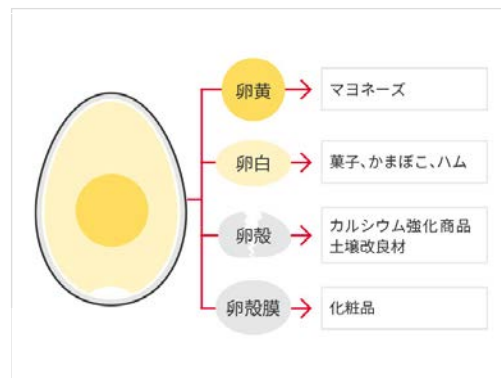
「キュービー マヨネーズ」は、卵黄を使用し、卵白はかまぼこなどの水産練り製品や、ケーキなどの製菓の食品原料として使われます。

また、年間約2万8千トン発生する卵殻は土壤改良材や

カルシウム強化食品の添加材などに有効活用し、100%再資源化しています。卵殻膜は、化粧品などへの高度利用に取り組んでいます。

▶ 令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰キュービーグループが農林水産大臣賞を受賞

▶ 第7回「食品産業もったいない大賞」キュービーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞



卵の有効活用

卵殻は米も強くし、ヒトの骨をも強くする

東京農業大学 応用生物科学部 辻井良政教授、加藤拓准教授と共同で、卵殻の肥料としての価値を研究しています。現在までに、水田に卵殻を施肥することで、猛暑などの天候不順による水稻への影響を低減し収穫量を改善すること、米の品位が向上することが分かってきました。米の作付面積は日本の耕地面積の中で最も大きい※ため、将来的には、キュービーグループだけでなく日本全体の卵殻の有効活用も期待できます。

また、ベトナムのハノイ国立栄養研究所との共同研究では、卵殻カルシウム(食用微細化卵殻粉、炭酸カルシウムを主成分とする生体素材)がヒトの骨量を増加させることを確認しました。卵殻は、高齢化で世界的に課題となる骨粗しょう症の解決に貢献できる素材です。現在ベトナムでは、卵殻カルシウムを配合した栄養強化食品の販売と合わせ、学校や病院への認知啓発と提案を進め、子どもの体格向上と高齢者の骨粗しょう症への課題解決に取り組んでいます。

※ 農林水産省 平成30年農作物作付(栽培)延べ面積及び耕地利用率 参照

メッセージ

卵殻の可能性を明らかにすることが今後の課題です

卵殻の主成分であるカルシウムは、植物の細胞ひとつひとつを頑健にするだけでなく、細胞内でさまざまな生理活性をもつと考えられています。一方、気候変動が地球規模で生じるなか、人間にとっても大変な猛暑は、お米の収量を減らす原因のひとつです。我々は、卵殻のカルシウムが稲の夏バテを防ぎ、お米の収量を安定化させると考えており、そのメカニズムを明らかにすることが、今後の課題です。

東京農業大学 応用生物科学部
農芸化学科 土壤肥料学研究室
准教授 加藤 拓



卵殻膜の機能

キューピー独自の製法で卵殻と卵殻膜を分離することに成功しました。水に溶ける卵殻膜には、肌のハリのもととなるⅢ型コラーゲンを増やす働きがあることがわかり、1991年から化粧品原料として活用しています。

卵殻と食酢から生まれたカルシウム肥料

キューピー醸造では、卵殻を食酢に溶かしたカルシウム肥料「葉活酢(ようかつす)」を開発・販売しています。定期的に葉の表面に散布すると、カルシウム欠乏症を防ぐ効果があり、野菜や果物、花など植物が元気に育ちます。

食品由来の成分なので、人や環境にやさしく、安心してお使いいただける商品です。

＜お酢と卵でできた葉活酢 キューピー醸造 ④

卵殻活用のあゆみ

- 1956年 卵殻を天日で干し、土壌改良剤として農家に販売を開始
- 1969年 卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
- 1981年 卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現)
- 1991年 卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
- 2007年 卵殻を建築材や日用雑貨(壁紙、タイヤなど)の原料として発売
- 2012年 卵殻を肥料として生産した米に関する研究を開始
- 2017年 ベトナムにて栄養強化食品として卵殻カルシウムソースを発売
- 2019年 卵殻に関する取り組みが「3R推進功労者等表彰」農林水産大臣賞を受賞
- 2020年 卵殻に関する取り組みが「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞を受賞

野菜の再資源化

キューピーグループでは、サラダ・惣菜の加工時に生じる野菜の芯やへた、外葉や皮などの未利用部の有効活用に取り組んでいます。

2017年度、カット野菜工場の株式会社グリーンメッセージでは、これまで事業規模では難しいとされたキャベツ・レタスの葉物野菜の飼料化に成功しました。東京農工大学とキューピーの共同研究※で、この飼料を与えた乳牛は乳量が増加することが報告されています。

今後も、野菜の未利用部をより有効に活用する方法を探索します。

※ 日本畜産学会第124回大会(2018年3月)発表



野菜の未利用部の有効活用(例:キャベツ)

＜平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 キューピーグループが内閣総理大臣賞を受賞

＜第6回「食品産業もったいない大賞」キューピーグループが農林水産賞食料産業局長賞を受賞

プラスチック削減

私たちキューピーグループは、食品の容器包装などにプラスチックを利用しています。プラスチックは、軽くて壊れにくいという利点がありますが、海洋プラスチックごみをはじめ、地球環境への影響が指摘されています。キューピーグループでは、プラスチックが生態系や環境に大きな影響を及ぼす重要な課題と認識し、石油由来プラスチック使用削減の取り組みを進めています。

容器の軽量化

2000年に主力製品であるマヨネーズ容器を軽量化し、その後もドレッシング容器の軽量化を行っています。

再生プラスチックの採用

2020年2月にスティックタイプドレッシングの外装の一部(約15%)に、再生プラスチックを採用しています。

今後推進していく主な取り組み

- ・商品の容器包装、工場で使用するプラスチックの更なる削減
- ・分別しやすい商品設計
- ・再生プラスチックおよびバイオマスプラスチックの積極的導入
- ・循環経済の実現をめざし、回収・再生に積極参加



マヨネーズ容器の軽量化



ドレッシング容器の軽量化



再生プラスチックを外装に使用

関連する取り組みを知る



野菜の研究

野菜についての研究を紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

気候変動への対応

気候変動対応への考え方

気候変動リスクへの対応

サプライチェーンにおけるCO₂排出量

生産における取り組み

物流における取り組み

オフィスにおける取り組み

気候変動対応への考え方

気候変動の防止は人類共通の課題です。キューピーグループでは気候変動の原因となるCO₂排出量削減のため、調達、生産、物流、販売、オフィスの各段階において、省エネルギーやエネルギー転換など積極的に取り組んでいます。

サステナビリティにむけての重点課題「CO₂排出削減(気候変動への対応)」への取り組みでは、サステナビリティ目標に国内各部門からのCO₂排出量削減を設定して、気候変動の防止へさらに注力しています。

CO₂排出量の削減

気候変動の進行を受けて、2021年度、サステナビリティ目標「CO₂排出削減」を見直し、2024年度目標20%、および2030年度目標35%へ修正しました。

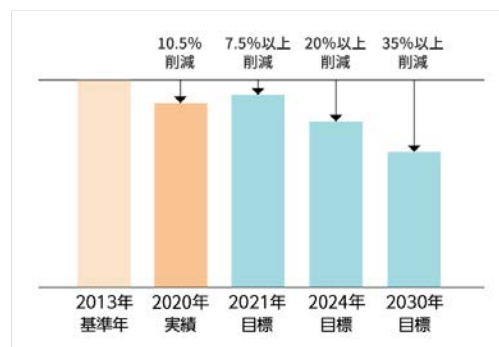
更なるCO₂排出削減のため、グループ全体で製造工程の効率改善、省エネ設備の導入など、従来の取り組みに加え、脱炭素社会に向けた製法・工程の変革、再生可能エネルギーの導入を検討しています。

物流では長距離トラック輸送から鉄道・船舶輸送へのモーダルシフト、異業種メーカーとの共同輸送を積極的に推進しています。

オフィスではAIなど新技術を活用したエネルギー使用の最適化に取り組んでいます。

また、サプライチェーン全体でのCO₂排出量の算定を進め、その削減を推進します。

CO₂排出削減目標の上方修正



再生可能エネルギーの活用

キューピーグループでは、国内外で再生可能エネルギーの導入を順次進めています。2020年度、国内ではキューピー五霞工場(茨城県猿島郡)に続く2カ所目の自家消費型の太陽光発電設備を旬菜デリ昭島事業所(東京都昭島市)で稼働しました。海外でもタイの生産事業所で太陽光発電設備を事業所の屋上および遊水池の水上に増設しました。今後も当社グループでは再生可能エネルギーへの転換を積極的に実施します。



旬菜デリ昭島事業所に設置した自家消費型発電施設



タイの生産事業所に設置した水上太陽光発電施設

気候変動リスクへの対応

リスクマネジメント委員会において「気候変動リスク」を2020年度から対応すべき環境リスクに選定し、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）勧告に基づくシナリオ分析に着手しています。当社グループの気候変動リスクを特定して、リスク軽減と事業機会の創出につなげます。

＜リスクマネジメント

サプライチェーンにおけるCO₂排出量

環境省支援事業において、キューピーのサプライチェーン排出量を算出しました。原材料調達にかかる排出量が最も多く、次に輸配送と廃棄にかかる排出量が多い結果となりました。

今後、キューピーグループでのサプライチェーン排出量を算定し、削減に向けた取り組みを着実に進めていきます。

＜環境省ホームページ「グリーン・バリューチェーンプラットフォーム」企業の取組事例 [📄](#)

＜ESGデータ集

生産における取り組み

生産部門のCO₂排出削減

キューピーグループでは、製造工程での効率改善、設備の導入などによる省エネルギーを基本として、A重油から都市ガス・天然ガスへの燃料転換、コジェネレーション(熱電併給)や太陽光発電の利用を進めています。また、グループ事業所での優れた取り組み事例を共有・展開することによってCO₂排出削減に努めています。

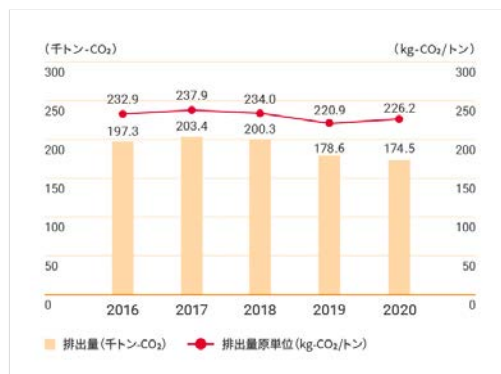
生産部門のCO₂排出削減目標

排出総量 年1%以上減

2020年度、キューピーグループ生産工場でのエネルギー使用に伴うCO₂排出量は、総量174.5千トンで、前年度より2.3%減少しました。生産数量1トン当たりのCO₂排出量(原単位)は、226.2kgで、前年度より2.4%増加となりました。新型コロナウイルス感染症の影響から生産数量とCO₂排出総量は減少しましたが、原単位は増加となりました。

ここでは生産工場での取り組み貢献量を示すため、CO₂排出量換算に用いる係数を2013年度から固定しています。

CO₂排出量



対象: キューピーグループ生産工場

CO₂排出係数(2013年度から固定)

エネルギー源別標準発熱量・炭素排出係数(資源エネルギー庁 2005年版)および、電気事業者別の排出係数(2011年度実績、経済産業省・環境省公表)より

購入電力: 0.491kg-CO₂/kWh

A重油: 2.710kg-CO₂/L

都市ガス(13A): 2.267kg-CO₂/m³

LPG: 3.036kg-CO₂/kg

自然冷媒冷凍機の活用

キューピーグループでは、省エネ設備の導入と設備の運用最適化に取り組んでいます。冷凍機更新において、自然冷媒機を導入することにより、CO₂削減と脱フロンを実現しています。

キューピー中河原工場（東京都府中市）では、冷凍機の設備更新にあたり自然冷媒機を2018年に導入し、CO₂削減効果を継続して検証しています。

自然冷媒冷凍機導入によるCO₂排出量削減 （削減計画値 530.3トン-CO₂）

2018年度 940.3トン-CO₂

2019年度 947.1トン-CO₂

2020年度 977.5トン-CO₂

※ 撤去したフロン冷媒のCO₂排出換算量を含む行政年度での報告



アンモニア冷凍機

※ 当事業は環境省「脱フロン社会構築に向けた業務用冷凍空調機器省エネ化推進事業」による補助を受けています。

物流における取り組み

キューピーグループでは、お取引先やグループ会社と連携し、原料輸送から商品配送にいたるまで、すべての輸配送で環境負荷低減に取り組んでいます。

輸配送距離の短縮化と積載効率向上による輸配送効率化、低燃費で安全にもつながるエコドライブなどを実施しています。加えて、長距離トラック輸送の鉄道や船舶への切替（モーダルシフト）を推進して、CO₂排出削減を実現しています。

キューピー商品の輸配送によるCO₂排出量は、2020年度22.0千トンで前年比2.3%減となりました。

輸配送によるCO₂排出量

		2019年度	2020年度	前年度比
キューピー 販売商品	輸配送量(千トンキロ)	142,237	138,443	-2.7%
	CO ₂ 排出量(トン)	22,539	22,010	-2.3%

モーダルシフトの推進

専用31フィートコンテナ10基(うち冷凍コンテナ4基)を導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフト※1を推進しています。

キューピーは、商品を輸送する時に貨物鉄道を一定割合以上利用している企業として、2019年7月に「エコレールマーク」認定をされました。モーダルシフト化率※2は、2020年度33%と輸配送量の増加により前年比減となっています。

※1 モーダルシフト:500km以上の長距離トラック輸送を鉄道・船舶でのコンテナ輸送へ転換すること

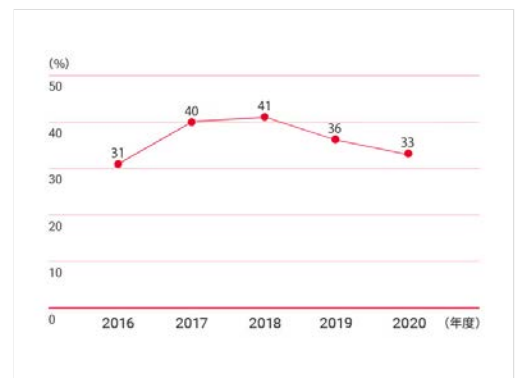
※2 モーダルシフト化率:500km以上の輸送トン数に対し、鉄道や船舶による輸送トン数の比率



＜国土交通省「エコレールマーク」のご案内＞



鉄道・船舶積載用31フィートコンテナを10基導入し、輸送事業者と連携してモーダルシフトを進めています



モーダルシフト化率の推移

異業種での共同輸送の取り組み

キューピーは、2018年からトイレタリー業界のライオン株式会社、レンタルパレット業界の日本パレットレンタル株式会社と一緒に共同輸送を実施しています。3社の荷物を載せることで、トラックが空での移動を1%未満に抑えることができました。

加えて、一部区間をトラックから船に切り替えるモーダルシフトを行うことでさらにCO₂削減の効果を高めています。この取り組みは外部から高く評価され、平成30年度グリーン物流パートナーシップ会議優良事業者表彰において「国土交通大臣表彰」をいただいています。

＜平成30年度グリーン物流パートナーシップ 国土交通大臣表彰を共同受賞＞

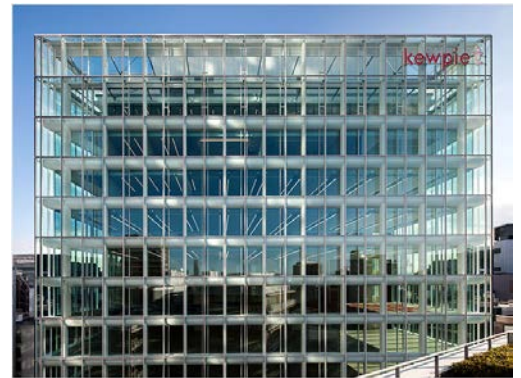
オフィスにおける取り組み

キュービーグループは、2013年10月の仙川キューポート新設を皮切りに、本社・研究部門を中心としたオフィス事業所の集約を進めています。省エネ設計・設備の導入とともに、オフィス事業所間の連携により、省エネ性能を十分に発揮するためのノウハウの共有や運用改善、改修を継続的に行っています。

渋谷オフィスでの取り組み

キュービーグループの渋谷オフィス（渋谷董友ビル）は、ビル全体を2重のガラスが覆い（ダブルスキン）、ガラス間を自然換気することで高い断熱性を実現しています。また、高効率空調機やLED照明といった省エネ設備も導入しています。

これらの環境設計により、建築総合環境評価システム「CASBEE」の総合評価Aランクに認定されています。また、グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業※に採用されています。



2重ガラスが覆う（ダブルスキン）外観

※グリーンファイナンス促進利子補給金交付決定事業：環境省が公募した、地球温暖化対策のための設備投資の事業に係る融資に対する利子の一部を補給する対象となる事業。

仙川キューポートでの取り組み

仙川キューポートでは、吹き抜けを活用した自然換気システム、コージェネレーションシステム、太陽光発電、LED照明などを導入しています。省エネ設計性能を最大化するため、設備メーカーとの連携を深めるとともに、仙川キューポートに勤務する多くの社員に聞き取りなどを行うことで、運用精度の向上を図っています。

さらに、株式会社日立製作所との協働により、クラウドサーバ上のAIを利用して、気象予報データと空調機器（冷凍機、ヒートポンプ、ガスボイラー、コージェネレーション発電）の稼働状況などに基づく最適化運転パターン分析を実現、運用を検証しました。

導入前に比べ、空調機器のエネルギー使用量（原油換算）を夏季・冬季で11～12%、中間期（春季）で37%削減しました。

さらなるエネルギー最適化をめざし、AI活用をはじめ新技術の探求を進めています。



自然換気システム

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

生物多様性の保全

自然環境の保全の考え方

キューピーグループの事業活動は、豊かな自然環境と密接な関わりを持っています。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という考えを大切に、原料を生み出す自然の恵みに感謝し、豊かな自然と生物多様性の保全に努め、持続可能な社会を次世代につないでいきます。

国立公園における生物多様性への配慮

富士吉田キューピーは、国立公園内に立地しています。保護地域内や隣接地域でもあるため、敷地内で自然の整備や水資源を涵養する緑地面積の確保、日照に恵まれた立地を活かし、再生可能エネルギーを取り入れるなど特に自然保全に向けた取り組みを行っています。

今後は、事業活動と自然環境の関連について評価し分析するとともに、地域の皆さまとの情報共有を通じて、取り組むべき活動を策定し実施していきます。



富士吉田キューピーに設置した太陽光パネル

キューピーグループの環境保全活動

「自然環境の保全の考え方」のもと、キューピーグループでは長年に渡り環境保全活動を行ってきました。

2007年9月から2020年3月までは、やまなし森づくりコミッションに参画し、山梨県富士吉田市の富士北麓にある森林「キューピーの森」で、水源涵養を目的とした森林保全活動を行いました。

従業員とその家族から参加者を募り、地元のNPO法人の方々と間伐・植樹活動を中心に、周辺環境が抱える諸問題について学ぶ講座も開設し、活動を通じて自然環境や生物多様性の理解を深めるきっかけとなりました。

また、2014年から2019年まで、ラムサール条約に登録され国内3番目の面積をもつ霧多布湿原において、湿原を中心とした保全活動を行うとともに認定NPO法人霧多布湿原ナショナルトラストの活動を資金面で支援してきました。

今後は、キューピーグループの事業活動が自然環境に与える影響を把握し、活動を見直し、持続可能な社会を次世代に繋げる、よりよい活動をめざします。



環境講座の様子



木道整備の様子

調達における生物多様性保全への配慮

「キュービーグループの持続可能な調達のための基本方針」を2018年に策定し、環境や人権に配慮した調達を推進しています。

パーム油

2018年にRSPO[※]へ加盟し持続可能なパーム油の調達に取り組んでいます。

※ RSPO: 持続可能なパーム油のための円卓会議

紙

段ボール・紙器メーカーとの協働で、適切に管理された森林木材を使用したFSC認証材の導入を進めています。

[> 調達への取り組み](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み

環境マネジメント >

資源の有効活用 >

気候変動への対応 >

生物多様性の保全 >

水資源の持続的利用 >

商品・サービスにおける環境配慮 >

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

水資源の持続的利用

水は、人々の生活やさまざまな産業にとって欠くことのできない貴重な資源です。

キューピーグループでは、商品の原料になる農作物や生産工程における洗浄・冷却などに多くの水を使っています。

事業を継続するために、水は限りある貴重な資源と認識し、効率的な利用と取水・排水における環境負荷の低減に取り組めます。

水リスクの調査

水リスクについて、事業運営への影響を確認するため、世界資源研究所(WRI)が提供している「AQUEDUCT」を用い、キューピーグループ全生産事業所の調査や現地へのヒアリングを進めています。

水資源の効率的活用

キューピーグループでは、製造方法の見直しや工程の改善を行い、効率的な水利用を促進し、水使用量の削減に取り組んでいます。

2020年度のキューピーグループ工場の水使用量は、総量8,172千m³でした。
生産数量1トン当たりの水使用量(原単位)は10.6m³となりました。



高度処理水の利用

新設事業所においては、人と環境にやさしい工場づくりの一環として、排水の高度処理システムを導入し、節水に取り組んでいます。

株式会社旬菜デリ昭島事業所

2012年11月に生産を開始した旬菜デリ昭島事業所(東京都昭島市)では、生産ラインからの排水の再利用に向けて、膜処理(RO)技術を活用した設備を導入しています。一日平均160トンの純水を再生し、加工場内のトイレや樹木への散水、床の洗浄水、屋根散水、空調設備の室外機冷却などに使用しています。



逆浸透膜(RO)ろ過装置

キューピータマゴ株式会社 飯能工場

2015年3月に生産を開始したキューピータマゴ飯能工場(埼玉県飯能市)では、中空糸膜排水処理設備の処理水を活性炭やRO膜で浄化した後、中水として工場のトイレの洗浄水や冷凍機の室外機の冷却などに再利用しています。室外機の省エネ対策などに向けて、今後も再利用の範囲を広げていく予定です。



中空糸膜モジュール
ユニット



中空糸膜モジュール
ユニット(散気中)



活性炭塔



RO膜ユニット

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジ メント	+
健康な食生活への取り組 み	+
食育を中心とした社会へ の取り組み	+
環境への取り組み	
環境マネジメント	>
資源の有効活用	>
気候変動への対応	>
生物多様性の保全	>
水資源の持続的利用	>
商品・サービスにおけ る環境配慮	>
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

商品・サービスにおける環境配慮

キューピーグループでは、品質第一主義を守りながら、調達から消費に至るまで環境負荷低減に向けた商品設計に取り組んでいます。

商品の容器包装について、容器の軽量化、再生材の開発をすすめ、環境負荷が少ない包材の採用や賞味期間の延長など、食品ロス削減に貢献しています。

また、家庭での食材ロスをなくすため、食べられるのに捨ててしまっている野菜の茎や外葉、芯を活用するメニュー提案を強化していきます。

容器包装設計での環境負荷低減

商品の容器包装は、商品の品質を保ったまま、おいしく食べていただくために欠かせないものですが、生産する際にエネルギーを消費し、使用後は廃棄物となります。

キューピーグループでは「容器包装選定の方針」のもと、容器包装の軽量・簡素化やバイオマス、再生材など環境にやさしい包材の採用を推進しています。

容器包装選定の基本方針

- ・ 食品の容器として適切であること
- ・ 環境汚染物質を発生させないこと
- ・ 省資源・省エネルギーに努め、多重包装はなくすること
- ・ リサイクルへの適正を向上させ、促進すること
- ・ 環境に配慮した包装技術の確立に努めること

容器包装の軽量化・簡略化

キューピー ドレッシング 380ml

2019年4月よりボトルの強度を落とさない工夫を施すことで、従来のボトルの形状イメージを損なうことなく軽量化を実現しました。

これにより従来のボトルに比べプラスチック使用量を削減することができました。



キューピー ベビーおやつ

たまごたっぷりぼうろ

2021年3月より外装、内装でのプラスチック使用量を約25%削減しました。



キューピー「すまいるカップ」シリーズ、 「やさしい献立」カップタイプ

2021年3月より上部に付いていた外蓋をなくすことで、使用するプラスチック量を10%削減しました。



パレット積付け方式の工夫

主力のマヨネーズ商品において、輸送時のパレット積付け方式の変更を行いました。段ボールの特性を活かした積付け方式を採用することで材質低減を進め、古紙材料削減による環境負荷低減を実現しました。これにより段ボールの使用量を年間約590トン削減しました。



環境負荷の少ない包材の採用

キューピー ドレッシング スティックタイプ

2020年2月より外装に再生プラスチック※を約15%使用しています。

これにより、石油由来原料やCO₂排出量の削減に貢献することができます。

※ 使用済PETボトルを高品質に再生したプラスチック



「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ

2020年8月より環境配慮への取り組みの一環として、植物由来のプラスチック※を一部に使ったパウチを、全19品のうち12品で採用しました。パウチの材質を変えることにより、年間で約18トンの温室効果ガスを削減しました。

※ 植物由来のプラスチック：再生可能な有機資源（サトウキビの副産物などの植物）を原料に使用したバイオマスプラスチック



賞味期限延長と賞味期限「年月表示」開始によるロス削減

食品ロスの削減は、世界的な課題となっています。この食品ロスの中には、家庭内ストックの賞味期限切れによる廃棄分も含まれています。

キューピーグループでは、製法や容器包装の改良による賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」切り替えを通して、食品ロス削減に取り組んでいます。

マヨネーズの賞味期間延長

マヨネーズを長期間保存した場合、酸素などの影響により品位が低下することがあります。

「キューピー マヨネーズ」は発売以来、酸素を通しにくい多層容器採用や、植物油中に溶け込んでいる酸素を限りなく取り除いた「おいしさロングラン製法」の導入、製造工程中の酸素レベルの低減など、製法・容器でさまざまな工夫をしてきました。また、「キューピー ハーフ」では、配合の変更により品位を向上させることに成功しました。

これにより、「キューピー マヨネーズ (50g～450g)」「キューピー ハーフ」の賞味期間を、従来の10カ月から12カ月に延長することができました。



パッケージサラダの消費期限延長

株式会社サラダクラブでは、「野菜本来の抵抗力を活かし、なるべくダメージを与えないように洗浄すること」と「10℃以下の低温流通管理(コールドチェーン)」を両立させ、パッケージサラダの鮮度を維持する技術の確立に取り組んできました。

「野菜にやさしい製法(特許4994524号)」取得後、約4年間の検証を重ね、野菜へのダメージを更に抑えながら洗浄する技術を確立しました。その結果、「千切りキャベツ」の消費期限を1日延長することができ、加工日に加え5日間となりました。(沖縄県は除く)

消費期限延長により、販売店では売れ残りによる廃棄ロスや売り切れによる販売機会ロスが低減できます。また、お客様にはまとめてご購入いただきやすくなります。



介護食・素材パウチの賞味期限延長と「年月表示」開始

2018年9月に介護食「やさしい献立」シリーズ47品（賞味期間18ヵ月または12ヵ月の商品）を、2019年3月にはサラダクラブ「素材パウチ」シリーズの一部について賞味期間を延長しました。

また、この2シリーズにおいては、賞味期間延長に加えて、賞味期限を「年月日表示」から「年月表示」に変更しました。賞味期間延長と賞味期限の「年月表示」により、返品や食品ロス削減へつなげていきます。



食品ロス削減のためのメニュー提案

食品ロス削減に向けた取り組みを、お客様が毎日の食生活の中で実践する支援をしたいと考えています。

野菜の外葉や芯などは、捨ててしまいがちな部位ですが、少しの工夫でおいしい食材として活用することをおすすめしています。傷や外敵などから野菜を守ったり成長が盛んな部位にあたることで、他の部位とは違う栄養や機能に優れている場合もあります。

料理メニューを紹介する「とっておきレシピ」サイトで、2019年から東京家政大学の皆さんが考案してくれたメニューなどをご紹介します。

今後もさらにいくつかの野菜を紹介し、食材をよりよく活用する食生活の提案をしていきます。

[芯まで活用!キャベツのレシピ](#)



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み +

食育を中心とした社会へ
の取組み +

環境への取組み +

ガバナンス

└ 倫理規範 >

└ コーポレート・ガバ
ナンス >

└ リスクマネジメント >

人と働き方への取組み +

安全・安心への取組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

ガバナンス

キューピーグループは、グループの理念に基づく事業活動を通じて世界の人々の食生活と健康に貢献し、持続的な成長と企業価値の向上を実現するため、経営上の組織体制や仕組み・制度などを整備し、必要な施策を適宜実施していくこと、また経営の成果をお客様や従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会などのステークホルダーの皆様に適切に配分すること、これらを経営上の最も重要な課題の一つに位置づけています。

コーポレート・ガバナンスについては、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みと定義し、「グループ規範」を遵守するとともに、基本方針に沿って、適切で効果的な体制の整備および充実に継続的に取り組んでいます。

KEY DATA

全従業員の意識調査アンケート回答率
対象者11,307名（2020年度実績）

89.3%
(2年に1回実施)

マインドアッププログラム受講者数
対象:全従業員(KRS・アラハタグループ除く)

毎年**1.2**万人

ヘルプラインへの通報・相談件数
(2020年度)

38件



② 倫理規範

理念に基づく倫理規範によってステークホルダーの皆様に信頼していただける企業活動を行います。



② コーポレート・ガバナンス

透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うための仕組みをご案内します。



② リスクマネジメント

リスクによる経営への損失を低減し中長期目標の実現性を高めることに注力します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジ メント	+
健康な食生活への取組み	+
食育を中心とした社会への 取組み	+
環境への取組み	+
ガバナンス	
└ 倫理規範	>
└ コーポレート・ガバナ ンス	>
└ リスクマネジメント	>
人と働き方への取組み	+
安全・安心への取組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

倫理規範

キューピーグループは、社是・社訓を基本としたグループの理念の考えのもと、私たちの活動を支えていただいているステークホルダーの皆様から、最も信頼していただけるよう私たちの姿勢を「グループ規範」として表しています。

その中で、より良い企業市民として守っていくことを倫理規範として定めています。

役員をはじめ、一人ひとりの従業員がグループ規範の心を理解して誠実に遵守していくことが、企業としての一層の透明性とお客様からの信頼につながるものと考えています。

> 理念

> キューピーの約束

倫理規範に基づく取り組み

法令の遵守

企業の持続的な発展には、法令遵守はもとより、すべての役員および従業員が高い倫理感を持って事業活動を行う必要があります。また、持続的な企業運営を支えるのは従業員であることから、一人ひとりの行動の基本となる考え方をグループ内外に浸透させ、お客様からの信頼と従業員相互の自浄作用につなげることも重要です。この考えのもと、キューピーグループはコンプライアンス推進体制を構築し、すべてのグループ従業員に徹底する取り組みを推進しています。

> コーポレート・ガバナンス

> キューピーグループ反贈賄基本方針制定

コンプライアンスの推進

2004年1月に「グループ倫理行動規範」を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、全社横断的コンプライアンス体制を整備しました。同委員会ではコンプライアンスに関する規定の整備や問題点の抽出、従業員に向けたマインドアッププログラムなどを実施し、活動の内容についてはコンプライアンス担当役員が定期的に取締役会および監査役会に報告しています。

・従業員意識調査アンケート

全従業員に意識調査アンケートを隔年で実施し、コンプライアンス意識の確認と意見の聴取を行い、透明性が高く働きやすい職場の実現に努めています。

・ヘルプライン

公益通報者保護制度に対応した内部通報体制として、ヘルプラインを設置しています。

社外の弁護士、第三者機関、監査役などが受けた通報・相談はコンプライアンス委員会が調査し、違反行為は処分を行い、社内に公表し、再発防止策を実施します。

人権の尊重

役員・従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境を実現します。従業員意識調査のアンケートを通じて、人権侵害の有無を調査する取り組みなどを進めています。また、事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、バリューチェーン全体での人権の配慮にさらに取り組んでいきます。

> 人権尊重への取り組み

 キューピーグループ人権方針 (562KB)

公正・健全な企業活動

全てのステークホルダーの皆様の信頼を得るために企業活動に伴う法令を遵守するとともに良識的な行動を行います。また公正・自由な競争を行い透明で健全な関係を築きます。原材料の調達についても同様の考えのもと、品質第一主義という考えを大切にしながら、サプライチェーンにおける環境や人権にも配慮した取り組みを進めています。

＞ [持続可能な調達のための基本方針](#)

＞ [調達への取り組み](#)

競争法(独占禁止法・下請法)遵守に向けた体制づくり

キユービーグループは、公正・健全な企業活動を実践する取り組みとして、競争法(独占禁止法・下請法)の遵守に取り組んでいます。

独占禁止法への対応

- ・ 「独占禁止法遵守マニュアル」の制定
- ・ eラーニングを通じた従業員への教育、周知
- ・ 海外の主要なグループ会社において、弁護士による社内研修の実施

下請法への対応

- ・ 下請法に対応した発注・支払システムの構築・運用
- ・ eラーニングや社内勉強会による、下請法に関する教育・研修の定期実施
- ・ 「下請法対応マニュアル」、発注書など必要書類の各種フォーマット、下請法セルフチェックリストの整備
- ・ 関係部門での下請法担当者選任、セルフチェックおよび自主改善活動の推進

情報セキュリティの徹底

会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程などに関する各管理マニュアルを制定し、情報推進委員会を中心に情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、規程の見直しなどを行っています。

また、海外拠点においても、各国の制約やIT環境に合わせて規程の整備や従業員への周知を進めています。

＞ [プライバシーポリシー](#)

＞ [コーポレート・ガバナンス](#)

＞ [個人情報の取り扱いについて](#)

反社会的勢力への対応

社会の一員として社会秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力とは一切関係を持たず、不当要求に対しては毅然として対応します。

グループ従業員への教育を行うとともに、警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

また、お取引先との契約書に反社会的勢力排除に関する条項を設けています。

反社会的勢力排除の推進体制

反社会的勢力への対応マニュアルの作成、階層別研修やeラーニング等のコンプライアンス活動による従業員の指導・啓発、さらには必要に応じて警察等の関係機関への相談や情報収集などに努めています。

契約書の反社会的勢力排除条項

お取引先との契約書において、反社会的勢力排除に関する条項を設け、お取引先が反社会的勢力ではなく、また当該勢力との関係も有しないことを保証していただくとともに、もしそれに反することが判明した場合には直ちに契約を解除できる旨を定めています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取り組
み +

食育を中心とした社会へ
の取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス

└ 倫理規範 >

└ コーポレート・ガバナ
ンス >

└ リスクマネジメント >

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

コーポレート・ガバナンス

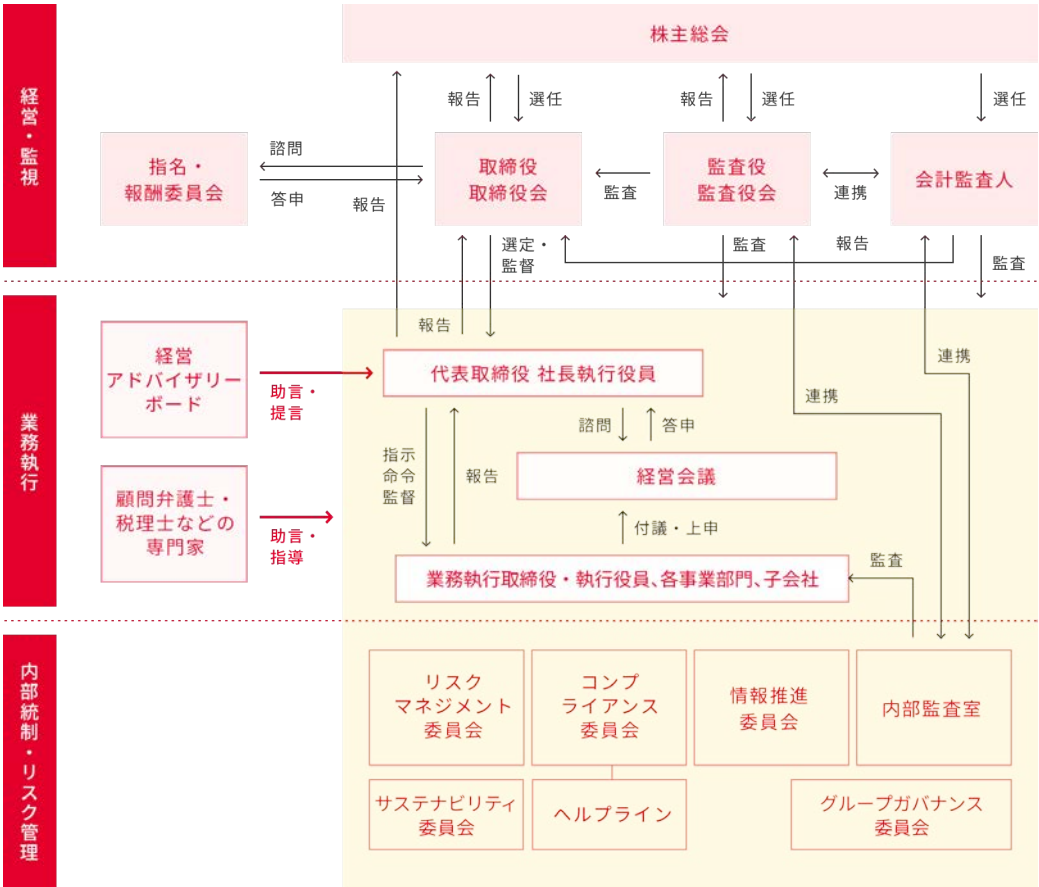
キューピーグループにおけるコーポレート・ガバナンスの推進に当たっては「キューピーグループの理念」「グループ規範」を尊重すること、またさまざまなステークホルダーの利益を最大化することを常に意識しながら、そしてそれらの結果としてキューピーグループのユニークさを活かした適切な企業統治体制を構築できるよう努めています。

今後も、世界の食と健康への貢献をめざし、そのためには何が本当かを自らに問い掛けながら対話をし続ける従業員一人ひとりの想いを大事に、コーポレート・ガバナンスが最終の目的とする中長期的な成長と企業価値の向上に取り組んでいきます。

> コーポレート・ガバナンス

2030ビジョン +

1. 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
2. お客様、従業員、お取引先、株主・投資家、地域社会等、様々なステークホルダーの立場や権利等を尊重し、適切な協働関係を構築する。
3. 会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
4. コーポレート・ガバナンス体制を構成する各組織が連携する仕組みを構築する。
5. 中長期的な利益の実現を期待する株主との間で建設的な対話を行う。



内部統制システム

経営・監視

概要（2021年2月26日現在）

組織形態	監査役（監査役会）設置会社
取締役の人数	9名（うち、社外取締役3名）
監査役の数	5名（うち、社外監査役3名）
独立役員の数	6名
任意の委員会の設置状況	指名・報酬委員会
会計監査人	EY新日本有限責任監査法人

取締役・監査役

詳細は役員一覧をご覧ください。

＜役員一覧＞

社外取締役および社外監査役

経営監視機能の客観性・中立性を確保するとともに、会社から独立した立場で、豊富な知識や経験を活かして経営全般に対する助言、意見をいただくため、以下の6名を選任しています。

社外取締役および社外監査役の6名は、株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員です。

社外役員の独立性基準については、コーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

 [コーポレートガバナンス・ガイドライン \(283KB\)](#)

社外取締役	内田 和成	漆 紫穂子
選任理由	企業経営コンサルタントとしての長年の経験があり、企業経営に関する高度な専門知識および幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	教育者としての豊富な経験に加え、経営者としての見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。
重要な兼職の状況	早稲田大学商学学術院 教授、 ライオン株式会社 社外取締役、 ブラザー工業株式会社 社外取締役	学校法人品川女子学院 理事長、 教育再生実行会議(内閣府)委員、 カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 社外取締役、 日新火災海上保険株式会社 社外取締役
取締役会出席状況	10/11回	10/11回

社外取締役	柏木 斉	
選任理由	事業会社の経営者としての豊富な経験と高い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	
重要な兼職の状況	株式会社アシックス 社外取締役、 株式会社松屋 社外取締役、 株式会社TBSホールディングス 社外取締役	
取締役会出席状況	-	

社外監査役	武石 恵美子	寺脇 一峰
選任理由	行政分野における経験に加え、人事制度・労働政策に関する幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	法律家としての専門知識および幅広い見識を有するものであり、また当社との間に特別の利害関係はなく、独立役員として適任であるため。
重要な兼職の状況	法政大学キャリアデザイン学部 教授、 東京海上日動火災保険株式会社 社外監査役	弁護士、 株式会社商工組合中央金庫 社外監査役、 芝浦機械株式会社 社外取締役、 鹿島建設株式会社 社外監査役
取締役会出席状況	11/11回	11/11回
監査役会出席状況	12/12回	12/12回

社外監査役	熊平 美香	
選任理由	海外を含む事業会社の経営経験があることに加え、企業変革やリーダーシップ開発についての知見を有するものであり、また当社との間に特別な利害関係はなく、独立役員として適任であるため。	
重要な兼職の状況	株式会社エイテッククマヒラ 代表取締役、 一般財団法人クマヒラセキュリティ財団 代表理事、 昭和女子大学ダイバーシティ推進機構キャリアカレッジ学院長、 一般社団法人21世紀学び研究所 代表理事、 日鍛バルブ株式会社 社外取締役	
取締役会出席状況	8／9回(監査役就任後)	
監査役会出席状況	8／9回(監査役就任後)	

取締役の実効性評価

当社では、取締役会において、取締役会の実効性について第三者の視点も含めた分析・評価を行い、その結果を踏まえて取締役会の改善に取り組んでいます。

 [第4回 取締役の実効性評価の概要\(490KB\) \(2019年12月～2020年1月実施\)](#)

 [第3回 取締役の実効性評価の概要\(312KB\) \(2018年12月～2019年1月実施\)](#)

 [第2回 取締役の実効性評価の概要\(324KB\) \(2018年12月～2019年1月実施\)](#)

 [第1回 取締役の実効性評価の概要\(321KB\) \(2017年12月～2018年1月実施\)](#)

指名・報酬委員会

取締役会の構成や取締役などの指名、報酬のあり方などに関する客観性と妥当性、透明性を高め、ひいては当社グループの中長期的な成長と企業価値の向上につなげるため、取締役会の諮問機関として設置しています。

構成

5名以上の委員(当社の取締役または監査役に限る。)で構成され、委員の半数以上は独立性基準を満たした社外役員と定めています。また、社外取締役の委員の中から選定される委員長が指名・報酬委員会の議長を務めています。

<委員一覧(2021年2月26日現在)>

社外取締役	内田 和成(委員長)
社外取締役	漆 紫穂子
社外取締役	柏木 斉
社外監査役	寺脇 一峰
取締役会長	中島 周
代表取締役 社長執行役員	長南 収
取締役 常務執行役員	井上 伸雄

委員会の役割

以下の事項について審議し、必要に応じて決議を行います。

- (1) 経営組織の形態および取締役会の人員構成
- (2) 取締役、監査役および執行役員の選解任基準
- (3) 取締役および監査役の各候補者の選出
- (4) 取締役および執行役員の評価基準
- (5) 取締役および執行役員の報酬制度の基本設計
- (6) その他、当社グループの企業統治に関する事項で、指名・報酬委員会が必要と認めたもの

役員および執行役員の選解任基準、報酬の決定方針については、コーポレートガバナンス・ガイドラインをご覧ください。

 [コーポレートガバナンス・ガイドライン \(283KB\)](#)

業務執行

経営アドバイザリーボード

当社代表取締役 社長執行役員の諮問機関として設置しています。社外委員として有識者5名と当社の代表取締役 社長執行役員に加え、議題に応じてほかの取締役などが参加しています。定例会を年間で2回開催し、必要がある場合は随時行います。

当社グループの健全性、公正性、透明性を維持、向上させるための助言・提言を受け、意思決定に反映させています。

内部統制・リスク管理

リスクマネジメント委員会

当社では、リスクマネジメント基本規程において当社のリスク管理を体系的に定め、個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクに関しては、リスクマネジメント担当取締役を委員長とするリスクマネジメント委員会(社会・環境関係の一部のリスクは、サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会)で情報を共有し、そのリスクの評価、優先順位および対応策などを総括的に管理しており、その活動状況については当該担当取締役から取締役会および監査役会へ報告されています。なお、リスクマネジメント委員会のメンバーには主要子会社の代表者が含まれているほか、子会社の経営リスクについては、各社から当社の担当取締役へ随時報告が行われています。

コンプライアンス委員会

コンプライアンス担当取締役にコンプライアンス委員会を統括させ、これにより全社横断的なコンプライアンス体制の整備および問題点の把握に努めるとともに、同委員会を中心にコンプライアンス推進に関する企画、啓発および教育などを行います。コンプライアンス担当取締役は、かかる活動を定期的に取締役会に報告しています。

ヘルプライン

公益通報者保護制度に対応した内部通報体制として、通報窓口の情報受領者に第三者機関や社外の弁護士を含む「ヘルプライン」を設置しています。情報受領者から報告を受けたコンプライアンス調査会が事実関係を調査し、違反行為があれば、再発防止策を担当部門と協議のうえ決定し、処分結果を含めて社内公表するとともに、全社的に再発防止策を実施します。

情報推進委員会

情報セキュリティに関しては、会社情報取扱規程、個人情報保護基本規程およびそれらに関する各管理マニュアルを制定し、これらに従って情報の保存・管理を行っています。また、情報推進委員会(委員長はIT・業務改革推進担当の執行役員またはその指名を受けた者)を中心に、情報管理に係る従業員教育や各規程などの運用状況の検証、各規程などの見直しを行っています。

内部監査室

内部監査室は年間監査計画に従って、また代表取締役 社長執行役員、内部監査室担当取締役または監査役からの要請に基づき、当社グループの組織活動が法令や社内規則、経営方針に則って適正かつ効率よく実施されているかを監査しています。また、必要に応じて、監査役および会計監査人と情報交換を行うなど連携を図っています。なお、内部監査の活動においては、品質・環境・安全・労務などに関する自主監査スタッフとも適宜連携を取っています。

サステナビリティ委員会

サステナビリティの実現に向けた重点課題(特に環境面)および目標の決定と取り組みの推進を主な役割として、2020年度に新設し、活動を開始しています。社会・環境関係の一部の全社的リスクについては、サステナビリティ委員会が総括的に管理します。

グループガバナンス委員会

適切なグループガバナンスの構築に関する方針の策定、重点課題の決定および取り組みの推進を主な役割として、2020年度に新設し、活動を開始しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス

└ 倫理規範 >

└ コーポレート・ガバナンス >

└ **リスクマネジメント** >

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

リスクマネジメント

キューピーグループでは、経営に損失を与える不確実性をリスクと認識しています。キューピーグループのめざす姿、2030ビジョンを実現するため、その阻害要因となりうるリスクに対処するリスクマネジメントに取り組んでいます。

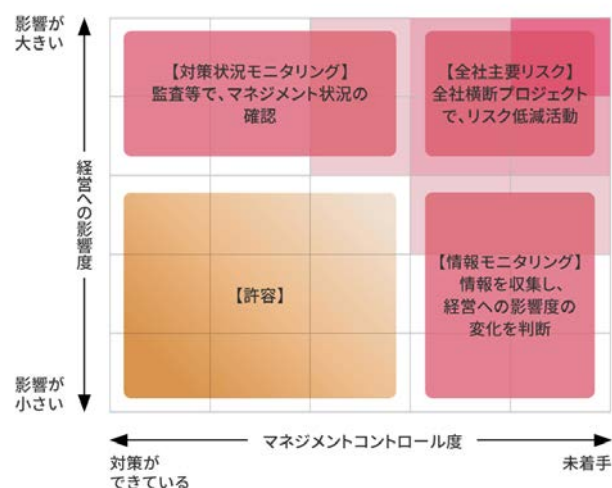
最優先で取り組むべきリスクの評価・選定

社内外の経営環境の変化を広く見据え、どのようなリスクがあるのか、今後リスクとなりうることは何かを洗い出し、それらのリスクの評価を行い、重要なリスクを見極めています。「各リスクの経営への影響の大きさ」と、「そのリスクへの対処状況（マネジメントコントロール度）」の2軸で評価し、対応すべきリスクを選定し優先順位づけしています。

経営への影響度が大きいにもかかわらずマネジメントコントロールが不十分なリスクは、最優先で対応すべきリスク「全社主要リスク」として全社横断的なプロジェクトにより、リスク低減に努めています。

活動を通じて対策が効果を上げマネジメントコントロール度が高まったとしても依然として経営の影響度が大きい場合は、その後の対策状況を監査などにより確認しています（下図の左上部「対策状況モニタリング」）。一方、その時点では経営への影響度が小さいため対策が未着手であっても経営課題とならないリスクにおいても、その後の環境変化により経営への影響度が大きくなることもあり得るため、感度高く社外情報の収集、モニタリングに努めています（下図の右下部「情報モニタリング」）。このように社内社外両面からモニタリングを行い、状況変化に応じたリスクの重要性を適時評価し、機敏にリスクに向き合うように努めています。

リスクの評価



リスクマネジメント体制

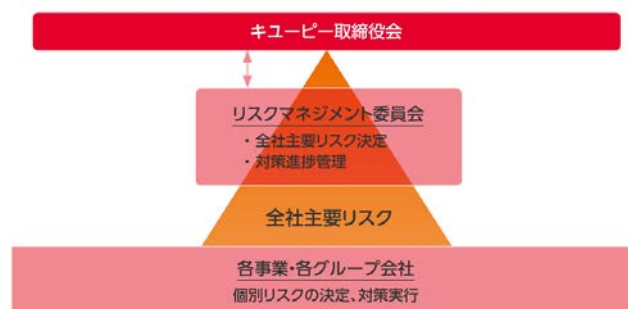
キューピーグループでは、経営の継続的、安定的発展に影響しかねない事象をリスクと認識し、リスクマネジメントの実践を通じ、内部統制システムの充実に取り組んでいます。リスクの認識においては、その影響の大きさとコントロール度合いに応じて、リスク発生（顕在化）の可能性を評価し、対応すべきリスク項目を選定しています。そして、個々のリスクを各担当部門が継続的に監視するとともに、全社的なリスクはリスクマネジメント委員会※で情報を共有し、そのリスクを評価、優先順位および対応策の効果などを総括的に管理し、特に下記の8つを主要なリスクに位置づけて抑制・回避に努めています。

- ・市場動向の変化
- ・製造物責任
- ・新型コロナウイルス感染症
- ・海外展開
- ・主要原料の調達
- ・自然災害などの不測の事態
- ・人材、労務問題
- ・地球環境問題

これら全社的なリスクの評価や対応の方針・状況などについては、リスクマネジメント担当取締役が定期的に取り締役会へ報告しています。

※ リスクマネジメント委員会は、キューピー(株)経営会議メンバーおよび主要本部、主要子会社より構成しており、キューピーグループのリスクマネジメントに関する最高意思決定機関であり、年3回開催しています。

キューピーグループのリスクマネジメントの体制と全社主要リスク



主なリスクマネジメント活動

海外展開のリスク低減活動 海外グループ会社の「内部統制推進プロジェクト」

キュービーグループの海外拠点で働く従業員が安心して働ける環境を整え、グループの成長・発展につなげる活動に取り組んでいます。

その経営基盤である内部統制（ガバナンス、コンプライアンスおよびリスクマネジメント）の整備のための「内部統制推進プロジェクト」を推進しています（法務・財務・人事・IT・知財・危機管理・内部監査・海外事業などの部署により構成）。これまでに反贈収賄プログラムの展開、国内外で統一した危機発生時の事業継続計画（BCP）の策定、海外グループ会社のメンバーを対象とした研修などを行っています。

今後も、海外グループ会社とプロジェクトの取り組みの到達点、スケジュールを共有し、連携しながら、グローバルガバナンス体制の整備を更に進めていきます。



海外グループ会社のメンバーへの研修の様子

自然災害など不測の事態への対応 事業継続計画（BCP）

過去の災害や感染症蔓延などの危機の経験を活かし、キュービーグループ横断で危機発生時の事業継続計画を整備し、対策に取り組んでいます。

有事の際に、東京の本社機能を関西に代替移行可能な体制の維持、非常時の通信ネットワークの整備や物資の備蓄、生産設備や物流設備の補強、不測の事態において生産可能状況を確認するシステムの整備、主要商品に関する生産や原資材調達機能及び受注機能を二拠点化することや、全国規模での在宅勤務体制への移行などにより危機発生時に備えており、不測の事態の種類ごとにマニュアルを整備しています。

さらにそれらを確実に運用できるようにするために大規模災害対応訓練（初動対応訓練や商品供給訓練、安否確認訓練）も行っています。

これらの活動により、発災した場合には適切な初動対応を行い、速やかに復旧活動につなげて平時の事業活動の状態に回復を促し、不測の事態から受けるダメージを最小限にできるように万全に備えています。



商品供給訓練の様子

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み -

多様な人材の活躍のための取り組み >

人権尊重への取り組み >

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

人と働き方への取り組み

私たちは、「楽業偕悦」の実践のために、グループに関わる全ての人の人権を尊重します。さらにグループにおいては、持続的成長を実現する体質への転換に向け、「多様な人材が活躍できる仕組みづくり」を進めていきます。新たな事業の枠組みに合わせたグループ人材の流動化の促進や、学びの場の拡大、キャリア意識の醸成などを通して、一人ひとりの経験やスキルの向上を図ります。それぞれの視点やノウハウを活かすことで、社会環境の変化やリスクへの対応力を高めると共に、従業員がやりがいを持って働けるよう、キューピーグループの総合力強化に取り組んでいきます。



人材活躍の重要指数

女性管理職比率(キューピー単体)

2024年度18% 2030年度30%

2020年度実績:10.2%

KEY DATA

従業員数 対象: キューピーグループ社員(2020年度) 1.6万人	男性従業員の育児休業取得率 対象: キューピー(2020年度) 76.1%	障がい者雇用率 対象: 国内のキューピーグループ(2020年度) (KRS除く) 3.67%
---	--	---



② 多様な人材の活躍のための取り組み

多様な人材が、やりがいや誇りを持って活躍することを大切にし、ダイバーシティの推進を始めとしたさまざまな取り組みを行っています。



② 人権尊重への取り組み

国際社会の一員として、差別やハラスメント行為を決して行わず人権を尊重しています。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取り組
み +

食育を中心とした社会へ
の取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み -

多様な人材の活躍のた
めの取り組み >

人権尊重への取り組み >

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

多様な人材の活躍のための取り組み

ダイバーシティへの取り組み ●

人材育成への取り組み ●

フレキシブルな働き方への取り組み ●

健康経営への取り組み ●

労働安全衛生への取り組み ●

ダイバーシティへの取り組み

ダイバーシティへの考え方

キューピーグループは、ダイバーシティを成長戦略の土台と捉え、世界で働く従業員一人ひとりの個性や成長する意欲を尊重し、個々の能力を最大限に発揮できる企業風土づくりに努めています。

すべての従業員がダイバーシティの担い手であること、対話やお互いを理解する姿勢などダイバーシティを身近に感じることを大切にして、取り組みを進めています。

ダイバーシティの推進状況

キューピーグループでは、ダイバーシティの推進により、「ダイバーシティを受容する企業風土の醸成」と「グループ従業員一人ひとりの能力の発揮」の実現による、グループ全体の成長と社会価値創出に取り組んでいます。

「ダイバーシティ&インクルージョン」を推進する意義と目的を理解するための活動や、組織と従業員の成長を考えるディスカッションの機会を持ち、多様な従業員のそれぞれの成長に繋がる学びの場づくりなどを進めています。

2020年度時点でのグループ女性管理職比率は8.5%、キューピー単体での女性管理職比率は10.2%です。2024年度には、単体女性管理職比率を18%まで引き上げるべく、女性総合職の育成施策や、「転居を伴う異動」のない総合職制度の導入による地域職から総合職への転換を促進するとともに、両立支援制度の充実にも力を入れています。

人材活躍の重要指数	2020年度 実績	2024年度 目標	2030年度 目標
女性管理職比率 (キューピー単体)	10.2%	18%	30%

ダイバーシティを受容する企業風土の醸成

キューピーグループ全体で、多様な人材が活躍できる企業風土の醸成に取り組んでいます。従業員一人ひとりのさまざまな視点・能力・スキルを全体の力につなげていくことを目的に、多様性を体感できる仕組みづくりや、グループ人材の流動化による総合力強化に取り組んでいます。

2017年度から実施しているダイバーシティアンケート(キューピー単体)により、従業員のダイバーシティに対する理解度や意識も確認しながら、心理的安全性の高い企業風土をめざすことで、目標に向かってチャレンジできる環境であるよう努めています。

管理職層によるダイバーシティ推進の意義を考える場づくり

経営層や管理職層を中心に、グループにおけるダイバーシティ推進の目的を共有し、会話をする機会を設けています。

組織を横断して集まったメンバーが、経営層のリードのもと、ダイバーシティの重要性や推進の目的を改めて捉え直し、多様な能力やスキルを活かして、事業の課題解決や人材の成長を考えるディスカッションを行っています。

日頃、それぞれの場所でグループの成長に尽力する多様な仲間がオンラインで集い、個々のマネジメントにおける気づきやノウハウなどを共有することで、改めて組織や人材の成長への意識を高め、ネットワークをつなぐ場となっています。

グループ従業員一人ひとりの能力の発揮のために

グループ女性管理職勉強会

グループの女性管理職による勉強会を定期的に開催し、経営層による講義や管理職として必要な知識を学ぶ勉強会を実施しています。ありがたい姿やそのステップ、自分らしいマネジメント方法を模索するとともに、女性管理職同士のネットワークづくりを通して、管理職として貢献できる自信を身につけていくことをめざしています。



障がい者雇用への考え方

キューピーグループでは、障がいのある方も他の社員と同様に、個々の力を発揮し、働く喜びや生きがいを実感できる環境づくりをめざしています。

その一助として、障がい者雇用のグループ適用を行わず、キューピー単体、特例子会社を含むグループ各社それぞれが各地域で雇用を行うことで、幅広い地域での多様な雇用創出につなげています。

障がい者雇用率の推移(2020年12月1日現在)

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
3.02%	3.30%	3.54%	3.60%	3.67%

グループ会社における取り組み

特に生産部門では、積極的に障がい者雇用を進めています。キューピータマゴは、全国で22カ所の工場において障がい者雇用を行っており、障がい者雇用率は5.64%、成田工場では16.67%となっています(2020年12月1日現在)。また、特例子会社であるキューピーあいでは、館内物流、清掃、販促物作成・発送など多岐にわたる業務を展開し、障がい者雇用を推進しています。

人材育成への取り組み

人材育成の考え方

キューピーグループでは一人ひとりのキャリアに真剣に向き合い、ダイバーシティを実現していくため、専門研修や、自己啓発プログラムの充実に加え、以下のような各種キャリア支援制度を実施しています。

- 1.成長マイルストーン制度(対象:キューピー総合職)
- 2.キャリア自己申告制度
- 3.社内公募制度

従業員それぞれの「ありたい姿」や「成長の道筋」を明確にすることで、成長のための学びと、人事交流などの必要な経験を積むことを促進していきます。

具体的な仕組みとして、「成長マイルストーン制度」や「キャリア研修」を設け、これに加えて自らの異動希望を申告できる「キャリア自己申告制度」があります。

さらに、挑戦意欲の高い人をキューピーグループ内から幅広く募集する「キューピーグループ社内公募2030」を実施し、これまで新規事業や強化したいテーマを対象として、強い想いを持った応募者の中から選出してきました。

一人ひとりのポテンシャルの発揮や、想いを実現するこれらのキャリア支援の取り組みを通じて、適材適所はもとより、挑戦する風土を醸成し、多様な人材がさらに活躍できる状態をめざしていきます。



キューピーキャリア支援体系図

褒賞制度

キューピーグループでは従業員が積極的に挑戦し学習することの支援や会社の将来への提言を推奨することを目的に社長賞をはじめとする各種褒章制度を設けています。

社長賞

グループの技術や一人ひとりの創意工夫により成果・社会貢献を果たした際に表彰する制度です。社長賞を通してキューピーグループならではの文化を作っていくことを目的としています。

発明賞

会社に大きく貢献した特許や社会貢献につながる特許を取得した際に表彰しています。

論文賞

従業員が世の中の変化や日頃感じている課題を通して会社の将来に対して提言するものです。

論文の執筆を通した自己研鑽も目的としており、50年以上続く伝統ある制度です。

資格褒賞制度

自発的に学ぶ風土づくりや一人ひとりのキャリア支援の一つとして、資格褒賞制度を設けています。従業員の学びを支援するとともに、会社として特に力を入れて推奨していく資格を伝えることで、従業員と会社がともに成長することをめざしています。

新たな挑戦に向けた取り組み

キューピーグループは、マヨネーズやドレッシング、さらには卵や野菜まで、幅広い研究開発を推進するとともに、イノベーションを創出する制度を設けるなど、新たな挑戦に向けた取り組みを積極的に行っています。外部の力も活用しながらグループ協働で新たな価値を創造し、ステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。

Kewpie Startup Program

従業員一人ひとりのアイデアの実現と新たな事業の創出に向け、社内公募制度「Kewpie Startup Program」を設けています。プログラム参加者は、部門の枠を超えたメンターとのネットワークを築ことができ、スキルアップ・キャリアアップへとつながっています。



「Kewpie Startup Program」発のアイデア

酢酸菌酵素を配合したサプリメント「よいとき」

ビジネスモデル公募制度の第一号商品となる「よいとき」は、キューピーグループ独自の醸造技術により世界初の大量生産を実現した、酢酸菌酵素を配合したサプリメントです。

機能性表示食品「ディアレ」

「ディアレ」は、酢酸菌GK-1とGABAを配合したサプリメントです。

お酢作りに使われる酢酸菌の新たな可能性を突き止めた飲む人のための「よいとき」の発売後、同じ酢酸菌をテーマにしながら、「よいとき」とは異なる切り口で健康に寄与する研究を開始し、2018年の社内公募制度で採択されました。

酢酸菌GK-1は、花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる鼻の不快感を軽減することが報告されています。鼻の不快感の原因物質として「花粉」の表示が認められた機能性表示食品は「ディアレ」が初めてです。



「Kewpie Startup Program」から生まれた商品

GABAポテトサラダ

2019年の公募で選出されたビジネスプランをもとに開発した惣菜業界で初となる機能性表示食品の惣菜シリーズ「カラダ想いメニュー」を2020年9月より首都圏で販売開始しました。

GABA※を配合し「血圧が高めの方に」と表示することで、血圧が高めで気にしている人はもちろん、健康意識の高い人のためのサラダです。

※GABAには、血圧が高めの方の血圧を低下させる機能があることが報告されています。今後はラインアップを強化していきます。

＞惣菜初、「機能性表示食品のポテトサラダ」を開発 GABA配合で「血圧が高めの方に」

「深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム」を開業予定

埼玉県深谷市にて、「野菜にときめく、好きになる!」をコンセプトとする複合型施設の事業化を進めています。野菜や卵に関するキュービーグループの知見を活かし、地域と一緒に、野菜を楽しむ魅力的なコンテンツを提供していきます。

【施設概要】

施設名	深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム
住所	埼玉県深谷市黒田および永田地区内
敷地面積	約17,600M ² (予定)
コンセプト	「“野菜にときめく、好きになる!今だけ、ここだけのサラダ体験”ができる」 野菜のいのちと彩りを、畑に入って五感で体験できる「畑ボタジェ」を軸に、3つのコンテンツで構成された体験型施設 1. 名物となる肉・魚料理 と、旬の野菜や卵などを生かしたおいしさを体験できる「レストラン」 2. 試食や対面販売を通して、地元・全国の旬の野菜・果物の食べ頃や食べ方がわかる「ショップ(マルシェ)」 3. 旬の野菜を収穫できるツアーなどを核とした「野菜教室(クラス)」
開業までの流れ	2016年 2月 キュービーが優先協議の権利を取得 2016年 4月 深谷市とキュービーの二者で基本協定を締結 2019年 11月 深谷市とキュービーの二者で事業契約を締結 2022年 春 開業予定



深谷テラス ヤサイな仲間たちファーム イメージ図

フレキシブルな働き方への取り組み

働き方についての考え方

キュービーグループでは、従業員がさまざまなライフステージや状況に合わせて働き続けるとともに、最適な形で一人ひとりがその能力を発揮できるように、フレキシブルな働き方を整えることで、個々の成長と活躍を積極的に支援しています。

フレキシブルな働き方についての取り組み

コアタイムのないフレックスタイム制度や、在宅勤務、サテライトオフィスを活用し、時間と場所に捉われず、個々の役割や仕事の特性に合わせて、働き方を柔軟に選択しながら生産性を追求できる就労環境を用意しています。

時短勤務者に対してもフレックス制度を利用可能とし、仕事と育児を両立しやすい環境を整えています。

出産・育児支援の取り組み

育児休業中の従業員に育児支援サイトを使って定期的に会社の情報を発信しています。また復帰前には上司との面談を実施し、復帰後の働き方やキャリア形成について共有するとともに、上司から活躍への期待を伝えるようにしています。

上司には、育児復帰者に関する会社の各種制度やアンコンシャス・バイアスなどマネジメントに関する必要な知識をオンラインコンテンツを通して学習してもらい、復帰者のフォローが出来るようにサポートしています。

また育児経験を通して視野を広げ、自己成長につなげるために、男性従業員の育児休業取得を促進しており、お子さまが2歳になるまでに最低10日間の取得を義務化しています。



育児休業のしおり

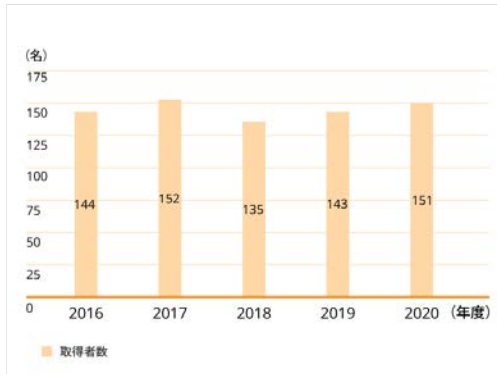


育児支援サイト

育児休業取得状況

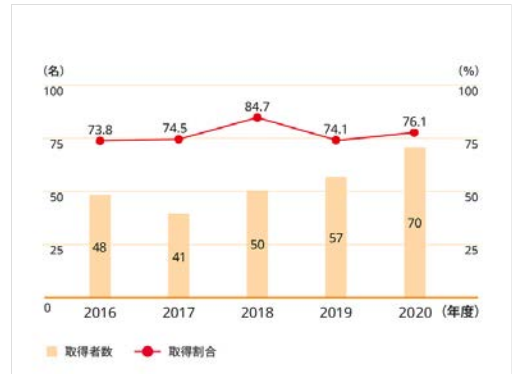
女性従業員

- ・ 当年に育児休業を取得している人数
(対象: キューピー単体)



男性従業員

- ・ 取得者数: 子どもが生まれて2歳になるまでに取得した人数
- ・ 取得割合: 子どもが生まれた年に育児休業を取得した比率
(対象: キューピー単体)



> ESGデータ集

健康経営への取り組み

キューピーグループ健康宣言

キューピーグループは、『おいしさ・やさしさ・ユニークさ』をもって世界の食と健康に貢献するグループをめざします」というグループの理念のめざす姿のもと、食を通じて皆さまの健康に貢献できるよう取り組んできました。また、グループで働く一人ひとりが、心もからだも健康に生き生きと企業活動が続けることが、事業の発展と社会への貢献につながると考えています。

キューピーグループは、これからも食を通じて皆さまの健康に貢献するとともに、従業員とその家族の健康に真剣に向きあい、支援し続けていきます。

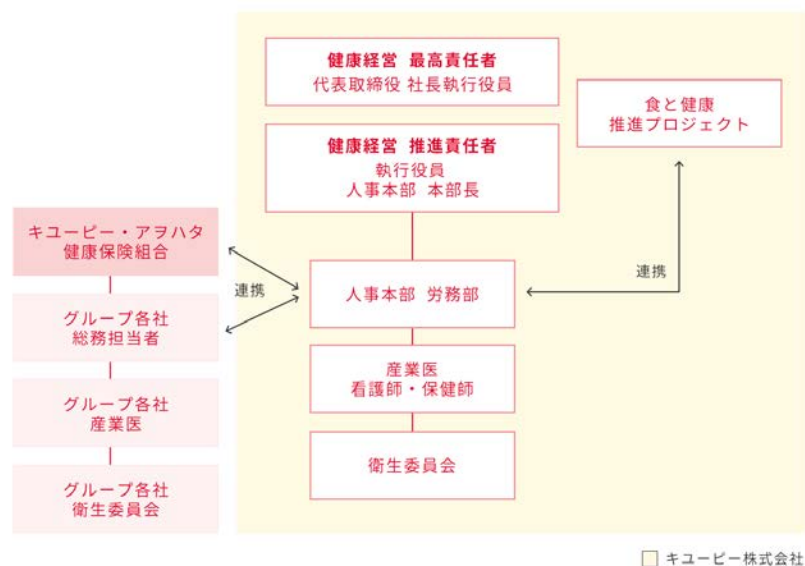
1. サラダとタマゴを通じた健康増進

キューピーグループは、野菜をサラダで食べるという食文化の普及と、栄養価の高いタマゴメニューの拡大を通して培ってきた技術を活かし、おいしく、楽しく、健康維持に役立つ食生活を提案していきます。

> 食と健康への貢献

2. セルフケアを通じた従業員とその家族の健康増進

従業員とその家族が、自ら健康増進をはかれるよう支援するとともに、健康に対する意識の向上に努めます。

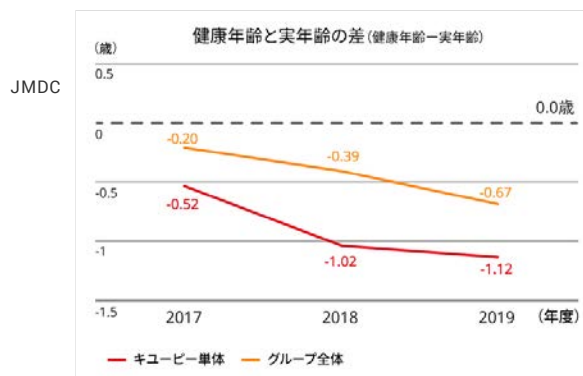


グループ共通健康指標

キュービーグループでは「健康年齢※」を健康度を表す共通の指標としています。

「健康年齢」は健診結果から算出される年齢と実際の年齢との差で表します。個人通知に加え事業所毎にも算出し、事業所ランキングの他、レポートを作成し健康課題を共有しています。健康度を共通指標として表すことで従業員の健康意識の向上を図っています。

※ 健康年齢は株式会社 の登録商標です



ヘルスアップキャンペーン

キュービー・アヲハタ健康保健組合では、年1回、生活習慣改善を呼びかける「ヘルスアップキャンペーン」を実施しています。

2018年からは事業所対抗戦を取り入れることで参加率も大幅にアップし、従業員が生活習慣を見直すきっかけづくりにしています。

コロナ禍の2020年度も、参加方式をオンライン化することで参加率を維持できました。



私の健康目標

2020年度は、グループの約11,000以上の従業員が、1年を健康に過ごすための目標「私の健康宣言」を掲げて取り組みました。2021年度は「サラダとタマゴで一人ひとりの健康を応援します」をテーマとし、栄養、運動、社会参加の3つの柱をデザインしたカードに一新しています。「私の健康目標」として従業員の健康意識の高揚を推進していきます。

＞健康への取り組み



がん検診の受診率向上

キューピーグループでは従業員全員が定期健康診断を受診しています。あわせて35歳以上の従業員には人間ドック、またはキューピー・アラハタ健康保健組合独自の「3点セット検診(大腸がん、胃がん、腹部超音波)」の補助を開始し、婦人科検診については、20歳から補助を行っています。

婦人科検診は、すでに首都圏で事業所集団検診を実施していますが、2021年度より「3点セット検診」の事業所集団検診を首都圏でスタートさせ、今後、エリアを拡大しながらグループの35歳以上のがん検診受診率向上をめざします。

禁煙対策

グループ従業員の健康維持・増進を目的に、2020年4月1日より東京都の2拠点の事業所(渋谷区、調布市)において敷地内喫煙所を撤廃し、敷地内全面禁煙をスタートさせました。同時に、グループを含めた全事業所でも、受動喫煙のない職場環境づくりを実現しています。

また、2017年から従業員の卒煙支援を強化し、禁煙外来、卒煙補助薬の自己負担額の補助や、自助努力での卒煙成功者に記念品を用意するなど、卒煙チャレンジを継続して促しています。

海外駐在員の健康管理

海外事業の拡大に伴い、駐在員の人数も年々増加しています。

海外駐在員にも、国内同様の健康管理体制を行えるよう、年1回人間ドックを受診してもらい、必要に応じて看護師からのアドバイスを行っています。また、メンタル面においても、赴任後3ヶ月後のヒアリング、ストレスチェックなどによるサポートを行っています。

労働安全衛生への取り組み

労働安全衛生に関する考え方

キューピーグループの生産事業所では、キューピー生産本部基盤向上推進部安全チームが中心となり、従業員が健康で安全な職場生活を送ることができる快適な職場環境づくりに努めています。主な活動として、次の3つを実施し、災害の未然防止と安全意識向上に努めています。

- 1.全生産工場の安全監査(国内75カ所、海外10カ所)
- 2.グループ安全会議(本年度6月開催予定)
- 3.災害情報の水平展開

グループ一体となった予防安全の取り組み

キューピーグループでは、2004年より予防型安全活動を推進しています。次の3つを実施することにより、リスクを許容可能なレベルまで下げ、安全第一の風土構築をめざしています。

- 1.リスクアセスメントの実施
- 2.安全教育手順書による教育
- 3.QBSS(キューピー・アヲハタ安全基準)点検と是正

休業災害発生件数の推移(各年度4月末集計)

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
休業災害件数	7	17	24	13	12
度数率 ^{※1}	0.35	0.76	0.99	0.62	0.60
強度率 ^{※2}	0.013	0.027	0.034	0.038	0.020

対象:キューピーグループ国内工場

※1 度数率=労働災害による死傷者数/延べ実労働時間×1,000,000

※2 強度率=労働損失日数/延べ実労働時間×1,000

[> ESGデータ集](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み -

多様な人材の活躍のための取り組み >

人権尊重への取り組み >

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キュービーグループ
オフィシャルブログ >

人権尊重への取り組み

人権尊重への考え方

私たちは、事業活動のすべての過程で、直接または間接的に人権に影響を及ぼす可能性があることを認識し、ビジネスに関わる全ての人の人権を尊重するために、「キュービーグループ人権方針」を定めます。

社是である「**乐业偕悦**」の実践には、人権の尊重が不可欠です。キュービーグループで働く役員および従業員は、人権への負の影響を引き起こすことがないように、または間接的に加担することがないように責任を持って行動し、それぞれが働きがいを持って安心して働けるよう努めます。そして、サプライヤーなどビジネスパートナーに対しても本方針の遵守を期待し、働きかけます。

 [キュービーグループ人権方針 \(562KB\)](#)

人権マネジメント体制

キュービーグループ全体に関わる幅広い人権課題に向き合うために、内部統制システムの中に違反行為の発見と是正のための通報・相談窓口「ヘルプライン」を設置しています。違反行為があれば担当部門との協議の上、再発防止策を実施します。また人権配慮の考え方にに基づき、さまざまなハラスメントに対する従業員の啓発活動や、ハラスメントの予防を目的とした管理職向け研修を実施しています。

従業員への人権配慮

キュービーグループには、さまざまな国籍の方が働いています。従業員一人ひとりが人権を尊重し、差別やハラスメント行為のない職場環境の実現をめざしています。2年ごとに全従業員を対象に「従業員意識調査」を実施。これは、コンプライアンスに対する理解・意識の状況の把握、働くことへの満足度および企業の社会的責任に関する考えの確認を目的としています。アンケートの結果は従業員にフィードバックするとともに、人権侵害の有無やコンプライアンスを浸透・徹底させる上での課題を把握し、eラーニングや従業員研修などでのプログラム等に反映させています。

ヘルプラインの運用

- ・ 2020年度のヘルプラインへの通報・相談件数は38件でした。
- ・ 内容はハラスメントに関わる通報・相談が多く、他には職場の対応不備等に関するものがありました。
不正に関するものはありませんでした。
- ・ 対応は、事実関係の調査を行い、違反行為があれば処分を行うとともに、再発防止策を担当部門と協議し、実施します。違反行為とは認められないものの、言動や対応に不適切な部分があると判断される場合は、注意指導等により是正をはかり、職場の環境改善につなげます。
- ・ 通報者保護の観点では、通報者に対する詮索・追及・報復を禁止しています。通報者に一定期間後に報復確認を行ない、不利益が発生していないか確認し、適切な運用を進めています。

サプライチェーンにおける人権配慮

事業展開を進める上で、さまざまな人権課題を把握し、それに配慮し適切に行動することが求められている中、サプライチェーン全体での人権の配慮に取り組んでいきます。2018年には、サプライチェーン全体での人権尊重に向けて、「人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない」ことなどを定めた「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を策定し、お取引先と一緒に取り組んでいくことを表明しました。

＞ 持続可能な調達のための基本方針

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取り組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キュービーグループ
オフィシャルブログ >

安全・安心への取り組み

健やかな生活には、安全・安心でおいしい食が欠かせません。私たちは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という信念をもっています。原料の調達から研究・開発・生産・営業・物流まで、サプライチェーンを担う従業員一人ひとりが日々の仕事の質を高めることで、お客様をはじめとするさまざまなステークホルダーの皆様の期待に応えていきます。



品質第一主義

私たちは、品質を最優先に安全・安心な商品をはじめ、すべての活動の質を高め、お客様の信頼にお応えします。



品質への想い

人・仕組み・技術の3つの取り組みによって品質を追求し続けています。



原料の品質

品質を追求するため、原料の管理・提供元であるサプライチェーンとの取り組みを強化しています。



調達への取り組み

持続可能な調達のためにお取引先と協力し、社会的責任を果たしていきます。



製造工程の品質

製造現場においては徹底したルールの遵守と、安全のための仕組みづくりを行っています。



容器包装の品質

品質とおいしさを守るため容器の改良を重ねてきました。



食の安全性評価

商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。



➤ お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望を商品やサービスの改善につなげていきます。



➤ 商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択する上で、また安心してお使いいただく上で必要不可欠な情報です。

キューピーについてもっと知る



キューピーグループ
オフィシャルブログ
従業員より、社会・環境への
取り組みを発信しています。



食育活動

キューピーの食育活動についてご紹介します。



研究開発

キューピーの研究開発についてご紹介します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取り組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キュービーグループ
オフィシャルブログ >

品質への想い

食とは、生きていくために必要な行動であるとともに、人と人との絆を深める役割も果たしています。

私たちがお届けしている商品も、その一端を担っています。

いちばん大切な方に安心して召しあがっていただける商品をお届けするために、企画から販売に至るまで全てのプロセスで品質第一主義を守り続けています。



品質を確かにする人づくり

品質を確かなものにするのは、人です。そこで私たちは、学びの場や発表の場を設け、品質の向上をめざしています。

ものづくり学校

商品の製造に関わるすべての部門の担当者を対象にした学びの場「ものづくり学校 品質コース」を設けています。ものづくり学校では、商品の品質管理の入門から、高度な応用まで学んでいます。ものづくり学校を修了したメンバーが、各部署で教える側になり、知識や技術を伝えていきます。私たちの「ものづくり学校」は、核になる人を養成し、その人を中心にして仲間を増やして、グループ全体の品質を高めていくことをめざしています。

ものづくり学校で学ぶこと

安全の原理

微生物、分析など、品質の技術と知識を学びます。

安心の原則

法令、自社の取り決めなど、品質のルールを理解します。

安心の原点

過去の事例などに学び、品質の礎となる考え方を身につけます。



わくわく活動合同発表会

わくわく活動とは、「お客様や従業員の笑顔へとつながる品質向上活動」のことです。
生産部門だけでなく営業やスタッフ部門、さらには海外のチームも集まる「わくわく活動合同発表会」を開催し、他チームの取り組みをヒントとして、その学びを水平展開することで、グループ全体で品質の向上につなげています。



品質を裏付ける仕組みづくり

国際的な第三者の認証を取得することで、グループの品質レベルを維持・向上する仕組みを導入しています。

食品安全に関する第三者認証の導入

私たちは、グループ全生産拠点でGFSI認証と呼ばれる食品安全に関する国際的な第三者認証を取得しています。

外部機関の審査を定期的に受けることによって、品質保証の取り組みについて、客観的に見つめ、改善することで、継続的な品質レベルの維持・向上を実現しています。

GFSI認証とは

GFSI認証とは、2000年5月に設立された非営利財団 世界食品安全イニシアチブ(GFSI)が、安全な食品を提供するために構築した認証です。オランダで作られたFSSC22000、アメリカで作られたSQFも、GFSI認証の一部です。



品質を高める技術の追求

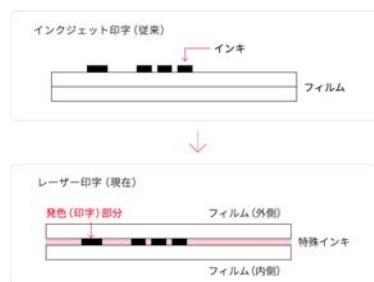
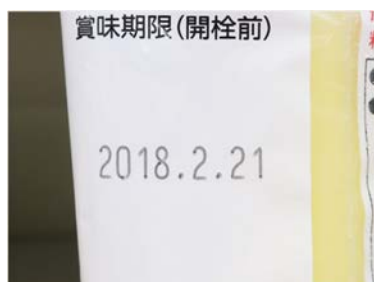
私たちは、最新の生産技術を学び、導入し、品質を高める努力をしています。

生産技術

マヨネーズの外袋の印字

マヨネーズの外袋の賞味期限は、従来はインクジェットによって印字をしていましたが、現在はレーザーを使って印字しています。

二層になっているフィルムの間に特殊なインキを塗布してあり、ここにレーザーを照射することでインキを黒色に発色させる方法です。直接印字する方法と比べて、印字部分に物が接触などしても印字が消えることがありません。



分析技術

食品の中に含まれる微生物の同定[※]に関する技術は、近年急速に進歩しています。

※ 微生物の種類を特定すること。

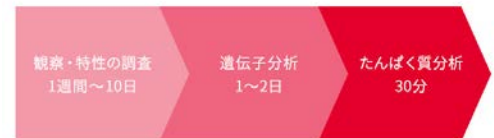
食品の中に含まれる微生物の同定

かつては微生物を食品から分離・培養した後、顕微鏡で観察し特性を調べ、1週間から10日かけて同定していました。それが、遺伝子を使った手法が登場して1～2日になり、今ではその微生物に特徴的なたんぱく質を調べることで30分に短縮できています。

私たちはこうした技術の変化に対して、有効なものは積極的に導入するとともに、外部の機関と共同で新技術構築にも取り組んでいます。



微生物同定の進歩



サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み +

食育を中心とした社会へ
の取組み +

環境への取組み +

ガバナンス +

人と働き方への取組み +

安全・安心への取組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取組
み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

原料の品質

キューピーグループは、原料の調達から商品の製造、容器包装、販売、安全性の評価まで、サプライチェーンの全段階で品質第一主義を徹底しています。

その根底にあるのが、創業からこだわり続けてきた、「良い商品をお届けする」という想いです。すべてのプロセスにおいて、自社およびグループ会社が直接関わることで、品質への責任を自身がしっかりと持つことを基本姿勢としています。



良い商品は良い原料からしか生まれない

「良い商品は良い原料からしか生まれない」というキューピー創始者である中島董一郎の想いを大切にしています。私たちの基本的な考え方は、ここにあります。

良い原料を入手するために大切にしていることが、生産者や調達先の訪問です。

調達先には専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、改善などに力を合わせて取り組んでいます。

新規のお取引の場合にはまず訪問して私たちの品質への想い、考え方をお伝えし、製造環境なども確認します。

異物混入を防ぐ手立ては実施されているか、良い原料を供給できるかを確認し、信頼でき、一緒に取り組むことができる調達先とお取引しています。



マヨネーズの原料

赤い網目と赤いキャップでお馴染みのキューピー マヨネーズの主要原料は卵黄、植物油、酢。

卵

卵で特に大切なのが鮮度。新鮮な卵でなければ割卵機で卵黄と卵白をきれいに分けられないからです。そこで、卵が工場についたらすぐに鮮度チェックを行い、基準に適合していることを確認しています。卵は傷みやすく衛生的に管理する必要があります。



卵の鮮度チェック

植物油

キューピー マヨネーズには、菜種油や大豆油などを使っており、その精製工程は調達先と細かいところまで確認し合っています。こうして設けた「キュービースペック」と呼ばれる独自の基準は、安全でおいしい商品づくりを支えています。また、「事前サンプル制度」という仕組みは、調達先からあらかじめサンプルを取り寄せ、検査を行って、合格した原料だけを受け入れるものです。さらにその合格した植物油は、私たちのグループの車両で調達先まで受け取りに行っています。植物油の基準づくり、製造、品質確認、輸送まで、すべてに私たちは関わっています。



事前サンプル制度で届けられた植物油の品質をチェック



輸送した植物油の受取。輸送担当者と工場の担当者が確認しながら行う

かつて、日本で製造されている酢は米などを原料にした和風の酢が主体で、洋風調味料であるマヨネーズに合う酢の入手は困難でした。そこで私たちは、1962年に専門会社を作りました。マヨネーズに使っているのは、リンゴ果汁やモルトなどを原料にして作った専用酢。野菜やパンだけでなく、ご飯や和食などにもよく合うようにしています。



マヨネーズ専用酢を作っているキュービー醸造株式会社



発酵タンク

ベビーフードの原料

ベビーフードは品質の集大成

ベビーフードは、赤ちゃんが食べるもの。だから、私たちが使用する原料には公的基準に加えて、ベビーフード協議会の自主規格をもとにしたキュービー独自の基準も設定しています。

産地や調達先を直接訪問してベビーフードに使う原料であることを伝え、品質を確認し合っています。たとえば、私たちの原料検査で気になることがあれば、それを持って調達先を訪問し、対応について一緒に考えます。

ベビーフードには着色料、保存料、香料は使っていません。安全かどうかという尺度ではありません。赤ちゃんの食はどうあるべきかを考えたとき、素材を大切にすべきと思うからです。

▶ [心を込めて、一つ、ひとつ。\(ベビーフード紹介サイト\)](#) ▶



異物探知機と人で原料を確認

農産物等の原料は、その状態、特性に応じて、X線を使った異物探知機や目視検査で確認しています。特に大切にしているのが、目で見て、匂いをかいで、手の感覚を働かせての選別です。

たとえば、家庭で使っている米には、割れたもの、一部が黒ずんだものも含まれています。

でも、それがベビーフードに含まれていると、子育て中の皆さんは心配になってしまいます。そこで、米粒も人が確認し、こうしたものを取り除いて使っています。にんじんは小さく角切りにされたものが入荷されてきます。これも確認し、変色したもの、大きなものなどを人の手で除去しています。



サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジメント	+
健康な食生活への取り組み	+
食育を中心とした社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	-
品質への想い	>
原料の品質	>
調達への取り組み	>
製造工程の品質	>
容器包装の品質	>
食の安全性評価	>
お客様相談室での対応	>
商品の表示への取り組み	>
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

調達への取り組み

キューピーグループは、原料に対しても品質第一主義を徹底しています。そのためにはサプライチェーン上における社会的配慮を行う持続可能な調達が必要と考え、基本方針を定めています。私たちは製造・販売プロセスのみでなく、商品を作るための原資材の調達プロセスにおいても社会的責任を果たしていきます。



持続可能な調達のための基本方針

「良い商品は、良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりを持っています。しかし今や品質だけではなく、環境や人権に与える影響にも配慮する必要があります。このことをお取引先と一緒に取り組むことが、良い原料を調達するための持続可能性を高めることと考えます。

持続可能な調達のための基本方針

持続可能なパーム油の調達

パーム油は熱帯地域で栽培されるアブラヤシから得られる植物油ですが、その農場を開発するための熱帯林の大規模な伐採や、農場労働者の人権などで課題があることが指摘されています。

こうした問題がある原料を使わないようにするために、また課題の解決に貢献するために、キューピーグループは、2018年1月に策定した「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」に基づき、2018年7月、RSPO（持続可能なパーム油のための円卓会議）に加盟し、今後、弊社グループの持続可能なパーム油の調達に取り組んでいきます。

取り組みについて

2019年にキューピーグループで調達するパーム油についてRSPOの「ブックアンドクレーム方式※」による認証クレジットの購入を開始しました。今後2021年までにキューピーグループで調達するすべてのパーム油について認証クレジットの購入を完了させます。その後、認証油の調達へと順次取り組みを検討していきます。

※ ブックアンドクレーム方式

RSPOにより認証された生産者が生産した認証油に、認証クレジット（証券）を発行。その認証クレジットを購入することで、認証パーム油の生産者を支援する仕組み。

> ESGデータ集

持続可能な紙の調達

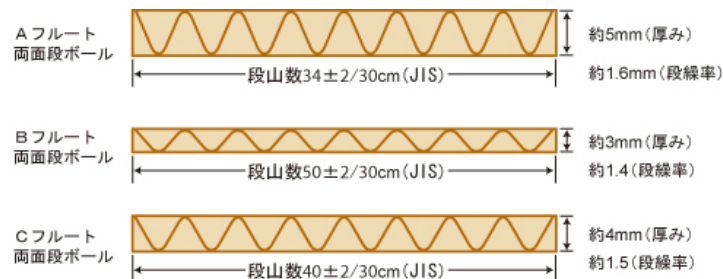
原料調達過程で新規の森林破壊に関与せず、原木生産地の法令および国際的な人権基準を守り、適切な手続きによって生産された事業者より紙・紙製品を調達することに取り組めます。

そのため、森林認証紙(FSC®認証※等)を基本に、再生紙、また取引先によって新規の森林破壊や人権侵害への関与がない原材料から作られていることを確認した紙・紙製品の調達をめざします。

※ 責任ある管理をされた森林と、限りある森林資源を将来にわたって使い続けられるよう適切に調達された林産物に対する国際森林認証制度。

取り組みについて

段ボール構造を工夫し強度を維持しながら薄くすることで紙使用量の削減を進めています。



またベビーフードの『にこにこボックス』シリーズは、2019年3月よりFSC®認証紙の使用を開始しました。さらに箱の設計を変更し、トレーやパペットになる新たな機能※を付けることで、食育の1つである楽しい食体験の提供と同時に紙の大切さをお伝えしています(FSC® N002978)。

※ トレー：片手で2カップを安定して持てる、パペット：パッケージの動物をバクバクさせ、赤ちゃんに噛むことを促すことができます。



外箱をトレーとして使用



外箱をパペットとして使用

アラハタではカートンメーカーと協働し、55ジャムUD150シリーズ、カロリーハーフシリーズに「シェルフレイディパッケージ」を採用しました(カートン削減量：約55トン/年、CO₂削減量：約33トン/年)。店頭での開封や陳列作業の時間短縮と省力化に加え、カートンの形状を工夫することで材料の削減による環境負荷低減を実現しました。

パッケージの省資源の取り組み (2015年度)

「アラハタ 55ジャム」(小容量) カートン

カートンのフラップ寸法の変更を実施しました。結果、年間約14トンの省資源となり、段ボールメーカーの二酸化炭素排出量を11トン・CO₂/年削減しました。



▲変更前



▲変更後

同時に、簡単に開封・陳列できる「バカッとカートン」を採用し、店頭での作業改善を行いました。



鶏卵の調達に関する考え方

キューピーグループでは、品質や環境に及ぼす影響や人権への配慮とともに、アニマルウェルフェアを持続可能な鶏卵の生産や調達における重要課題と認識しています。

日本国内で当社グループが使用する原料鶏卵は、農林水産省が普及に努める『アニマルウェルフェアの考え方に対応した採卵鶏の飼養管理指針』に即して飼養された鶏卵の調達を行っています。また、今後の日本における採卵鶏の飼養管理のあり方を関係者と議論していくとともに、ケージフリー鶏卵を活用した商品開発にも取り組んでいく考えです。これらの取り組みを関係する業界や行政と連携しながら進めていきます。

持続可能な野菜の調達

キューピーグループでは、主に国産野菜を原料としてサラダ・惣菜を提供しています。そのため野菜の原料調達は事業継続において重要と認識しています。持続可能なキューピーグループの野菜調達と調達先の持続的成長・発展をめざすために生産者の皆様とコミュニケーションを図りながら進めていきます。

取り組みについて

生産農家との協働

良質な野菜原料を安定して調達するためには、地域農業の振興が重要になります。一方で、天候不順、後継者不足、耕作放棄地の拡大など、社会的な問題が顕在化しています。キューピーグループは、全国の生産農家と協働し、これらの問題の解決に貢献していきます。

農業を基盤とした地域振興

キューピーは、2017年より茨城県つくば市にある有限会社ワールドファームと提携し、全国の耕作放棄地を畑に再生する取り組みを進めています。現在、契約産地から新鮮なキャベツが、グループ会社で製造するカット野菜などの原料の一部として供給されています。契約産地とは定期的に産地見学や工場見学を通して相互理解と情報をフィードバックしながら品質向上へ向けた取り組みを行っています。産地開発による安定的な原料調達だけでなく、農業の担い手となる若者が集まり、地域が一体となった農業振興への貢献につなげていきたいと考えています。

またキューピーグループで排出される卵殻や商品である「葉活酢」を活用した生育促進と生理障害への効果改善について、大学や生産農家と共同研究を行っています。



耕作放棄地を再生し農業の担い手となる若者たち
(茨城県つくば市)

サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

安全・安心な原料の調達の一環として、圃場に工場メンバーや原資材メンバーが定期的に訪問しています。また生産者には工場見学への参加、他には収穫応援や工場研修、バーベキューの開催など積極的に産地農家との交流を図っています。

毎年4月には、生産者の皆さまに感謝の想いを伝えることを目的に「Grower of Salad Club（グロワー・オブ・サラダクラブ）」として契約産地を表彰しています。主要原料を対象に品位の評価を行い、契約産地の中から「最優秀賞」「優秀賞」「特別賞」として表彰しています（各受賞産地はサラダクラブホームページの「プレスリリース」に掲載）。

一方で生産者をパートナーとして循環型農業の構築も行っています。パッケージサラダの製造過程で発生する野菜未利用部を工場内で飼料や肥料にし、肥料は農産地で使用してもらうなど、つながりを広げています。



産地表彰式「Grower of Salad club 2019」の様子

アヲハタによる果実生産者との取り組み

キューピーグループで使用する果実の原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。

「農産加工品の美味しさは、その原料によって7割が決まる」という考え方にに基づき、生産者との信頼関係を構築しつつ、栽培技術の研究を行い、高品質な原料の安定確保に努めています。

＜アヲハタ 社会・環境への取り組み＞ [📄](#)

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジメント	+
健康な食生活への取り組み	+
食育を中心とした社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	-
品質への想い	>
原料の品質	>
調達への取り組み	>
製造工程の品質	>
容器包装の品質	>
食の安全性評価	>
お客様相談室での対応	>
商品の表示への取り組み	>
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キュービーグループ オフィシャルブログ	>

製造工程の品質

私たちの工場では、エリアごとに靴を履き替えます。製造現場に入るときには必ず手を洗います。加熱作業では毎回必ず温度を確認し、記録を残し続けています。

一見、地味で非効率的にすら思えるかもしれませんが、こうした品質を守るために欠かせない作業が「面倒」に思えてしまうと、人的ミスが発生します。それを防ぐために、私たちは「なぜその作業が必要か？」を考え、一つひとつの作業の意味を正しく理解するようにしています。



ルールの徹底とミス防止の仕組み

私たちの工場では、作業員からの異物混入を防ぐため、決められた服装にし、決められた手順で製造現場に入る規定があります。また、意図的な異物混入を防ぐフードディフェンスの仕組みを導入しています。原料の配合工程においても、独自の仕組みを利用し、配合事故未然防止を徹底しています。

意図的な異物混入防止の方針

1. 製造現場内には決められた者しか入れない
2. 意図的な悪戯をさせない
3. 問題ないことを後から証明できる

+従業員との対話を大切にする

安全な商品を作るためのルール >



配合事故の未然防止

私たちの工場では、働く人のミスと不安をなくし、品質を守るため、自社開発で「配合事故未然防止システム」を構築しました。原料の入荷や計量、配合などの各工程において、二次元コードを読み込むことで、その都度原料の種類や使用量、賞味期限などについて照合と記録を行うことができる仕組みです。さらに、この記録をたどることで、「その商品に使った原料は何か」「同じ原料を使った商品は何か」などを特定することができます。私たちのトレーサビリティシステムの根幹にあるのが、この「配合事故未然防止システム」です。



マヨネーズの製造品質

おいしくて、安全で安心なマヨネーズをお届けするため、細部にまでこだわってマヨネーズを作っています。この根底にあるのが、1925年の発売以来こだわり続けてきた「良い商品をお届けする」という想いです。

マヨネーズの製造工程



1 割卵

キュービー独自の割卵機で1分間に600個の卵を割り、卵黄と卵白に分けます。卵を衛生的に扱うために、定期的に割卵機を止めて洗っています。卵黄は61℃×3.5分以上の条件で加熱殺菌します。乳化力などの卵黄の機能は保持したまま、サルモネラ、鳥インフルエンザウイルスについては安心な状態になります。



2 調合

マヨネーズの大敵は酸素。酸化しないように、真空状態で乳化します。油の粒は1000分の2～4mm。手作りよりもキュービー マヨネーズがまろやかな風味なのは、この油の粒が細かくて、均質だからです。



3 ボトルの口部をカット

マヨネーズのボトルは、密封状態で入荷され、充てんの直前に逆さにして口部をカットします。切りくずが内部に入らないようにするためです。口部をカットしたらキャップ締めまで製造ラインに覆いをし、異物が混入しないようにしています。



4 充てん

マヨネーズをろ過した後、ボトルに充てんします。



5 キャップじめ・印字

マヨネーズを充てんしたらすぐにキャップをします。このとき口部の空気を窒素で置換し酸化を防止しています。その後キャップに賞味期限と、充てん時刻を意味する記号を印字します。これにより製造年月日と充てん時刻がわかり、その商品を作ったときの製造状況などを調べることができます。



6 包装・箱詰め

できあがった商品を袋に入れ、箱に詰めます。このとき重量を量り、決められた量が充てんされているか、箱には決められた本数が入っているか、全数確認します。



7 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

ベビーフードの製造品質

発売以来「品質第一」を信条とし、ベビーフードの品質を守っています。大切にしているのは、赤ちゃんを育てている皆さんの気持ちになること。ベビーフード作りで培ったノウハウが、他の商品作りにも活かされています。

レトルトパウチタイプの製造工程一例



1 選別

注意深く見て、原料を選別します。



2 調理

大きな釜に原料を入れて調理します。おいしく仕上げるために、かき混ぜ方などにひと工夫しています。



3 金属異物確認

調理したものの中に金属異物が含まれていないことを確認するため、強力なマグネットを使用します。



4 充てん密封

袋の中に一定量を充てんします。直後に袋の上部を熱を使って 接着し、異物などが内部に入らないようにします。



重量確認

定められた重量が充てんされていることを0.1g単位で全数確認します。



6 加熱殺菌

レトルトパウチの場合、120℃、4分相当以上の加熱殺菌をします。そのため、保存料などは不要です。



7 異物確認

X線を使って内部を透過撮影し、異物が入っていないか、全数確認します。



8 密封検査包装

密封されていることを全数確認し、包装します。



9 最終検査

風味・状態などを最終チェックし、問題ないことを確認します。



10 出荷

グループのトラックを使って工場から出荷します。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取り組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

容器包装の品質

食品の容器包装は、時には何カ月も内容物を守り、品質を保持するという大切な役割を果たしています。同時に、使いやすさも容器包装の重要な要素です。

内容物の配合や特性に加え、輸送や店頭での陳列、ご家庭での使用場面などを想定して容器の設計を行います。設計通りに作られているか、実際の使い勝手に問題ないかなど、さまざまな方法で容器の品質を確認しています。

また、機能性評価や安全性評価は容器包装メーカーと連携しながら、課題解決と品質の維持向上に努めています。



マヨネーズのキャップの開けやすさの評価

品質評価

私たちは容器として必要な要件や、お使いいただく過程で想定されるリスクを洗い出し、一つひとつ確認します。

おいしさを守る



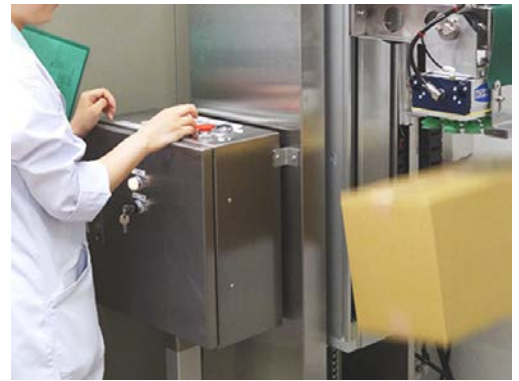
容器の肉厚を精密に測り、品質を守るために必要な厚みがあるか、部位ごとの厚みのばらつきは問題ないかなどを評価します。



赤い浸透液を使って微細なシール不良がないかなど、「容器の密封性が保たれているか」を評価します。



上から圧力を加え、どの程度の荷重に耐えられるかなどを評価します。



流通での荷扱いや店頭での陳列を想定した高さから商品を落下させ、変形や破損がないかなどを評価します。

安全に快適にお使いいただく



マヨネーズのアルミシールの開封しやすさを評価します。



ドレッシングのプルリングを引っ張り、同様に、開封しやすさを評価します。

マヨネーズの酸化防止

酸素はマヨネーズの植物油を酸化させ、風味を劣化させてしまいます。キュービー マヨネーズでは酸化を防ぐために、容器包装にもさまざまな工夫をしています。



口部はアルミシールで酸素を遮断しています(1988年から)。



ポリエチレン層の間に酸素を通しにくい層を挟み込み、酸素を遮断しています(1972年から)。さらにキュービーハーフでは酸素吸収層も挟み込んでいます(2005年から)。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取り組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

食の安全性評価

キューピーグループには、科学的データに基づいて食の安全を支える「食品安全科学センター」という部門があります。

お客様に安全・安心な商品をお届けするために、各工場の品質保証部門と連携し、日々商品や原料について理化学分析・微生物検査などを行っています。また、食の安全に関する情報を集め、審議、評価を行って、リスク低減にも努めています。



理化学的評価

化学的有害物質の分析

原料や商品の安全性を確認するために、残留農薬や動物用医薬などの定期検査を行っています。使用する機器は、ガスクロマトグラフ質量分析計や液体クロマトグラフ質量分析計などの最新の分析機器です。



1.成分の抽出・調製



2.分析機器による測定



3.分析結果の解析

食物アレルギー検査

ベビーフードなどの商品は、国で定められた方法で定期検査を行い、商品に表示していない特定原材料(アレルゲン)が混入していないことを確認しています。



1.サンプルの分注



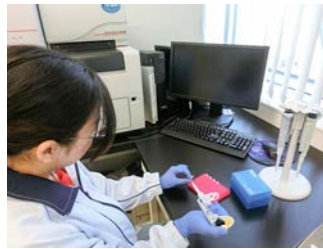
2.サンプルの測定

微生物学的評価

マヨネーズは保存料などは使わず、食塩と酢の力で日持ちさせています。また、加熱殺菌して日持ちさせている商品もあります。原料にはどのような微生物がいるかを評価し、どのような配合にすれば安全か、どのくらいの温度と時間で加熱殺菌すれば良いか、などを調べます。常に最新の情報を確認しながら新規技術開発にも取り組み、より迅速な検査ができるようにしています。



1.一般的な微生物検査



2.遺伝子検査



3.それぞれに特有なたんぱく質検出による微生物同定※

※ 微生物の種類を特定すること。

放射性物質検査

私たちの商品には、原料の産地を確認するなどの徹底した管理体制のもと、安全性が確保された原料を使用しています。さらに、私たちは、ゲルマニウム半導体検出器やNaIスペクトロサーベイメータを用い、放射性物質を定期的に検査して問題ないことを確認しています。また、行政などの情報も随時確認することで、お客様に安全な商品をお届けしています。



1.サンプルの調製



2.ゲルマニウム半導体検出器にセッティング



3.データ解析

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取り組
み +

食育を中心とした社会へ
の取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取り組み >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取り組
み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

お客様相談室での対応

お客様からのご意見やご要望はとても貴重です。お客様相談室ではそうしたご意見に迅速に、的確に、そして誠意を持って対応することをめざし、一人ひとりのお客様にご満足いただけるよう心がけています。

さらに、ご意見の内容を把握して社内で共有し、商品やサービスの改善を推進していくこともお客様相談室の役割です。

消費者志向自主宣言

キューピーでは、お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様から最も信頼していただけるよう努めています。

> 消費者志向自主宣言

お客様の声を活かす仕組み

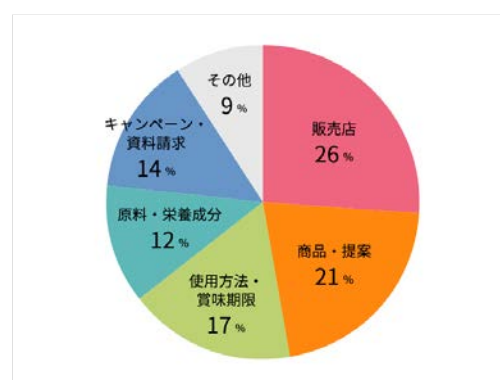
お客様相談室におけるお問合せ・ご指摘数の推移

お問い合わせ・ご指摘数の推移



※2017年度の深煎りごまドレッシング、2019年度のアレンジプラス、2020年度のバスタソースカルボナーラ 自主回収実施件数は除く

2020年度 お問い合わせ内容



お客様の声の活用

お客様からは、商品の見直しなどの参考になるご指摘、ご要望を日々いただいています。そうしたお申し出を社内で共有し、商品やサービスの改善に繋げています。



1 お客様の声のデータベース化

お客様からいただいたお申し出を、その内容により、「お問い合わせ」と「ご指摘」に区分けし、データベース化します。



2 全件の聴き取り・分析

ご意見を全件聴き取り、その内容を分析し、関連部門に情報を共有します。改善の必要な内容を議案として提出します。



3 お客様の声委員会で審議

定期的開催される「お客様の声委員会」は、品質保証本部長を委員長として、お客様相談室をはじめ、さまざまな部門の責任者が参加して開催される会議です。ここで改善に必要な案件を審議決裁します。



4 開発部門で検討

改善を行う商品について、さまざまな角度から方向性や設計などを研究開発部門・商品開発部門で検討します。



5 研究部門で試作

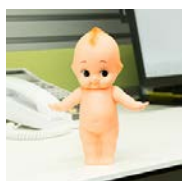
専門家や容器メーカー様などの協力のもと、試作・テストを繰り返し、商品づくりを進めます。進捗は都度「お客様の声委員会」に報告し、お客様のご意見と照らし合わせながら内容を確認します。



6 商品化

商品の使いやすさや表示のわかりやすさなど厳しいチェックを経て、お客様の声を活かした新しい商品が完成します。

お客様の声に関する情報



お客様相談室 □

お客様相談室では、過去のお問い合わせをQ&Aとしてまとめたり、問い合わせ状況の掲載を行っています。



お客様の声から生まれた商品 □

キュービー エッグケアは卵アレルギーに関するお問い合わせがもととなって開発されました。

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジ
メント +

健康な食生活への取組
み +

食育を中心とした社会へ
の取組 +

環境への取組 +

ガバナンス +

人と働き方への取組 +

安全・安心への取組 -

品質への想い >

原料の品質 >

調達への取組 >

製造工程の品質 >

容器包装の品質 >

食の安全性評価 >

お客様相談室での対応 >

商品の表示への取組
み >

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キュービーグループ
オフィシャルブログ >

商品の表示への取り組み

食品の表示は、お客様が商品を選択し、安心してお使いいただく上で、なくてはならない情報です。その中には、法令で義務付けられている義務表示と、任意表示の2種類があります。



義務表示

義務表示については、法令に則った間違いのない表示にするため、食品法令に関する専門部署を設けています。

任意表示

お客様によりわかりやすい情報を提供するために、私たちが独自に表示しています。

表示の見方

商品ごとの各表示の掲載項目についてご紹介します。



➡ マヨネーズの表示の見方



➡ ベビーフードの表示の見方



➡ ドレッシングの表示の見方

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジメント	+
健康な食生活への取り組み	+
食育を中心とした社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

開示方針

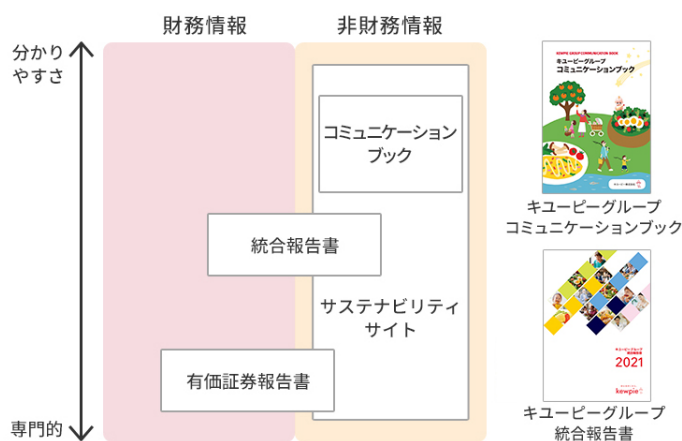
基本的な考え方

キューピーグループでは、サステナビリティの考え方と取り組みをウェブサイトにて網羅的に報告して、ステークホルダーの皆様にお伝えしています。この報告は、GRIサステナビリティ・レポート・スタンダードを参照して構成しています。

これに加えて、お客様をはじめ広く一般の皆さまに親しんでいただけるようサステナビリティ情報を分かりやすくまとめた「キューピーグループ コミュニケーションブック」を作成しています。

また、株主・投資家を含むすべてのステークホルダーの皆様にむけて財務・非財務情報を統合し企業価値創造のための中長期戦略と各施策をご報告する「キューピーグループ統合報告書」を作成しています。

サステナビリティ情報のコミュニケーションツール



開示情報

対象組織：キューピー株式会社および連結子会社・持分法適用会社合計84社

対象期間：2020年度（2019年12月1日から2020年11月30日）

※一部の情報には対象期間以外の活動を含みます。

報告サイクル：年次報告として毎年更新

公開：2021年5月

参照ガイドライン：GRI サステナビリティ・レポート・スタンダード、環境省 環境報告ガイドライン2018年度版

お問い合わせ

当社のサステナビリティ情報に関するお問い合わせは、下記までご連絡ください。

キューピー株式会社 経営推進本部 サステナビリティ推進部 環境チーム

東京都渋谷区渋谷1-4-13 Tel:03-3486-3058

報告書の変遷

2001年度～	環境報告書
2005年度	環境・社会報告書
2006年度～	社会・環境報告書、ウェブサイト
2019年度	CSRサイト、統合報告書、コミュニケーションブック
2020年度～	サステナビリティサイト、統合報告書、コミュニケーションブック

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

各種報告書

報告書ダウンロード

報告書バックナンバー

キューピーグループ統合報告書 2021

株主・投資家をはじめとした全てのステークホルダーの皆様に対して、当社グループの中長期的な価値創造について、より一層の理解を深めていただくことを目的に、ビジネスの全体像、企業価値創造に向けた戦略や計画、具体的な取り組み内容等を総合的にご報告します。

統合報告書 >



キューピーグループ コミュニケーションブック

広く一般の皆様に対して、サステナビリティに向けた私たちの想いや取り組み事例などをわかりやすくご紹介します。
(2021年4月8日更新)

 キューピーグループ コミュニケーションブック (5.33MB)



サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジ メント	+
健康な食生活への取組 み	+
食育を中心とした社会へ の取組み	+
環境への取組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取組み	+
安全・安心への取組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

各種報告書

報告書ダウンロード	報告書バックナンバー
-----------	------------

2019年度の本サイトPDFは以下よりご覧いただけます。

キューピーサステナビリティサイトPDF	
2020年	 キューピーサステナビリティサイト2020 (24.9MB)
2019年	 キューピーサステナビリティサイト(旧CSRサイト)2019(7.98MB)

2020年度以前のコミュニケーションブックは以下よりご覧いただけます。

コミュニケーションブック	
2020年	 コミュニケーションブック2020 (4.2MB)
2019年	 コミュニケーションブック2019 (6.9MB)

2018年度以前の社会・環境報告書は以下の一覧よりご覧いただけます。

社会・環境報告書		
2018年	 ダイジェスト版(3.80MB)	 フルレポート(7.12MB)
2017年		 フルレポート(7.61MB)
2016年	 ダイジェスト版(4.84MB)	 フルレポート(7.31MB)
2015年	 ハイライト(2.52MB)	 フルレポート(3.73MB)
2014年	 ハイライト(4.25MB)	 フルレポート(2.88MB)
2013年	 ハイライト(7.60MB)	 フルレポート(4.14MB)
2012年	 ハイライト(1.06MB)	 フルレポート(4.75MB)
2011年	 ハイライト(3.31MB)	 フルレポート(4.20MB)
2010年	 ハイライト(5.82MB)	 フルレポート(8.44MB)
2009年	 ハイライト(7.87MB)	 フルレポート(5.71MB)

2008年	 ハイライト (6.73MB)	 フルレポート (6.14MB)
2007年	 ハイライト (3.83MB)	 フルレポート (3.88MB)
2006年	 冊子版 (5.15MB)	 ウェブ版 (3.31MB)
2005年	 冊子版 (2.30MB)	
2004年	 冊子版 (1.19MB)	
2003年	 冊子版 (1.19MB)	
2002年	 冊子版 (1.19MB)	
2001年	 冊子版 (1.19MB)	

サステナビリティ

[サステナビリティトップ](#) >

[トップメッセージ](#) >

[サステナビリティマネジメント](#) +

[健康な食生活への取り組み](#) +

[食育を中心とした社会への取り組み](#) +

[環境への取り組み](#) +

[ガバナンス](#) +

[人と働き方への取り組み](#) +

[安全・安心への取り組み](#) +

[開示方針](#) >

[各種報告書](#) >

[GRIスタンダード対照表](#) >

[ESGデータ集](#) >

[社会・環境活動の歴史](#) >

[キュービーグループ
オフィシャルブログ](#) >

GRIスタンダード対照表

当ウェブサイトは、GRI(Global Reporting Initiative)「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」を参照して制作しています。

番号	タイトル	記載ページ	ISO26000 (中核主題)	
共通スタンダード				
102:一般開示事項				
組織のプロフィール				
102-1	組織の名称	> 会社概要	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-2	活動、ブランド、製品、サービス	> グループの事業		同上
102-3	本社の所在地	> 会社概要		同上
102-4	事業所の所在地	> 事業所・グループ会社		同上
102-5	所有形態および法人格	> グループの事業		同上
102-6	参入市場	 有価証券報告書 > 主要な設備の状況 > 会社概要 > ステークホルダーとの対話		同上
102-7	組織の規模	> 会社概要		同上
102-8	従業員およびその他の労働者に関する情報	> 多様な人材の活躍のための取り組み		同上

9		> 原料の品質 > 調達への取り組み > 持続可能な調達のための基本方針		
102-10	組織およびそのサプライチェーンに関する重大な変化	当該期間については該当なし		同上
102-11	予防原則または予防的アプローチ	> 事業等のリスク PDF 有価証券報告書 > コーポレート・ガバナンスの状況等 PDF 統合報告書 > コーポレート・ガバナンスの推進		同上
102-12	外部イニシアティブ	> 社外からの評価		同上
102-13	団体の会員資格	> 一般財団法人 食品安全マネジメント協会 PDF > 公益財団法人 キューピーみらいたまご財団 PDF		同上
戦略				
102-14	上級意思決定者の声明	PDF 統合報告書 > トップメッセージ > トップメッセージ	4.7 6.2	国際行動規範の尊重 組織統治
102-15	重要なインパクト、リスク、機会	> 事業等のリスク		同上
倫理と誠実性				
102-16	価値観、理念、行動基準・規範	> 理念 > キューピーの約束	4.4 6.6.3	倫理的な行動 汚職防止
102-17	倫理に関する助言および懸念のための制度	PDF 統合報告書 > コーポレート・ガバナンスの推進		同上
ガバナンス				
102-18	ガバナンス構造	> コーポレート・ガバナンス	6.2	組織統治
102-19	権限移譲	PDF 有価証券報告書 > 企業統治の体制		同上
102-20	経済、環境、社会項目に関する役員レベルの責任	PDF 有価証券報告書 > 企業統治の体制		同上
102-21	経済、環境、社会項目に関するステークホルダーとの協議	> 重点課題と推進体制 > ステークホルダーとの対話 PDF 統合報告書 > 経営アドバイザーボード		同上

102-22	最高ガバナンス機関およびその委員会の構成	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-23	最高ガバナンス機関の議長	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-24	最高ガバナンス機関の指名と選出	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-25	利益相反	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-26	目的、価値観、戦略の設定における最高ガバナンス機関の役割	＞サステナビリティマネジメント		同上
102-27	最高ガバナンス機関の集会的知見	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-28	最高ガバナンス機関のパフォーマンスの評価	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-29	経済、環境、社会へのインパクトの特定とマネジメント	＞サステナビリティマネジメント ＞ステークホルダーとの対話  統合報告書＞経営アドバイザリーボード		同上
102-30	リスクマネジメント・プロセスの有効性	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-31	経済、環境、社会項目のレビュー	＞サステナビリティマネジメント  統合報告書＞価値創造プロセス  統合報告書＞キューピーグループのサステナビリティ		同上
102-32	サステナビリティ報告における最高ガバナンス機関の役割	＞サステナビリティマネジメント		同上
102-33	重大な懸念事項の伝達	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-34	伝達された重大な懸念事項の性質と総数	＞コーポレート・ガバナンス		同上
102-35	報酬方針	＞コーポレート・ガバナンス  統合報告書＞役員報酬の決定		同上
102-36	報酬の決定プロセス	＞コーポレート・ガバナンス  統合報告書＞役員報酬の決定		同上

102-37	報酬に関するステークホルダーの関与	 第108回定時株主総会招集ご通知 > 取締役および監査役の報酬等の額  第108回定時株主総会招集ご通知 > 第3号議案 取締役賞与支給の件  統合報告書 > 役員報酬の決定		同上
102-38	年間報酬総額の比率			同上
102-39	年間報酬総額比率の増加率			同上
ステークホルダー・エンゲージメント				
102-40	ステークホルダー・グループのリスト	> ステークホルダーとの対話 > キュービーみらいたまご財団 > 事業内容 	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-41	団体交渉協定	> 多様な人材の活躍のための取り組み	6.3.10 6.4.1 -6.4.2 6.4.3 6.4.4 6.4.5 6.8.5	課題8:労働における基本的原則及び権利 労働慣行の概要、原則及び考慮点 雇用及び雇用関係 労働条件および社会的保護 課題3:社会対話 課題3:雇用創出及び技能開発
102-42	ステークホルダーの特定および選定	> ステークホルダーとの対話 > キュービーみらいたまご財団 > 助成募集  について	5.3	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント
102-43	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ方法	> ステークホルダーとの対話 > キュービーみらいたまご財団 > 助成募集  について > 消費者志向自主宣言	5.3 4.6 6.7.6	ステークホルダーの特定及びステークホルダーエンゲージメント 法の支配の尊重 課題4:消費者に対するサービス、支援、並びに苦情および紛争の解決
102-44	提起された重要な項目および懸念	> ステークホルダーとの対話	5.3	ステークホルダーの特定及

報告実務				
102-45	連結財務諸表の対象になっている事業体	 有価証券報告書 > 関係会社の状況	5.2	社会的責任の認識
102-46	報告書の内容および項目の該当範囲の確定	> 重点課題と推進体制		同上
102-47	マテリアルな項目のリスト	> 重点課題と推進体制		同上
102-48	情報の再記述	当該期間については該当なし		同上
102-49	報告における変更	当該期間については該当なし		同上
102-50	報告期間	> 開示方針		
102-51	前回発行した報告書の日付	2021年5月27日		
102-52	報告サイクル	年1回発行		
102-53	報告書に関する質問の窓口	> 開示方針		
102-54	GRIスタンダードに準拠した報告であることの主張	> 当ウェブサイトはGRIスタンダードを参照して制作しています。		
102-55	内容索引	> GRIスタンダード対照表		
102-56	外部保証			
103:マネジメント手法				
103-1	マテリアルな項目とその該当範囲の説明	> サステナビリティマネジメント > 事業等のリスク	5.2	社会的責任の認識
103-2	マネジメント手法とその要素	> サステナビリティマネジメント > 健康な食生活への取り組み > 食育を中心とした社会への取り組み > 環境への取り組み > 人と働き方への取り組み		
103-	マネジメント手法の評価	—		

3	方法	PDF 統合報告書 > 価値創造プロセス PDF 統合報告書 > キューピーグループのサステナビリティ		
項目別のスタンダード				
経済				
201:経済パフォーマンス				
201-1	創出、分配した直接的経済価値	PDF 有価証券報告書 > 企業情報	6.8.1 -6.8.2 6.8.3 6.8.7 6.8.9	コミュニティへの参画及び コミュニティの発展、原則及び考慮点 課題1:コミュニティへの参画 課題5:富及び所得の創出 課題7:社会的投資
201-2	気候変動による財務上の影響、その他のリスクと機会	> 事業等のリスク > リスクマネジメント	6.5.5	課題3:気候変動の緩和及び気候変動への適応
201-3	確定給付型年金制度の負担、その他の退職金制度	PDF 有価証券報告書 > 退職給付関係	6.8.7	課題5:富及び所得の創出
201-4	政府から受けた資金援助			
202:地域経済での存在感				
202-1	地域最低賃金に対する標準新人給与の比率(男女別)	当該期間については該当なし	6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4 6.8.1 -6.8.2	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
202-2	地域コミュニティから採用した上級管理職の割合	> 多様な人材の活躍のための取り組み	6.4.3 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7	課題1:雇用及び雇用関係 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点 課題3:雇用創出

				及び技能開発 課題5:富及び所 得の創出
203:間接的な経済的インパクト				
203- 1	インフラ投資および支援 サービス	> 食育を中心とした社会 への取り組み > 健康な食生活への取り 組み > キューピーみらいた まご財団 > 事業内容 	6.5.9 6.8.1 -6.8.2 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的及び文 化的権利 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題5:富及び所 得の創出 課題7:社会的投 資
203- 2	著しい間接的な経済的イ ンパクト	当該期間については該当 なし	6.3.9 6.6.6 6.6.7 6.7.8 6.8.1 -6.8.2 6.8.5 6.8.7 6.8.9	課題7:経済的、 社会的及び文 化的権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 課題5:財産権の 尊重 課題6:必要不可 欠なサービス へのアクセス コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題3:雇用創出 及び技能開発 課題5:富及び所 得の創出 課題7:社会的投 資
204:調達慣行				
204- 1	地元サプライヤーへの支 出の割合		6.4.3 6.6.6 6.8.1 -6.8.2 6.8.7	課題1:雇用及び 雇用関係 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 コミュニティ への参画及び コミュニティ の発展、原則及 び考慮点 課題5:富及び所 得の創出
205:腐敗防止				

205-1	腐敗に関するリスク評価を行っている事業所	 第108回定時株主総会招集ご通知 > 内部統制システムの運用状況	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
205-2	腐敗防止の方針や手順に関するコミュニケーションと研修	> 倫理規範 > 反贈賄基本方針制定について	6.6.1 -6.6.2 6.6.3 6.6.6	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
205-3	確定した腐敗事例と実施した措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.3	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題1:汚職防止
206:反競争的行為				
206-1	反競争的行為、反トラスト、独占的慣行により受けた法的措置	当該期間については該当なし	6.6.1 -6.6.2 6.6.5 6.6.7	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題3:公正な競争 課題5:財産権の尊重
環境				
301:原材料				
301-1	使用原材料の重量または体積	> 環境マネジメント	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301-2	使用したリサイクル材料	> 商品・サービスにおける環境配慮	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
301-3	再生利用された製品と梱包材	> 資源の有効活用 > 商品・サービスにおける環境配慮	6.5.3 6.5.4 6.7.5	課題1:汚染の予防 課題2:持続可能な資源の利用 課題3:持続可能な消費
302:エネルギー				
302-1	組織内のエネルギー消費量	> 環境マネジメント > 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-2	組織外のエネルギー消費量	> 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-3	エネルギー原単位	> 気候変動への対応	6.5.4	課題2:持続可能な資源の利用
302-4	エネルギー消費量の削減	> 気候変動への対応	6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能な資源の利用 課題3:気候変動

				の緩和及び気 候変動への適 応
302- 5	製品およびサービスのエ ネルギー必要量の削減		6.5.4 6.5.5	課題2:持続可能 な資源の利用 課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
303:水				
303- 1	水源別の取水量	> 環境マネジメント > 水資源の持続的利用	6.5.4	課題2:持続可能 な資源の利用
303- 2	取水によって著しい影響 を受ける水源		6.5.4	課題2:持続可能 な資源の利用
303- 3	リサイクル・リユースし た水	> 水資源の持続的利用	6.5.4	課題2:持続可能 な資源の利用
304:生物多様性				
304- 1	保護地域および保護地域 ではないが生物多様性価 値の高い地域、もしくは それらの隣接地域に所 有、賃借、管理している事 業サイト	> 生物多様性の保全	6.5.6	課題4:自然環境 の保護及び回 復
304- 2	活動、製品、サービスが生 物多様性に与える著しい インパクト	当該期間については該当 なし	6.5.6	課題4:自然環境 の保護及び回 復
304- 3	生息地の保護・復元	> 生物多様性の保全	6.5.6	課題4:自然環境 の保護及び回 復
304- 4	事業の影響を受ける地域 に生息するIUCNレッドリ ストならびに 国内保全種 リスト対象の生物種	当該期間については該当 なし	6.5.6	課題4:自然環境 の保護及び回 復
305:大気への排出				
305- 1	直接的な温室効果ガス(G HG)排出量(スコープ1)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
305- 2	間接的な温室効果ガス(G HG)排出量(スコープ2)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
305- 3	その他の間接的な温室効 果ガス(GHG)排出量(ス コープ3)	> 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応

305-4	温室効果ガス (GHG) 排出 原単位	＞ 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
305-5	温室効果ガス (GHG) 排出 量の削減	＞ 気候変動への対応	6.5.5	課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
305-6	オゾン層破壊物質 (ODS) の排出量		6.5.3 6.5.5	課題1:汚染の予 防 課題3:気候変動 の緩和及び気 候変動への適 応
305-7	窒素酸化物 (NOx)、硫黄 酸化物 (SOx)、およびそ の他の重大な大気排出物	＞ 環境マネジメント	6.5.3	課題1:汚染の予 防
306:排水および廃棄物				
306-1	排水の水質および排出先	＞ 環境マネジメント	6.5.3 6.5.4	課題1:汚染の予 防 課題2:持続可能 な資源の利用
306-2	種類別および処分方法別 の廃棄物	＞ 資源の有効活用	6.5.3	課題1:汚染の予 防
306-3	重大な漏出	当該期間については該当 なし	6.5.3	課題1:汚染の予 防
306-4	有害廃棄物の輸送	当該期間については該当 なし	6.5.3	課題1:汚染の予 防
306-5	排水や表面流水によって 影響を受ける水域	＞ 環境マネジメント ＞ 水資源の持続的利用	6.5.3 6.5.4 6.5.6	課題1:汚染の予 防 課題2:持続可能 な資源の利用 課題4:自然環境 の保護及び回 復
307:環境コンプライアンス				
307-1	環境法規制の違反	当該期間については該当 なし ＞ 環境マネジメント	4.6	法の支配の尊 重
308:サプライヤーの環境面のアセスメント				
308-1	環境基準により選定した 新規サプライヤー	＞ 調達への取り組み ＞ 持続可能な調達のた めの基本方針	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回 避 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進

308-2	サプライチェーンにおけるマイナスの環境インパクトと実施した措置	> 重点課題と推進体制 > 環境マネジメント > 調達への取り組み > 資源の有効活用 > 水資源の持続的利用 > 事業等のリスク	6.3.5 6.6.6	課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
社会				
401:雇用				
401-1	従業員の新規雇用と離職	> 多様な人材の活躍のための取り組み > ESGデータ集	6.4.3	課題1:雇用及び雇用関係
401-2	正社員には支給され、非正規社員には支給されない手当	> 多様な人材の活躍のための取り組み > 健康経営への取り組み	6.4.4 6.8.7	課題2:労働条件及び社会的保護 課題5:富及び所得の創出
401-3	育児休暇	> 多様な人材の活躍のための取り組み > ESGデータ集	6.4.4	課題2:労働条件及び社会的保護
402:労使関係				
402-1	事業上の変更に關する最低通知期間		6.4.3 6.4.5	課題1:雇用及び雇用関係 課題3:社会対話
403:労働安全衛生				
403-1	正式な労使合同安全衛生委員会への労働者代表の参加		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
403-2	傷害の種類、業務上傷害・業務上疾病・休業日数・欠勤および業務上の死亡者数	> 健康経営への取り組み	6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-3	疾病の発症率あるいはリスクが高い業務に従事している労働者		6.4.6 6.8.8	課題4:労働における安全衛生 課題6:健康
403-4	労働組合との正式協定に含まれている安全衛生条項		6.4.6	課題4:労働における安全衛生
404:研修と教育				
404-1	従業員一人あたりの年間平均研修時間	> 多様な人材の活躍のための取り組み	6.4.7	課題5:職場における人材育成及び訓練
404-2	従業員スキル向上プログラムおよび移行支援プログラム	> 多様な人材の活躍のための取り組み	6.4.7 6.8.5	課題5:職場における人材育成及び訓練

				課題3:雇用創出 及び技能開発
404-3	業績とキャリア開発に関して定期的なレビューを受けている従業員の割合	> 多様な人材の活躍のための取り組み 	6.4.7	課題5:職場における人材育成 及び訓練
405:ダイバーシティと機会均等				
405-1	ガバナンス機関および従業員のダイバーシティ	> 多様な人材の活躍のための取り組み > 人権尊重への取り組み 	6.2.3 6.3.7 6.3.10 6.4.3	意思決定のプロセス及び構造 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
405-2	基本給と報酬総額の男女比		6.3.7 6.3.10 6.4.3 6.4.4	課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係 課題2:労働条件及び社会的保護
406:非差別				
406-1	差別事例と実施した救済措置	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み 	6.3.1 6.3.2 6.3.6 6.3.7 6.3.10 6.4.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題8:労働における基本的原則及び権利 課題1:雇用及び雇用関係
407:結社の自由と団体交渉				
407-1	結社の自由や団体交渉の権利がリスクにさらされる可能性のある事業所およびサプライヤー	> 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.8 6.3.10 6.4.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題6:市民的及び政治的権利 課題8:労働における基本的原則

				則及び権利 課題3:社会対話 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進
408:児童労働				
408-1	児童労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 調達への取り組み > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.7 6.3.10 6.6.6 6.8.4	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ ィリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題5:差別及び 社会的弱者 課題8:労働にお ける基本的原 則及び権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進 課題2:教育及び 文化
409:強制労働				
409-1	強制労働事例に関して著しいリスクがある事業所およびサプライヤー	> 倫理規範 > 調達への取り組み > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.3.10 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮 点 課題1:デューデ ィリジェンス 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避 課題8:労働にお ける基本的原 則及び権利 課題4:バリュー チェーンにお ける社会的責 任の推進
410:保安慣行				
410-1	人権方針や手順について研修を受けた保安要員	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮 点 課題2:人権に関 する危機的状 況 課題3:加担の回 避

				課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
411:先住民族の権利				
411-1	先住民族の権利を侵害した事例	当該期間については該当なし	6.3.1 6.3.2 6.3.4 6.3.6 6.3.7 6.3.8 6.6.7 6.8.3	人権の概要 原則及び考慮点 課題2:人権に関する危機的状況 課題4:苦情解決 課題5:差別及び社会的弱者 課題6:市民的及び政治的権利 課題5:財産権の尊重 課題1:コミュニティへの参画
412:人権アセスメント				
412-1	人権レビューやインパクト評価の対象とした事業所	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデュー 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避
412-2	人権方針や手順に関する従業員研修	> 倫理規範 > 人権尊重への取り組み	6.3.1 6.3.2 6.3.5	人権の概要 原則及び考慮点 課題3:加担の回避
412-3	人権条項を含むもしくは人権スクリーニングを受けた重要な投資協定および契約		6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.5 6.6.6	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデュー 課題3:加担の回避 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進
413:地域コミュニティ				
413-1	地域コミュニティとのエンゲージメント、インパクト評価、開発プログラムを実施した事業所	> 食育を中心とした社会への取り組み > 食を通じた社会貢献活動 > その他の社会貢献活動	6.3.9 6.5.1 -6.5.2 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 環境の概要、原則及び考慮点

		＞ 生物多様性の保全		課題1:汚染の予防 コミュニティ 参画及び開発
413-2	地域コミュニティに著しいマイナスのインパクト(顕在的、潜在的)を及ぼす事業所		6.3.9 6.5.3 6.8	課題7:経済的、社会的及び文化的権利 課題1:汚染の予防 コミュニティ 参画及び開発
414:サプライヤーの社会面のアセスメント				
414-1	社会的基準により選定した新規サプライヤー	＞ 調達への取り組み ＞ 持続可能な調達のための基本方針	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及びコミュニティの発展、原則及び考慮点
414-2	サプライチェーンにおけるマイナスの社会的インパクトと実施した措置	＞ 重点課題と推進体制 ＞ 調達への取り組み ＞ 人権尊重への取り組み ＞ 事業等のリスク	6.3.1 6.3.2 6.3.3 6.3.4 6.3.5 6.4.3 6.6.1 -6.6.2 6.6.6 6.8.1 -6.8.2	人権の概要 原則及び考慮点 課題1:デューデリジェンス 課題2:人権に関する危機的状況 課題3:加担の回避 課題1:雇用及び雇用関係 公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題4:バリューチェーンにおける社会的責任の推進 コミュニティへの参画及び

				の発展、原則及び考慮点
415:公共政策				
415-1	政治献金		6.6.1 -6.6.2 6.6.4	公正な事業慣行の概要、原則及び考慮点 課題2:責任ある政治的関与
416:顧客の安全衛生				
416-1	製品およびサービスのカテゴリに対する安全衛生インパクトの評価	> 安全・安心への取り組み > 品質への想い	6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
416-2	製品およびサービスの安全衛生インパクトに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様相談室での対応 > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.4 6.7.5 6.8.8	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題6:健康
417:マーケティングとラベリング				
417-1	製品およびサービスの情報とラベリングに関する要求事項	> 商品の表示への取り組み > ユニバーサルデザインへの取り組み > 消費者志向自主宣言	6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	消費者課題の概要、原則及び考慮点 公正なマーケティング、事業に即した偏りのない情報、及び公正な契約慣行 課題2:消費者の安全衛生の保護 課題3:持続可能な消費 課題7:教育及び意識向上
417-2	製品およびサービスの情報とラベリングに関する違反事例	当該期間については該当なし > お客様相談室での対応 > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3 6.7.4 6.7.5 6.7.9	法の支配の尊重 消費者課題の概要、原則及び考慮点 課題1:公正なマーケティング、

				事業に則した 偏りのない情 報、及び公正な 契約慣行 課題2:消費者の 安全衛生の保 護 課題3:持続可能 な消費 課題7:教育及び 意識向上
417-3	マーケティング・コミュニケーションに関する違反事例	当該期間については該当 なし > お客様相談室での対応 > 消費者志向自主宣言	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.3	法の支配の尊 重 消費者課題の 概要、原則及び 考慮点 課題1:公正なマ ーケティング、 事業に則した 偏りのない情 報、及び公正な 契約慣行
418:顧客プライバシー				
418-1	顧客プライバシーの侵害 および顧客データの紛失 に関して具体化した不服 申立	当該期間については該当 なし > プライバシーポリシー > 個人情報のお取り扱い について	6.7.1 -6.7.2 6.7.7	消費者課題の 概要、原則及び 考慮点 課題5:消費者デ ータ保護及び プライバシー
419:社会経済面のコンプライアンス				
419-1	社会経済分野の法規制違 反	当該期間については該当 なし > お客様相談室での対応	4.6 6.7.1 -6.7.2 6.7.6	法の支配の尊 重 消費者課題の 概要、原則及び 考慮点 課題4:消費者に 対するサービ ス、支援、並び に苦情及び紛 争の解決

サステナビリティ

サステナビリティトップ >

トップメッセージ >

サステナビリティマネジメント +

健康な食生活への取り組み +

食育を中心とした社会への取り組み +

環境への取り組み +

ガバナンス +

人と働き方への取り組み +

安全・安心への取り組み +

開示方針 >

各種報告書 >

GRIスタンダード対照表 >

ESGデータ集 >

社会・環境活動の歴史 >

キューピーグループ
オフィシャルブログ >

ESGデータ集

事業活動におけるESG(環境・社会・ガバナンス)データ集は以下よりご覧いただけます。

 [キューピーESGデータ集 2020\(854KB\)](#)

 がついている資料をご覧いただくには [Adobe Reader](#)  が必要です。

環境

環境関連投資								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
環境負荷削減のための設備投資		百万円	-	343	170	210	算定中	キュービー単体
環境負荷削減のための費用額		百万円	-	777	840	901	算定中	キュービー単体
環境負荷削減による経済効果		百万円	-	613	636	795	算定中	キュービーグループ 国内生産工場
環境マネジメント								
		単位	2020年度					備考
第三者認証（ISO14001）		-	19事業所/72事業所					キュービーグループ 国内生産工場
環境関連法規制違反件数		件	0					キュービーグループ 国内生産工場
資源の有効活用								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
生産数量		トン	849,392	854,692	856,188	808,655	771,460	キュービーグループ 国内生産工場
廃棄物排出量	総量	千トン	59.0	60.3	60.5	50.8	45.1	キュービーグループ 国内生産工場
	原単位	kg/ 生産数量トン	69.4	70.5	70.6	62.8	58.4	
廃棄物等総排出量		千トン	-	81.4	82.8	72.4	69.1	キュービーグループ 国内生産工場
廃棄物最終処分量（単純埋立）		千トン	-	4.1	4.2	2.4	1.8	キュービーグループ 国内生産工場
再資源化率		%	-	95	95	97	97	キュービーグループ 国内生産工場
持続可能な調達								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
持続可能なパーム油 の調達	認証クレジット※ の購入割合	%	-	-	-	37	60	※RSPOブックアンドクレーム方式 による
生物多様性								
生物多様性保護政策の有無			有：キュービーグループ環境基本方針					
所有、賃貸、管理している土地で、生物多様性の保護 地域内部、もしくは類後地域に隣接している場所の有無			有：富士吉田キュービーは、国立公園内に立地しており、自然の整備や水資源を涵養する緑地面積の確保などの自 然保全に向けた取り組みを実施。					
水資源の持続的利用								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
水使用量	国内	千m ³	9,176	9,493	9,322	8,508	8,172	キュービーグループ 生産工場
	原単位	m ³ / 生産数量トン	10.8	11.1	10.9	10.5	10.6	
	海外	千m ³	864	871	936	826	1,018	
排水量	国内	千m ³	6,903	7,226	7,246	6,708	6,358	キュービーグループ 生産工場
	海外	千m ³	647	609	907	690	824	
商品やサービスにおける環境配慮								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
商品やサービスにおける取り組み		件	-	-	-	3	5	※2019年度より集計開始 ニュースリリース発信件数

「環境」に関するデータは、特に記載のない限りキュービーグループおよび連結子会社を対象とする。

環境

CO2排出削減									
			単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
CO2排出量	国内	Scope 1	千トン-CO ₂	82.6	82.7	78.5	68.4	68.4	キュービーグループ 生産工場・オフィス ※昨年度掲載数値 に誤りがあり修正
		Scope 2	千トン-CO ₂	126.0	127.8	125.1	111.2	111.2	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	208.6	210.5	203.6	179.6	179.6	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	232.9	237.9	234.0	220.9	226.2	
	海外	Scope 1	千トン-CO ₂	69.5	42.2	30.5	31.6	30.6	キュービーグループ 生産工場
		Scope 2	千トン-CO ₂	17.2	19.9	19.3	20.3	18.9	
		Scope 1+2	千トン-CO ₂	86.7	62.0	49.8	51.9	49.5	
		原単位	Kg-CO ₂ ／ 生産数量トン	741.4	392.9	287.9	284.6	265.1	
	国内	Scope 3 合計	千トン-CO ₂	-	-	-	392.7	算定中	キュービー単体
		1. 購入した製品・サービス	千トン-CO ₂	-	-	-	234.4	算定中	
		2. 資本財	千トン-CO ₂	-	-	-	28.1	算定中	
		3. Scope1, 2に含まれない燃料 及びエネルギー関連活動	千トン-CO ₂	-	-	-	6.0	算定中	
		4. 輸送、配送（上流）	千トン-CO ₂	-	-	-	40.8	算定中	
		5. 事業活動から出る廃棄物	千トン-CO ₂	-	-	-	2.6	算定中	
		6. 出張	千トン-CO ₂	-	-	-	0.3	算定中	
		7. 雇用者の通勤	千トン-CO ₂	-	-	-	1.2	算定中	
		8. リース資産（上流）	千トン-CO ₂	-	-	-	該当なし	算定中	
		9. 輸送、配送（下流）	千トン-CO ₂	-	-	-	4.0	算定中	
		10. 販売した製品の加工	千トン-CO ₂	-	-	-	2.6	算定中	
		11. 販売した製品の使用	千トン-CO ₂	-	-	-	8.8	算定中	
		12. 販売した製品の廃棄	千トン-CO ₂	-	-	-	17.2	算定中	
		13. リース資産（下流）	千トン-CO ₂	-	-	-	該当なし	算定中	
		14. フランチャイズ	千トン-CO ₂	-	-	-	該当なし	算定中	
		15. 投資	千トン-CO ₂	-	-	-	該当なし	算定中	
電力購入量		国内	Mwh	240,834	249,829	251,998	228,618	226,292	キュービーグループ 生産工場・オフィス
		海外	Mwh	34,345	39,748	38,586	40,632	37,825	キュービーグループ 生産工場
再生可能エネルギー量		国内	Mwh	26	366	313	330	469	キュービーグループ 生産工場・オフィス
		海外	Mwh	0	0	1,078	1,362	2,362	キュービーグループ 生産工場
NOx排出量		国内	トン	40.0	40.8	37.9	32.7	31.3	キュービーグループ 生産工場
SOx排出量		国内	トン	11.2	10.8	9.4	8.9	8.5	キュービーグループ 生産工場

「環境」に関するデータは、特に記載のない限りキュービーグループおよび連結子会社を対象とする。

環境

Scope3の算定方法		
カテゴリ	算出方法	対象排出原単位等
1. 購入した製品・サービス	重量あたり原単位	原材料・資材購入重量
2. 資本財	投資金額あたり原単位	設備投資額
3. Scope1, 2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動	CFP－DB、SC－DB	エネルギー種別の使用量
4. 輸送、配送（上流）	トンキロ法/輸送時の排出原単位	荷主輸送/調達物ごとの輸送シナリオ活動量
5. 事業活動から出る廃棄物	重量あたり原単位	排出物重量
6. 出張	従業員数あたり原単位	従業員数
7. 雇用者の通勤	従業員数・勤務日数あたり原単位	従業員数・営業日数
8. リース資産（上流）	Scope1,2に算入済	Scope1,2に算入済
9. 輸送、配送（下流）	輸送時の排出原単位	出荷重量、製品輸送はシナリオ
10. 販売した製品の加工	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
11. 販売した製品の使用	製品ごとの間接消費エネルギー	製品群ごとの販売数量
12. 販売した製品の廃棄	重量あたり原単位	製品に使用した包材重量
13. リース資産（下流）	該当なし	該当なし
14. フランチャイズ	該当なし	該当なし
15. 投資	該当なし	該当なし

社会

人材								
		単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	備考
グループ従業員数		人	25,245	26,380	24,651	24,856	25,271	キュービーグループ
常時雇用者数	合計	人	14,095	14,924	14,808	15,452	16,003	キュービーグループ
	男	人	8,765	9,282	9,249	9,549	9,838	
	女	人	5,330	5,642	5,559	5,903	6,165	
平均臨時雇用者数		人	11,150	11,456	9,843	9,404	9,268	キュービーグループ
常時雇用者数	合計	人	2,510	2,523	2,508	2,447	2,426	キュービー単体
	男	人	1,381	1,388	1,382	1,335	1,308	
	女	人	1,129	1,135	1,126	1,112	1,118	
平均臨時雇用者数	合計	人	926	853	774	738	569	キュービー単体
	男	人	303	270	243	233	179	
	女	人	623	583	531	505	390	
従業員数	合計	人	3,436	3,376	3,282	3,185	2,995	キュービー単体社員
平均勤続年数	男女平均	年	13.7	14.2	14.7	15.1	15.3	キュービー単体社員
	男	年	16.8	17.1	17.5	17.8	18.0	
	女	年	10	10.7	11.3	11.9	12.2	
平均年齢	男女平均	年	38.7	39.2	39.8	40.3	40.5	キュービー社員
	男	歳	42.2	42.5	43	43.3	43.3	
	女	歳	34.3	35.2	35.9	36.6	37.1	
離職率（新卒者の3年未満の離職率）		%	9	9.1	7	7.3	20.4	キュービー単体新卒総合職のみ
新入社員数	合計	人	41	49	49	50	53	キュービー籍新卒総合職のみ
	男	人	26	30	28	24	35	
	女	人	15	19	21	26	18	
女性役員比率		%	11.1	11.8	12.5	13.3	18.8	キュービー単体 社外役員、社外監査役、監査役含む
女性管理職比率		%（%）	7.0（6.6）	7.4（6.9）	8.2（7.1）	9.2（7.9）	10.2（8.5）	キュービー単体 （）内は国内食品事業全体
女性リーダー		人（人）	43（90）	46（98）	52（98）	59（111）	65（121）	上記比率の管理職人数 （）内は国内食品事業全体
社員研修費用		百万円	165	175	210	211	189	キュービーグループ従業員含む 人材育成センターで行われた研修費等
人権研修参加者		人	8,157	8,164	8,354	9,010	7,964	※研修の名目のためアンケート数は除く
障がい者雇用率		%	3.02	3.30	3.54	3.60	3.67	国内キュービーグループ （物流システム事業除く） ※2020年12月1日現在
定年再雇用希望者		人	0	2	0	25	25	キュービー籍社員 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 2017年度の2名は60歳時点で定年退職 を選択しシニア社員を希望した社員
定年再雇用率		%（%）	-	-	-	83（100）	78（100）	キュービー籍社員 （）内は希望者の再雇用率 ※2016年定年延長（60歳⇒63歳） 希望者以外の定年退職無し

労働

「社会」に関するデータは、特に記載のない限りキュービー株式会社を対象とする。

ガバナンス

取締役会の独立性

			単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
取締役	社内取締役	男性	人	9	9	6	2021年2月26日現在
		女性		0	0	0	
		合計		9	9	6	
	独立社外取締役	男性		1	1	2	
		女性		1	1	1	
		合計		2	2	3	
	合計			11	11	9	
独立社外取締役比率			%	18.2	18.2	33.3	
開催回数			回	12	11	未開催	

監査役会

監査役会			単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
監査役	社内監査役	男性	人	2	2	2	2021年2月26日現在
		女性		0	0	0	
		合計		2	2	2	
	独立社外監査役	男性		1	1	1	
		女性		1	2	2	
		合計		2	3	3	
	合計			4	5	5	
開催回数			回	12	12回	未開催	

ガバナンス

指名・報酬委員会

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
指名・報酬委員会	人	6	6	7	2021年2月26日現在
社内取締役		3	3	3	
社外取締役・監査役		2	2	4	
社外有識者		1	1	-	

役員報酬

		2020年度				備考
		支給人数 (人)	支給額 (百万円)	賞与 (百万円)	総支給額 (百万円)	
取締役	取締役（社外取締役を除く）	9	237	93	331	2021年2月26日
	社外取締役	2	25	-	25	
	合計	11	263	93	356	
監査役	監査役（社外監査役を除く）	2	42	-	42	
	社外監査役	3	28	-	28	
	合計	5	70	-	70	
合計		16	333	93	427	

株主権

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
買収防衛策の有無	-	有	有	有	

株主・投資家・アナリスト向けの説明会の開催

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
定時株主総会	回/年	1	1	1	
アナリスト向け決算説明会	回/年	2	2	-	
株主優待見学会	回/年（事業所）	2（3）	0	-	※新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み開催見送り

コンプライアンス

	単位	2019年度	2020年度	2021年度	備考
ヘルプライン（内部通報制度）への通報・相談件数	件	28	38	-	
全従業員の意識調査アンケート回答率	%	-	89.3	-	※2年おきに実施

支払法人税額

	単位	2018年度	2019年度	2020年度	備考
連結会計総額	百万円	11,998	10,203	8,664	

サステナビリティ

サステナビリティトップ	>
トップメッセージ	>
サステナビリティマネジメント	+
健康な食生活への取り組み	+
食育を中心とした社会への取り組み	+
環境への取り組み	+
ガバナンス	+
人と働き方への取り組み	+
安全・安心への取り組み	+
開示方針	>
各種報告書	>
GRIスタンダード対照表	>
ESGデータ集	>
社会・環境活動の歴史	>
キューピーグループ オフィシャルブログ	>

社会・環境活動の歴史

西暦	社会活動	環境活動
1956年		卵殻を天日で干し、土壌改良剤として農家に販売を開始
1960年	財団法人ベルマーク教育助成財団への協賛開始	
1961年	オープンキッチン(工場見学)を開始	
1962年	「キューピー3分クッキング」放映開始	
1963年		廃棄物削減を合理化の一環として取り組み開始
1969年		卵殻の破碎・乾燥設備を導入(旧仙川工場)
1971年		活性汚泥による排水処理設備を導入(1975年に全工場に整備)
1973年	食と健康の知識の普及をはかる「キューピーニュース」発行	
1975年	食生活に関するビデオの配布開始	
1978年	日本合唱連盟・朝日新聞社主催の「全日本ママさんコーラス大会」(現「全日本おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1980年	那覇ママさんコーラスまつり(現「全沖縄おかあさんコーラス大会」)の協賛開始	
1981年		卵殻を食品用カルシウムとして発売(膜除去技術の確立により実現、商品名「カルホープ」)
1984年	「食」をテーマとする講演会活動を開始	
1991年		環境問題検討委員会を設置(委員長:生産本部長)
		卵殻膜を加工、化粧品原料として発売
1992年		容器減量化を推進(ドレッシングびんを丸形・軽量びん化など)
1993年		安全・環境に関するグループ各社相互点

		検システムを確立
1997年		環境担当役員、環境対策室を設置
		環境委員会(委員長:環境担当役員)を全社組織に改組
		卵殻膜を素材としたうまみ調味料を発売(商品名「卵醤」) ※現在は販売しておりません
1998年		容器包装の環境影響評価基準を制定
		グリーン購入の基本原則を制定、OA用紙ガイドラインを作成・運用開始
		環境保全のための基本方針を制定(部門ごとの目標を設定し活動)
2000年		マヨネーズ容器、段ボール箱の減量化、仕切り板廃止などを実施
		伊丹工場でISO14001の認証取得
		NPO法人「霧多布湿原ナショナルトラスト」への協賛および寄付を開始
2001年		「環境報告書」の発行開始
		五霞工場でISO14001の認証取得
		グループ環境マネジメントマニュアルを制定
2002年	マヨネーズ教室を開始	キューピー全工場の廃棄物焼却炉を廃止
	東京水産大学(現 東京海洋大学)大学院に「ヘルスフード科学(中島董一郎記念)寄附講座」を設立	五霞工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2003年		キューピー全工場で廃棄物の再資源化率100%達成
2004年	キューピーニュースが第4回消費者教育教材資料表彰(主催:財団法人消費者教育支援センター)の優秀賞を受賞	鳥栖工場でISO14001の認証取得
2005年	CSR担当役員任命、環境対策室を社会・環境推進室に改組	中河原工場でISO14001の認証取得
		「環境・社会報告書」の発行を開始(「環境報告書」に社会活動に関する内容を付加)
2006年	渋谷音楽祭への協賛開始	「チーム・マイナス6%」に参加
		八都府県市「容器包装ダイエット宣言」に参加

	「社会・環境報告書」の発行を開始(社会性の記述を増やし、冊子版とウェブ版を発行)	
2007年	フードバンク活動への支援開始	キューピー富士吉田工場でISO14001の認証取得
	「社会と環境について語るブログ」開始	水源涵養を目的として森林保全活動「キューピーの森」を山梨県富士吉田市で開始
2008年	マッチングギフト制度「Q P e a c e」開始	段ボールの印刷に使用するインクを39色から標準色18色に集約
	「社会と環境について語るブログ」が環境goo大賞(ブログ部門)受賞	
2009年	社会・環境推進室と法務・知的財産室を再編し、CSR推進本部を設置、社会・環境推進室を社会・環境推進部に改組	
	キッザニア甲子園に「マヨネーズ工場」パビリオン出展	営業車にハイブリッドカー「プリウス」を導入
2010年	三國清三シェフを講師に迎えた「家族でわくわくクッキング」を開始	
2011年	第32回食品産業優良企業等表彰CSR部門で「農林水産大臣賞」を受賞	
	公益財団法人ベルマーク教育助成財団が行う東日本大震災被災地の教育援助活動に対し5年間の寄付を開始	
2012年	社会・環境推進部と広報室を再編し、広報・CSR本部を設置	
	幼児向け絵本の製作・発行(年1冊ずつ2016年まで実施)	
	アヲハタ ジャム工場内に見学施設「アヲハタ ジャムデッキ」をオープン	
2013年	お茶の水女子大学に寄附研究部門「食と健康」を設立	加藤産業様、キューソー流通システム、キューピー連携のグリーン物流の普及拡大により、グリーン物流パートナーシップ会議特別賞を受賞
	ダンスコンクールの協賛開始	キューソー流通システム松戸営業所・伊丹第三営業所、ケイパックに太陽光発電設備導入
	「広島県とアヲハタ株式会社との包括的連携に関する協定」を締結	「キューピーの森」第二期活動開始
2014年	仙川キューポート内に見学施設「マヨテラス」をオープン	エコプロダクツ2014年の環境省「Fun to Share」ブース内に卵殻活用事例を展示
		キューソー流通システム所沢物流センター、キューピー醸造滋賀工場に太陽光発電設備導入

		九都県市「容器包装ダイエット宣言」に参加。関東圏スーパー75店舗のキャンペーンで容器軽量化を行った商品を紹介
		ポテトピール(主にじゃがいもの皮と芽)の飼料化開始(養豚用)
2015年	社会・環境推進部をCSR部に改組	
		長距離輸送(500km以上)のモーダルシフトの推進開始
		パッケージサラダ(一部商品)消費期限延長
		グリーンファクトリーセンター、キューピー富士吉田工場に太陽光発電設備導入
2016年	渋谷区との「シブヤ・ソーシャル・アクション・パートナー協定」を締結	キューピー マヨネーズ(一部容量)とキューピーハーフの賞味期間を延長(食品ロス削減)
		「キューピーの森」第三期活動開始
		「エネルギー1/2」をコンセプトとしたキューピー神戸工場の操業開始
		遠州デリカ※、五霞工場に太陽光発電設備導入 ※ 現サラダクラブ遠州工場
2017年	株主総会にてCSRの展示を実施	
	CSR委員会を設置 環境委員会を食育・社会貢献を含むCSR全体を推進する組織に改編	
	キューピー神戸工場オープンキッチン(工場見学)を開始	グリーンファクトリーセンターに太陽光発電設備増設
	一般財団法人 キューピーみらいたまご財団設立(2019年4月に公益財団法人に移行)	キューピー富士吉田工場 平成28年度関東地区電気使用合理化委員会委員長表彰 「事業所 最優秀賞」を受賞
	第1回 地域の居場所づくりサミット開催(一般財団法人 キューピーみらいたまご財団)	工場で発生する野菜残渣で染めたエプロン(FOOD TEXTILE)をマヨネーズ教室で採用
		野菜残渣のサイレージ化を開始(グリーンメッセージ)
2018年	「CSRの基本的な考え方」と「CSRの重点課題」を策定	
	健康経営優良法人2018(ホワイト500)認定	キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針の策定
	プラチナくるみん認定	キューピーで初めて「年月表示」を開始(市販用介護食「やさしい献立」シリーズ キューピー サステナビリティサイト2021

		レトルトパウチ)
	広島市と包括連携協定を締結(地産地消や食育、健康増進の取り組みなどを推進)	キューピードレッシングのガラス瓶容器をプラスチックボトル化(原料調達、容器製造、容器輸送までにおいて、温室効果ガス(GHG)を約20%削減)
	「あいち みんなのサラダ」プロジェクト実行委員会設立(愛知県民の野菜摂取量増加を応援)	キューピータイランドで太陽光発電施設導入
		キューピー、ライオン、日本パレットレンタルの異業種3社による共同幹線輸送を開始
		平成30年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰をキューピー株式会社と株式会社グリーンメッセージが内閣総理大臣賞を受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
		平成30年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰 国土交通大臣表彰を受賞
		RSPO [※] に加盟 (※ RSPO:持続可能なパーム油のための円卓会)
2019年	「サステナビリティ目標」を設定	
	健康経営優良法人2019(ホワイト500)2年連続認定	野菜廃棄物ゼロ化完了 (サラダクラブ遠州工場)
	マヨネーズ教室(出前出張)累計参加人数10万人達成	「キューピードレッシング ステットイクタイプ」の外装に再生プラスチック使用
	創業100周年イベント「キューピー 笑顔を届ける音楽会」を全国各10カ所の幼稚園・保育園と介護施設で開催	キューピー、サンスター、日本パレットレンタルに3社によるトラックと船舶を組み合わせた3社共同輸送(関西・九州間)を開始
	山形県と包括連携協定を締結(地域の活性化と市民の生活の質向上を目的とした地域創生の推進)	第6回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピー株式会社と株式会社グリーンメッセージが受賞 (野菜の未利用部を活用した資源循環の推進)
	AIを活用した食品の原料検査装置の取り組みにおいて、キューピー株式会社が「IT JapanAward 2019」準グランプリを受賞	令和元年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰 農林水産大臣賞をキューピー株式会社とキューピータマゴ株式会社が受賞 (卵殻の付加価値化と社会貢献への挑戦)
	ディープラーニングを活用した食品のAI原料検査装置の取り組みにおいてキューピー株式会社が、「ディープラーニン	

	グビジネス活用アワード(日経xTECH主催)」大賞を受賞	
2020年	組織再編により、経営推進本部にサステナビリティ推進部(旧CSR部)を設置	
	サステナビリティ担当取締役を委員長とするサステナビリティ委員会(旧CSR委員会)を設置	
	CSRサイトをサステナビリティサイトへ名称変更	
	健康経営優良法人2020(ホワイト500)3年連続認定	旬菜デリ昭島事業所で太陽光発電設備導入
	AIを活用した原料検査装置でキューピー株式会社が第2回日本オープンイノベーション大賞農林水産大臣賞を受賞	野菜廃棄物ゼロ化3工場で完了(サラダクラブ三原工場・サラダクラブ真庭工場)
	キューピー株式会社が知的財産権制度活用優良企業として令和2年度「知財功労賞」特許庁長官表彰を受賞	野菜廃棄物ゼロ化4工場で完了(サラダクラブ五霞工場)
	「がん予防サービス」の展開を視野に東京家政大学とマイクロRNAの測定装置を共同研究開始	第7回「食品産業もったいない大賞」農林水産省食料産業局長賞をキューピー株式会社とキューピータマゴ株式会社が受賞(卵殻と卵殻膜の価値探求と食と健康への貢献)
	令和2年度 革新的ロボット研究開発等基盤構築事業 ロボットフレンドリーな環境構築支援事業(惣菜の盛り付け作業のロボット化をパートナー企業と共に、低価格で実現することを目指しての参画)に採択	再生プラスチックを「キューピー ドレッシング スティックタイプ」の外装に採用
	松本市・松本大学と共同研究の成果を発表 健康的な食生活提案	「サラダクラブ 素材パウチ」シリーズ12品に植物由来のプラスチックを採用 全品の賞味期間延長と年月表示
	渋谷区と共同で食生活と健康の関連を調査開始	環境賞「プラスチック・スマート」キャンペーンに参加
	NEDOが公募する「人と共に進化する次世代人工知能に関する技術開発事業」の「説明できるAIの基盤技術開発」(研究開発項目[1]:「人と共に進化するAIシステムの基盤技術開発」の一つ)に採択	CLOMA (Japan Clean Ocean Material Alliance) に加盟
	キューピー株式会社が令和2年度 イノベーション創出強化研究推進事業に採択 (低価格・高精度・高速な食品原料外観・内部AI検査装置の研究開発)	
	初のオンライン社会科見学をキューピー挙母工場・キューピー神戸工場で実施	
	マヨテラスでオンライン見学を開始	
2021年	サステナビリティに向けた重点課題とサステナビリティ目標を見直し	

※ 5月末時点	オンライン離乳食教室をキューピー鳥 栖工場で開始	キューピー広州工場オール電化設備を 導入
	キューピーグループ人権方針を策定	キューピー ベビーおやつ「たまごたっ ぷりぼうろ」パッケージのプラスチック 使用量を約25%削減

対象:キューピーおよびグループ各社
本年表は、当時の活動内容を掲載しています